

大 学 院 要 項

2025 年度



杏 林 大 学

大学院医学研究科（博士課程）

建学の精神

真善美の探究

国家の興隆、人類の繁栄そして世界の平和の真の基礎は教育にあるといっても過言ではない。教育こそは人類社会の全ての原点である。本学はこのような信念に立脚し、真・善・美の探究を通じて人間形成をはかることを建学の精神として、国家と人類社会の興隆と繁栄に役立つ有為な人材の育成に努める。

- 「真」 真実・真理を究めるための学問をすることです。
真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味します。
- 「善」 倫理観を持ったよき人間性・人格を形成することです。
他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことです。
- 「美」 真理に対し謙虚に学ぶ姿勢を持ち、他人を尊重し、自らの身を持つのに厳しく、美しいものを美しいと感じる感性を磨くよう努めれば、自然に美しい立派な風格のある人間に成長していくことを意味しています。

— 目 次 —

学生便覧

I. 総論			
杏林大学学長あいさつ	5	担当教員表	12
医学研究科長あいさつ	6	共同研究施設担当教職員	14
沿革	7	担当教員専門分野・研究テーマ	15
大学名の由来	7	授業科目	23
杏林大学シンボルマーク	7	カリキュラムマップ	32
学校法人杏林学園組織図	8	医学研究科行事日程	43
医学研究科組織図	10	三鷹キャンパス施設案内	44
II. 学修要綱			
1. 理念・目的	46	9. 時間割	50
2. 教育目標	46	10. 学位論文作成に至る 研究指導の態勢について	50
3. カリキュラム・ポリシー、 ディプロマ・ポリシー	46	11. 学位取得の手続き	51
4. 課程の修了要件	48	12. 特例（早期修了）学位審査	51
5. 学位	48	13. 国内留学について	52
6. 指導教授	48	14. 海外留学について	52
7. 授業科目および履修申告、 履修認定について	48	15. 社会人学生について	52
8. 成績評価	50	16. コース変更について	53
		17. 共同研究施設の利用について	53
III. 学生生活			
1. 身分関係	55	8. 医師国民健康保険の加入	63
2. 学生生活の留意事項 （学納金・各種証明書等）	56	9. 図書館	64
3. 自転車・バイク及び自動車の 乗り入れについて	60	10. コンピュータ室の利用	64
4. 経済生活	60	11. 杏林大学学内LAN	64
5. 健康管理	61	12. 学生用Wi-Fiについて	65
6. 学生相談	62	13. 学生用メールアドレスと Microsoft365について	66
7. 学生教育研究災害傷害保険制度	63	14. ソーシャルメディアの利用	66

共同研究施設部門

電子顕微鏡部門	69
放射性同位元素部門	73
フローサイトメトリー部門	75
蛋白質・核酸解析部門	82
生体機能実験部門	85
実験動物施設部門	89

剽窃防止マニュアル

論文や研究レポート作成時における資料・データの利用について	95
-------------------------------	----

規則等

杏林大学大学院学則	102
杏林大学大学院医学研究科履修規程	132
杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規	142

1. 総論

序

杏林大学大学院医学研究科は、医学部を卒業した後、基礎医学の研究者をめざす方々、研究心を持ってさらに深く臨床医学を極めようとする方々、さらには、医学部以外の学部出身者で基礎・臨床医学に興味を持ち、医学的立場から生命科学を研究しようという方々などを対象に、研究活動を通して医学をより深く学ぶとともに、高度の専門性が求められる医療人となるための深い学識ならびに卓越した能力を培うことを目的として設置されたものです。

本研究科ではその目的の達成のために、医学研究科教務委員会が各学生の履修状況、研究進捗状況を把握して学生本人ならびに指導教員への助言・調整を行うなど、指導教員のみならず、研究科全体で学生の研究指導を支える体制が構築されています。

本研究科は1976年に開設され、2025年3月までに課程博士538名、論文博士645名、計1,183名を世に送り出してきた実績があります。この「大学院要項」をよき指針として、本研究科の資源を最大限に活用し、皆さん各々、所期の目的の達成に向けて邁進されることを期待致します。

学長 渡邊 卓

杏林大学大学院医学研究科（博士課程）について

医学・医療分野は、分子標的薬、遺伝子治療、再生医療、新技術の手術法、画像診断技術、AIの導入など急速に進歩しています。また、臨床医の研修医制度や専門医制度改革によって、臨床医の教育体制も変化しています。そのなかで、医学、医療の発展のためには、高度な学識と技術を備えたりサーチマインドを身につけた医師の人材育成が非常に重要です。本研究科の理念・目的は、人の健康を増進させる生命科学である医学に関する研究を追究することで、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材、豊かな人間性と倫理観・使命感あふれるプロフェッショナルとしての医療人を養成することです。そのために、本研究科では、基礎医学系と臨床医学系などの専攻分野にまたがる複数の指導者が、大学院生の研究活動を支援するための教育体制を推進しています。

2022年度からは、基礎系、臨床系のすべての研究分野の協力体制の円滑化を掲げて、これまで生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の5つに分かれていた専攻分野を医学系専攻一つに統合する研究科構成に変革しました。そして、大学院在学中に医学研究の基盤となる科学的思考や基本的知識の修得を図るために、各分野からの大学院講義に加えて、全大学院生共通の必須研究指導科目を配置し、専門分野以外の教員からも指導を受けやすく致しました。さらに、大学院生の各研究における進行過程の助言や検証を他分野領域の指導者からも受けられる研究報告会や公開論文発表会などの機会も設けています。そして、基礎系、臨床系の相互協力による複数の専門分野の特性を生かした指導を受けることによって、科学的思考を深めた次世代をリードできる資質を備えた医師・医学者を養成し、より良い研究成果が得られるような教育体制を整備しています。

加えて生涯研究を志したい社会人が、本務に就いたまま大学院での研鑽を継続できる社会人大大学院生の環境も整えております。具体的には専門医資格の取得への道と学位授与に値する臨床あるいは基礎研究の両者を併せ有した医師を育成し、社会へ貢献されることを期待しています。

杏林大学大学院医学研究科は、広く学内・学外から医学研究に情熱を有し、明日の医学の進歩に寄与せんとする若き諸兄妹の入学を強く望んでおり、各大学院生が輝かしい将来への道を見出していただくことを目指しております。

医学研究科長 平形 明人

沿革

昭和 45 年 4 月 1 日	杏林大学医学部開設
昭和 45 年 8 月 1 日	杏林大学医学部附属病院開設
昭和 51 年 4 月 1 日	杏林大学大学院医学研究科博士課程開設

大学名「杏林」の由来

「杏林大学」の名は、中国に伝わる一つの故事に由来しています。
その昔、中国は廬山というところに董奉（とうほう）という医師がいました。
彼は人に尽くすために治療を行ってあえて治療代を受け取らず、その代わりに
病気が治った人には、記念として杏の苗を植えてもらいました。
そうして、いつしか 10 万余株の杏の木がうっそうと茂る大きな林ができあが
ったといわれています。
この故事から後世良医のことを杏林と呼ぶようになりました。
この故事に因んで名付けた杏林大学は、専門的知識や技術にすぐれているだけ
でなく、立派な人格を持った良き医師など社会に貢献することのできる良き職
業人を育成することを目指しています。

杏林大学シンボルマーク

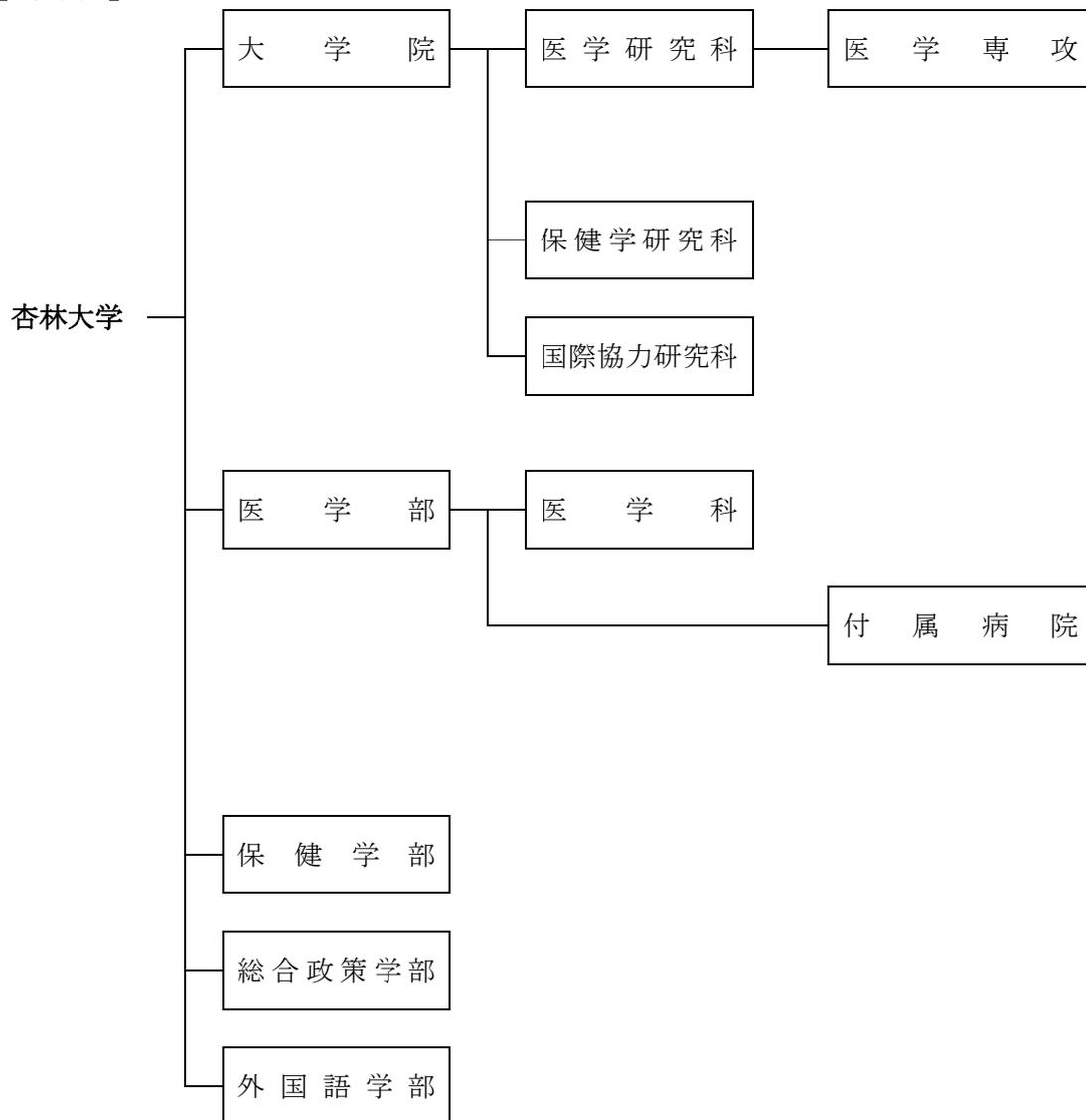


建学の精神「真・善・美の探究」の三つの要素が相互に関連して
いることを三角形で表しています。

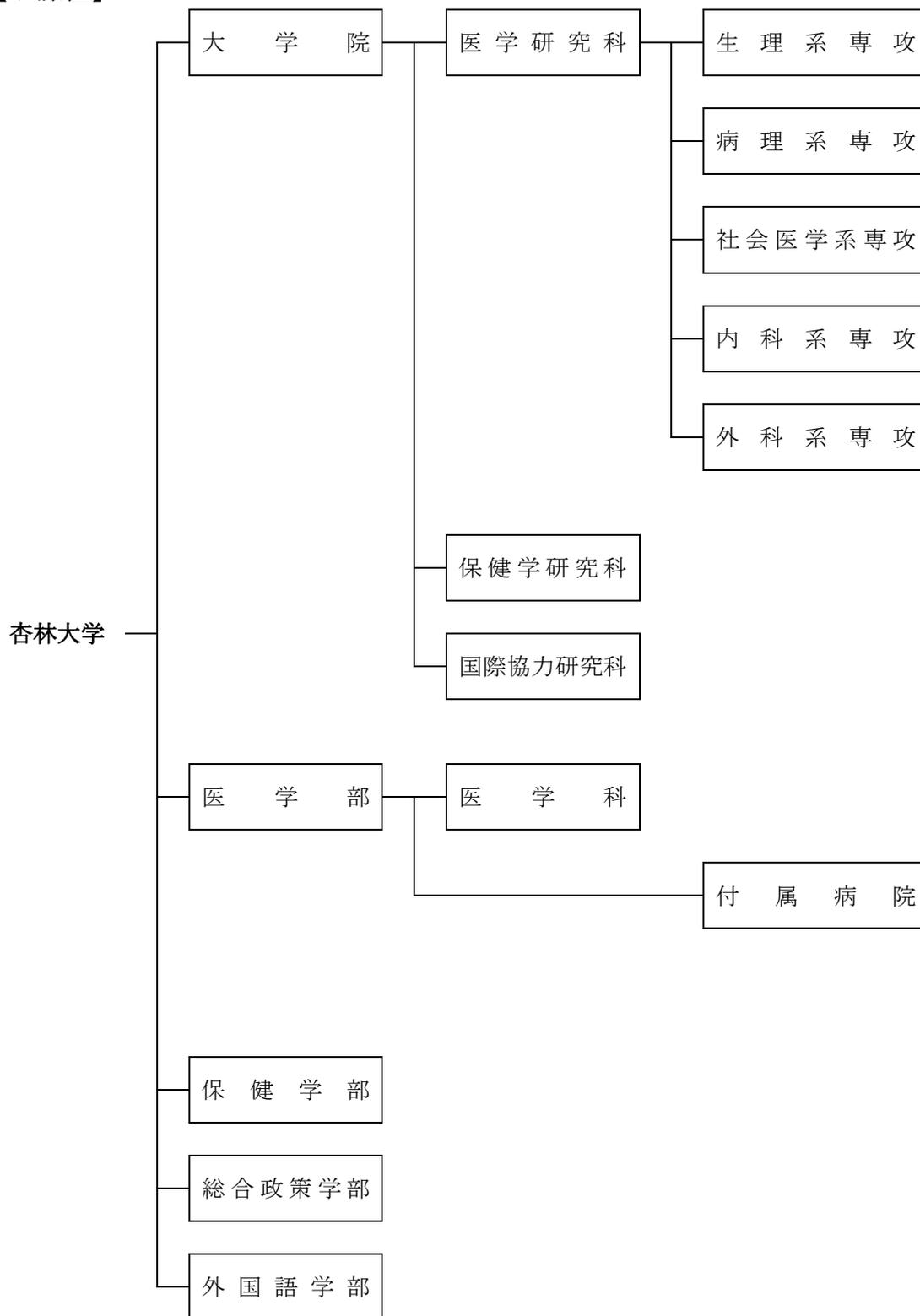
双方から同じ力に支えられ、安定した不変の角が「真」を表し、
豊かな曲線に囲まれた角は「善」、美しい曲線を描いて天空に伸
びる角は「美」を、そして、「杏林」が意味している「社会への
貢献」を進めていく新しい風を表しています。

杏林学園組織図（学部学科・大学院研究科構成）

【新課程】

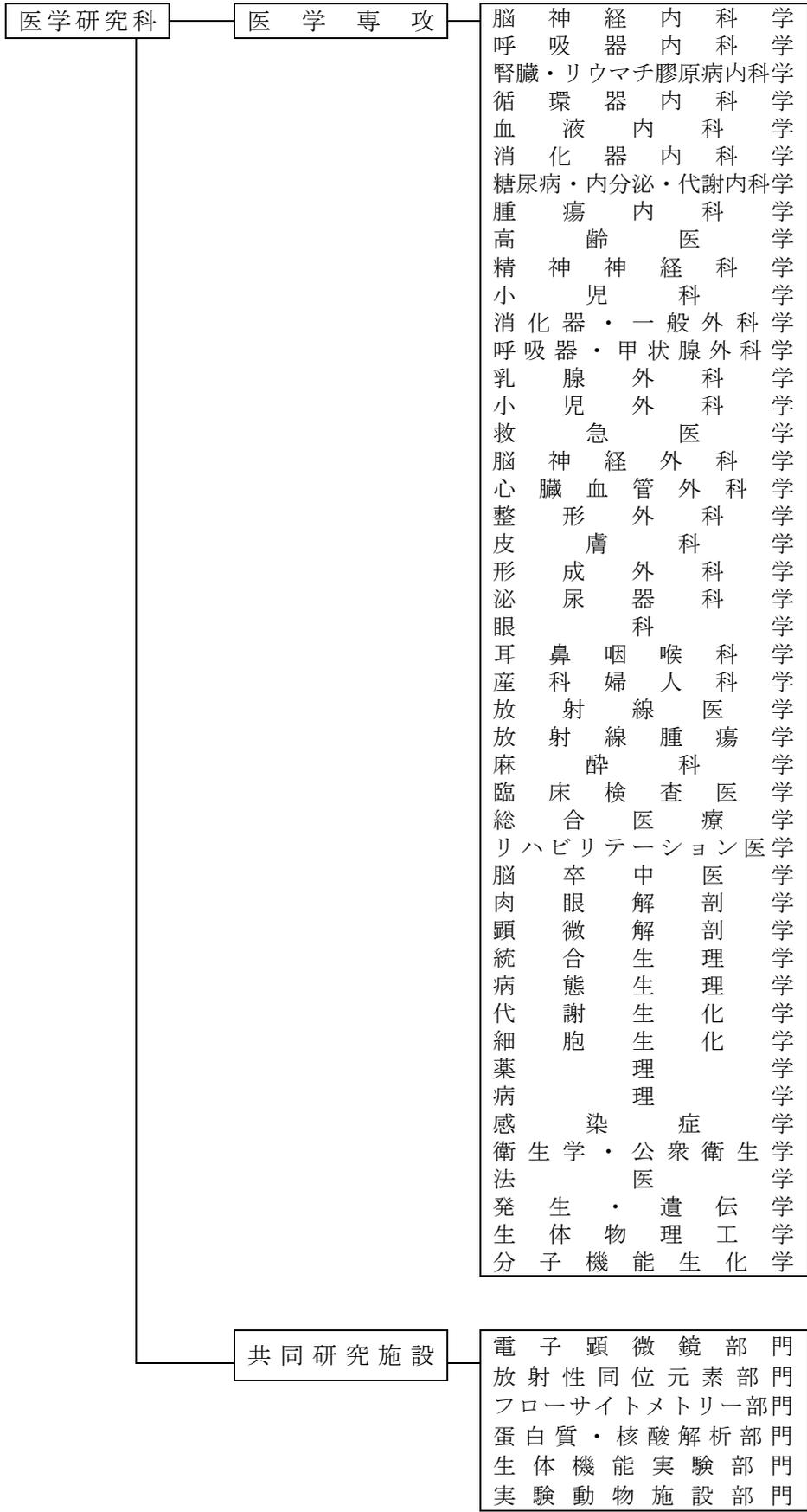


【旧課程】



杏林大学大学院医学研究科組織図

【新課程】



【旧課程】

医学研究科	生理系専攻	器官構築学分野 病態生化学分野 生体機能制御学分野 分子細胞薬理学分野	肉眼解剖学コース 顕微解剖学コース ゲノム・遺伝学コース 分子細胞生物学コース 代謝生化学コース 分子機能生化学コース 病態生理学コース 統合生理学コース 生体理工学コース
	病理系専攻	病理学分野 感染症・熱帯病学分野 臨床検査医学分野	
	社会医学系専攻	社会医療情報学分野 法科学分野	
	内科系専攻	内科学分野 脳卒中医学分野 加齢医学分野 総合医療学分野 小児科学分野 精神神経科学分野 皮膚科学分野 放射線医学分野	呼吸器内科学コース 神経内科学コース 腎臓・リウマチ膠原病内科学コース 循環器内科学コース 血液内科学コース 消化器内科学コース 糖尿病・内分泌・代謝内科学コース 腫瘍内科学コース
	外科系専攻	外科学分野 救急医学分野 整形外科学分野 脳神経外科学分野 心臓血管外科学分野 産科婦人科学分野 眼科学分野 耳鼻咽喉科学分野 泌尿器科学分野 麻酔科学分野 小児外科学分野 形成外科学分野	消化器・一般外科学コース 呼吸器・甲状腺外科学コース 乳腺外科学コース 整形外科学コース リハビリテーション医学コース
	共同研究施設	電子顕微鏡部門 放射性同位元素部門 フローサイトメトリー部門 蛋白質・核酸解析部門 生体機能実験部門 実験動物施設部門	

医学研究科 2025 年度担当教員

2025 年 4 月 1 日

※○は杉並病院

教室名	教授	臨床教授	准教授	講師	学内講師	助教	任期制助教
脳神経内科学		市川弥生子			内堀 歩 大石知瑞子	徳重真一	
呼吸器内科学	石井晴之	皿谷 健		中本啓太郎○		佐田 充	麻生純平 布川寛樹
腎臓・リウマチ膠 原病内科学		駒形嘉紀	岸本暢將 川上貴久 軽部美穂○	鮎澤信宏	川嶋聡子 西岡典宏 早川哲○		
循環器内科学	副島京子 村田光繁 矢田浩崇○	河野隆志	松尾征一郎 合田あゆみ 小山幸平	伊波 巧 西尾 智	南島俊徳 星田京子 野々口紀子 斉藤竜平		三浦陽平 舟橋紗耶華 毛利崇人 三浦佑介 中丸 遼 伊藤準之助○ 中田千穂○
血液内科学	荒井俊也		佐藤範英				
糖尿病・内分泌代 謝内科学	安田和基			田中利明		高橋和人	
消化器内科学	久松理一	松浦 稔 大森鉄平○	土岐真朗 三好 潤	林田真理 大野亜希子 齋藤大祐○		關 里和 森久保拓	小栗典明 日比則孝○
腫瘍内科学	廣中秀一	長島文夫		水谷友紀		岡野尚弘	
高齢医学	神崎恒一						
精神神経科学	渡邊衡一郎	中野正寛○	坪井貴嗣	櫻井 準			松本泰幸
小児科学	成田雅美	吉野 浩	保崎明 細井健一郎 倉山亮太○	田中絵里子 高橋昌兵○	宮田世羽 麓 聖子 木内善太郎	瀧浦俊彦	
消化器・一般外科 学	阪本良弘 阿部展次 須並英二	鈴木 裕○		竹内弘久 吉敷智和 大木亜津子 小暮正晴		片岡 功○	小島洋平 本多五奉 麻生喜祥 蓮井宣宏
呼吸器・甲状腺外 科学	近藤晴彦	橋本浩平	田中良太 橘 啓盛	中里陽子	須田一晴	新井信晃	渋谷幸見
乳腺外科学	井本 滋			関 大仁			
小児外科学	浮山越史						
救急医学	山口芳裕 松田剛明		海田賢彦	加藤聡一郎	持田勇希	稲田成作	
脳神経外科学	田中洋次		野口明男 丸山啓介	小林啓一 永山和樹○	吉田裕毅○	佐々木重嘉	
心臓血管外科学	窪田 博	細井 温	遠藤英仁 峯岸祥人 伊佐治寿彦		木村 賢 池添 亨○		

教室名	教授	臨床教授	准教授	講師	学内講師	助教	任期制助教
整形外科	細金直文 森井健司	佐々木茂○	高橋雅人	佐藤行紀 田島 崇 長谷川淳○		竹内拓海 弘實 透	
皮膚科学	大山 学	早川 順○	倉田麻衣子	木下美咲	下田由莉江	福山雅大	早川怜那
形成外科学	多久嶋亮彦	大浦紀彦 尾崎 峰	白石知大				
泌尿器科学	福原 浩	多武保光宏	加藤司顯○	金城真実 中村 雄			
眼科学	井上 真 平形明人 岡田アナベル あやめ 山田昌和	慶野 博 北 善幸○	厚東隆志 鈴木由美 片岡恵子 石田友香○ 渡邊交世○	松木奈央子 福井正樹			
耳鼻咽喉科学	齋藤康一郎	増田正次 横井秀格○	池田哲也	菊地 瞬			手塚里奈 三木貴仁
産科婦人科学	小林陽一 谷垣伸治	森定 徹 鈴木淳○	田嶋 敦	松本浩範 百村麻衣	澁谷裕美 松島実穂	渡邊百恵	
放射線医学	横山健一	須山淳平○	片瀬七朗 小野澤志郎	五明美穂		志賀久恵	貞岡亜加里○
放射線腫瘍学	江原 威						
麻酔科学	森山 潔 徳嶺讓芳	中澤春政 関 博志		小谷真理子 鶴澤康二○	渡辺邦太郎	安藤直朗	
臨床検査医学	大西宏明		安戸裕貴	大塚弘毅○			
総合医療学	長谷川浩	武井秀史 花輪智子	一二三亨				須田智也 井坂 葵 平吹一訓 ナガノデボラ サチエ
予防医学		徳永健吾					
臨床感染症学		倉井大輔					
リハビリテーション医学	山田 深		辻川将弘○	田代祥一			
脳卒中医学	平野照之		海野佳子 河野浩之		本田有子		

教室名	教授	研究教授	准教授	講師	学内講師	助教	任期制助教
肉眼解剖学	長瀬美樹			上野仁之 大石篤郎			
顕微解剖学		宮東昭彦				菅原大介	
統合生理学	大木 紫		八木淳一 渋谷 賢	鈴木伸弥			
病態生理学	寺尾安生		三嶋竜弥			中山高宏 寺田さとみ 渥美剛史	
代謝生化学		菅田慎一		田原義和 山本隆史			
細胞生化学		今泉美佳	青柳共太				
薬理学	櫻井裕之					福富俊之 堅田智久 田中 弦 末弘淳一	
病理学	柴原純二	藤原正親	長濱清隆 林 玲匡 里見介史				日比谷孝志 北濱圭一郎 村田翔平
感染症学	三戸部治郎		森田鉄兵	須藤直樹			
衛生学・公衆衛生学		苅田香苗	吉田正雄	白土 健			
法医学	北村 修			高篠 智	吉田昌記	武市敏明 山田真嗣	
発生・遺伝学	栗崎 健		平井和之 加藤健太郎				
生体物理工学			高原哲士 大谷宗久				
分子機能生化学	丑丸 真		須賀 圭	山本幸子			

医学研究科共同研究施設担当教職員

2025年4月1日

施設名称	部門長	講師	学内講師	助教	助教(任期制)	実験助手
電子顕微鏡部門	宮東昭彦					早川純理
放射性同位元素部門 (R I 部門)	丑丸 真		小藤剛史			佐藤康彦
フローサイトメトリー部門 (F C M 部門)	大山 学	高橋 良				
蛋白質・核酸解析部門	大西宏明					
生体機能実験部門	寺尾安生					岡田智香子
実験動物施設部門	福原 浩		北条 史			

[目次に戻る](#)

担当教員専門分野・研究テーマ

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
脳神経内科学	研究指導教員	臨床教授	市川 弥生子	脳神経内科学, 遺伝医学	1. 遺伝性神経筋疾患の臨床および分子遺伝学的解析 2. ゲノム情報に基づくprecision medicineおよび先制医療に関する研究
脳神経内科学	研究指導補助教員	学内講師	内堀 歩	脳神経内科学, 神経免疫	神経免疫：免疫性神経疾患における自己抗体の検索。ギラン・バレー症候群における抗糖脂質抗体・傍腫瘍性神経症候群関連抗神経抗体・脱髄性ニューロパチーにおけるMAG抗体・急性小脳炎におけるTPI抗体などの抗神経抗体を測定しています。
脳神経内科学	研究指導補助教員	学内講師	大石 知瑞子	脳神経内科学, 臨床神経生理学	臨床神経生理学に関連した臨床研究を中心に行っております。
脳神経内科学	研究指導補助教員	助教	徳重 真一	脳神経内科学, 眼球運動, 時間認知, 脳磁図	パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患と眼球運動の関係について研究を行っています。
呼吸器内科学	研究指導教員	教授	石井 晴之	呼吸器病学, 稀少肺疾患, 胸部画像診断学	呼吸器内科一般 特にびまん性肺疾患（肺胞蛋白症、間質性肺炎）の臨床研究、疫学研究、基礎研究（肺胞マクロファージの形態解析）
呼吸器内科学	研究指導教員	臨床教授	血谷 健	診断学, 感染症学, びまん性肺疾患（膠原病など）	膠原病肺 胸水の鑑別診断 ウイルス感染症と呼吸器疾患 General Medicineと身体所見（聴診など） マイコプラズマ肺炎の重症化に関する病態の解明 無線（電子）聴診器を用いた遠隔医療システムの構築
呼吸器内科学	研究指導補助教員	講師	中本 啓太郎	呼吸器内科学, アレルギー学, 感染症学	気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 呼吸器感染症
呼吸器内科学	研究指導補助教員	助教	佐田 充	呼吸器内科学, ウイルス学	呼吸器ウイルスの基礎研究、アレルギー炎症
呼吸器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	麻生 純平	呼吸器内科学, びまん性肺疾患, 内視鏡診断学	びまん性肺疾患の臨床研究 呼吸器ウイルス
呼吸器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	布川 寛樹	呼吸器内科学, びまん性肺疾患, アレルギー学	画像診断・びまん性肺疾患の臨床研究 気管支喘息の臨床研究
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導教員	臨床教授	駒形 嘉紀	リウマチ・膠原病学, 基礎・臨床免疫学	ANCA関連血管炎発症メカニズムに関する研究：好中球、LDGs、NETs産生細胞、IL-5とその役割について 自己免疫疾患（関節リウマチ・全身性エリテマトーデスなどの膠原病）の発症メカニズムとその治療に関する研究：制御性T細胞(Treg)、末梢ヘルパーT細胞(TpH)、B細胞活性化因子(BAFF)とその役割について
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導教員	准教授	岸本 暢将	リウマチ・膠原病学, 脊椎関節炎および乾癬性関節炎	1. JSAS（日本脊椎関節炎学会）およびAPLAR（アジア環太平洋リウマチ学会）脊椎関節炎（SpA）レジストリの構築 2. ASAS 主導臨床研究（欧米諸国との共同研究） SpAの末梢関節病変等の横断研究としてのASAS PerSPA研究のデータ解析 3. 炎症性腸疾患関連脊椎関節炎に関する前向きコホート研究 4. 掌蹠膿疱症性骨関節炎研究(イスラエル、UK共同研究) 5. 関節リウマチの臨床研究 AMED研究班高齢発症RAレジストリの構築と解析 6. CoEvista Japan Rheumatoid Arthritis (RA)レジストリ研究 現在全国約40施設にご協力いただき約2000人のRA患者さんのデータを蓄積している。今後、主幹施設として解析 7. GRAPPA主導 乾癬性関節炎における治療の有効性に関する性差の分析 〔英文：Sex- And Gender-based analysis of the Effectiveness of advanced therapies in Psoriatic Arthritis (SAGE-PsA Study)〕（カナダとの共同研究）
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導教員	准教授	川上 貴久	腎臓病学, ネフローゼ症候群, 糸球体腎炎, 膠原病関連腎疾患, 慢性腎臓病, 透析, 自然免疫・炎症	<自然免疫・炎症としての慢性腎臓病・急性腎障害の病態解明と新規治療の開発> 慢性腎臓病の腎機能障害はある閾値を超えると進行が不可逆となり、いずれ透析などの腎代替療法が必要な状態に至ってしまいます。また、急性腎障害は慢性腎臓病の原因かつ増悪因子です。両者とも病態生理が未解明であるため、決定的な治療がないのが現状です。 これらは臨床的には炎症性疾患ではないですが、実は病態としては尿細管細胞・マクロファージなどの炎症細胞・線維芽細胞などが織りなす、自然免疫による炎症です。この自然免疫・炎症の病態を解明し、腎の修復・再生を促す新規治療の開発を目指す研究をしています。
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導教員	准教授	軽部 美穂	腎臓病学, リウマチ膠原病学, 透析	腎臓病、リウマチ膠原病、透析領域の臨床研究
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導補助教員	講師	鮎澤 信宏	腎臓病学, 高血圧	高血圧および関連する心血管・腎障害の形成機序の解明： アルドステロンの受容体であるミネラルコルチコイド受容体を介した病態形成メカニズムの解析。 高血圧発症に関わる遠位ネフロンへの応答について、新知見に基づく構造的・機能的解析。
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導補助教員	学内講師	川嶋 聡子	腎臓病学, リウマチ膠原病学	腎臓病および膠原病の病態解明と臨床的解析 （とくにANCA関連血管炎などの血管炎）
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導補助教員	学内講師	早川 哲	腎臓病学, リウマチ膠原病学, 透析	腎臓病、リウマチ膠原病、透析領域の臨床研究
腎臓・リウマチ膠原病内科学	研究指導補助教員	学内講師	西岡 典宏	腎臓病学, リウマチ膠原病学, 透析, 疫学, 社会医学	腎臓、リウマチ膠原病領域での治療法の有効性と安全性評価、診断法の評価。予後や転帰の予測モデル構築と検証。系統的レビューと診療ガイドライン作成。

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
循環器内科学	研究指導教員	教授	副島 京子	不整脈	ICDショックをなくすための心室性頻拍に対するカテーテルアブレーションを専門にしています。心内膜、そして心外膜からのアブレーションにて根治を目指します。不整脈の原因となる基質の研究、基質を完全に焼灼して不整脈を根治するための方法を研究しています。 また日本で日本で最初にleadlessペースメーカー植え込みを行い、その後もその開発、より安全な植え込みに関して検討を続けています
循環器内科学	研究指導教員	教授	矢田 浩崇	不整脈、虚血性心疾患、心臓超音波	不整脈発生とカルシウムハンドリング異常に関する基礎研究 スマートウォッチなどのデジタル機器の臨床応用に関する研究
循環器内科学	研究指導教員	教授	村田 光繁	心臓超音波、弁膜症	心エコーによる弁膜症解析
循環器内科学	研究指導教員	臨床教授	河野 隆志	心不全 心筋症 睡眠時無呼吸	急性心不全多施設共同レジストリーによる前向き調査研究。患者・家族の視点の理解に基づく理想的な患者・家族-医療者関係に関する検討。
循環器内科学	研究指導教員	准教授	松尾 征一郎	不整脈	カテーテルアブレーションをはじめとした心房細動治療に関する研究
循環器内科学	研究指導教員	准教授	合田 あゆみ	運動生理 心不全	運動中の肺循環応答に関する研究。心不全のレジストリー研究。循環器疾患における睡眠障害に関する研究
循環器内科学	研究指導教員	准教授	小山 幸平	虚血性心疾患、冠動脈内画像診断	高リスク冠動脈疾患患者における、近赤外線分光法血管内超音波を用いた冠動脈プラークの進展に関する前向き観察研究。近赤外線分光法血管内超音波を用いた安定狭心症患者と急性冠症候群患者における責任病変の違いに関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	講師	伊波 巧	肺循環、カテーテルインターベンション	慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の効果に関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	講師	西尾 智	不整脈	心房細動の治療に対する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	学内講師	南島 俊徳	心臓超音波、弁膜症	三次元経食道心エコーを用いた弁膜症解析
循環器内科学	研究指導補助教員	学内講師	星田 京子	不整脈	不整脈に関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	学内講師	斉藤 竜平	虚血性心疾患	慢性冠動脈疾患患者に対するカテーテル治療効果に関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	三浦 陽平	虚血性心疾患、弁膜症	虚血性心疾患・Structural heart diseaseに関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	舟橋 紗耶華	末梢血管疾患、虚血性心疾患、脂質異常症	下肢切断・致死的となりうる重症下肢虚血におけるHDL粒子機能の関与と解明研究 家族性高コレステロール血症における全身血管疾患に関する研究 原発性脂質異常症研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	毛利 崇人	不整脈	カテーテルアブレーション、デバイスに関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	三浦 佑介	虚血性心疾患	虚血性心疾患に関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	伊藤 準之助	心臓超音波	心不全・弁膜症・心筋症に関する研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	中丸 遼	心不全	心不全のレジストリー研究
循環器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	中田 千穂	虚血性心疾患	虚血性心疾患に関する研究
不整脈先進治療学研究講座	研究指導教員	特任教授	佐藤 俊明	不整脈	ペースメーカー、植え込み型除細動器 生理的ペースングに関する研究
不整脈先進治療学研究講座	研究指導教員	特任准教授	上田 明子	不整脈	不整脈(特に致死性不整脈)治療に関する研究
不整脈先進治療学研究講座	研究指導補助教員	特任講師	富樫 郁子	不整脈	ペースメーカー、植え込み型除細動器 生理的ペースングに関する研究
血液内科学	研究指導教員	教授	荒井 俊也	血液内科学	血液腫瘍の治療、血球減少症の病態と治療
血液内科学	研究指導教員	准教授	佐藤 範英	血液病学	血小板巨核球系の分化機構 多発性骨髄腫における血管新生
糖尿病・内分泌代謝内科学	研究指導教員	教授	安田 和基	糖尿病学、内分泌代謝学、臨床分子栄養学	糖尿病・内分泌代謝疾患の病態と診断・治療に関する研究 疾患のオミックス解析など
糖尿病・内分泌代謝内科学	研究指導補助教員	講師	田中 利明	糖尿病学・内分泌学・代謝学・栄養学	FGF23関連疾患の臨床と研究 肝臓での糖代謝の研究
糖尿病・内分泌代謝内科学	研究指導補助教員	助教	高橋 和人	糖尿病学、内分泌代謝学	脂肪細胞より分泌されるアディポカインによるインスリン抵抗性発症機序の基礎的な解析 最近注目を集めている糖尿病骨代謝異常の基盤病態の解析とその進展抑制因子の同定
消化器内科学	研究指導教員	教授	久松 理一	消化器病学、炎症性腸疾患、粘膜免疫学	炎症性腸疾患の病態解明と新規治療法の確立。腸内細菌と腸管免疫の応答性。メタボローム解析を用いた炎症性腸疾患バイオマーカーの確立。マクロファージ分化における代謝の影響。難治性小腸潰瘍症の病態解明と治療法確立。
消化器内科学	研究指導教員	臨床教授	松浦 稔	消化器病学、炎症性腸疾患、消化器内視鏡学	細胞増殖因子を用いた炎症性腸疾患における新規治療法の開発。炎症性腸疾患の病態生理における鉄および鉄関連因子の役割。炎症性腸疾患における腸管粘膜再生の内視鏡的評価法と新規モダリティの開発。
消化器内科学	研究指導教員	臨床教授	大森 鉄平	消化器内科学、炎症性腸疾患、小腸疾患、消化器内視鏡学	炎症性腸疾患、小腸疾患の病態・診断法
消化器内科学	研究指導教員	准教授	土岐 真朗	胆膵疾患の診断・治療	膵癌早期発見 胆道3Dナビゲーションを用いたERCP関連手技
消化器内科学	研究指導教員	准教授	三好 潤	消化管疾患、炎症性腸疾患、腸内微生物叢	炎症性腸疾患の病態生理、宿主免疫機構の発達における腸内微生物叢の役割、炎症性腸疾患の疾患活動性モニタリングおよび治療効果予測
消化器内科学	研究指導補助教員	講師	林田 真理	小腸、大腸疾患	小腸疾患の病態、診断法
消化器内科学	研究指導補助教員	講師	大野 亜希子	消化器病学、内視鏡治療	内視鏡診断学、内視鏡治療
消化器内科学	研究指導補助教員	講師	齋藤 大祐	消化器病学、炎症性腸疾患	炎症性腸疾患
消化器内科学	研究指導補助教員	助教	關 里和	消化器病学	肝疾患の病態・診断法・治療
消化器内科学	研究指導補助教員	助教	森久保 拓	消化器病学	炎症性腸疾患、腸管超音波
消化器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	小栗 典明	消化器病学	消化器疾患と腸内細菌叢
消化器内科学	研究指導補助教員	任期制助教	日比 則孝	消化器病学	炎症性腸疾患
腫瘍内科学	研究指導教員	教授	廣中 秀一	腫瘍内科学、消化器病学、臨床試験	進行食道癌に対する標準治療の確立 MSI-H進行胃癌の臨床病理学的特徴の解明 進行大腸癌に対するVEGF阻害薬の選択に有用なバイオマーカーの探索
腫瘍内科学	研究指導教員	臨床教授	長島 文夫	腫瘍内科学、消化器内科学、臨床薬理学	消化器癌のがん薬物療法、ゲノム薬理学

目次に戻る

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
腫瘍内科学	研究指導補助教員	講師	水谷 友紀	腫瘍学、呼吸器内科学、臨床研究	高齢がん患者を対象とした臨床研究の適切なエンドポイントに関する研究
腫瘍内科学	研究指導補助教員	助教	岡野 尚弘	腫瘍内科学、消化器病学	消化器癌、特に肝胆膵癌のがん薬物療法
高齢医学	研究指導教員	教授	神崎 恒一	老年医学、認知症、循環器	老年医学、認知症、動脈硬化
精神神経科学	研究指導教員	教授	渡邊 衡一郎	臨床精神医学、臨床精神薬理学、意思決定	・向精神薬の副作用・効果、及び患者さんが服用継続すること(アドヒアランス)に関する研究 ・患者さんの主観に焦点を当てて、それを反映させた治療方針の決定法 Shared Decision Making(SDM;共同意思決定) ・難治性うつ状態の病態解明 ・当事者のリハビリ
精神神経科学	研究指導教員	臨床教授	中野 正寛	臨床精神医学	・認知症 ・リエゾン精神医学
精神神経科学	研究指導教員	准教授	坪井 貴嗣	臨床精神薬理学、漢方医学	・精神科薬物療法を含めた治療の最適化 ・精神疾患のガイドラインの作成及び普及 ・電気けいれん療法の最適化
精神神経科学	研究指導補助教員	講師	櫻井 準	・臨床精神医学全般（特に気分障害） ・精神科薬物療法	・難治性うつ病に対する診断・治療
精神神経科学	研究指導補助教員	任期制助教	松本 泰幸	臨床精神医学、産業精神医学	・産業メンタルヘルス ・労働者の休職・復職
小児科学	研究指導教員	教授	成田 雅美	小児科学、アレルギー学、免疫学	・小児アレルギー疾患の発症機序・病態の解明及び発症予防法の開発 ・食物アレルギーの診断・評価・治療法の改善に向けた臨床研究 ・重症アレルギー疾患患者への患者教育法の改善・開発に向けた臨床研究 ・医療従事者に対する専門医療研修プログラムの開発
小児科学	研究指導教員	臨床教授	吉野 浩	小児の血液腫瘍疾患	・小児白血病の病態解明 ・白血球幹細胞における薬剤耐性機序の解析 ・白血球細胞の代謝の解析 ・白血病に対する新規治療開発
小児科学	研究指導教員	准教授	保崎 明	小児科学、循環器、小児救急	・一般小児科医が行う小児集中治療の安全性について ・川崎病新合併症の画像診断について ・学校心臓健診で発見される不整脈管理について
小児科学	研究指導教員	准教授	細井 健一郎	新生児学、小児呼吸器	・新生児学、新生児の人工呼吸器管理、慢性肺疾患の予防と治療法の開発 ・小児呼吸器疾患の診断・評価に関する臨床研究
小児科学	研究指導教員	准教授	倉山 亮太	小児科学、小児腎臓病学	・小児慢性腎疾患治療による発達への影響について ・小児先天性尿路異常における尿路感染症発症と排尿排便障害との因果関係の解明
小児科学	研究指導補助教員	講師	田中 絵里子	小児腎臓病学、小児膠原病学	・小児特発性ネフローゼ症候群の病態解明と治療法の開発 ・腎糸球体上皮細胞（ポドサイト）の機能解析 ・小児腎疾患の発症に関与する免疫学的因子の解明 ・初回発症時に尿異常を呈さない全身性エリテマトーデスの腎組織診断と腎予後に関する検討
小児科学	研究指導補助教員	講師	高橋 昌兵	小児科学、小児栄養消化器肝臓学	・新規糸球体特異的タンパク質であるUSP40の機能解析
小児科学	研究指導補助教員	学内講師	宮田 世羽	小児科学、小児神経学	・てんかんの診断・評価・治療法の改善に向けた臨床研究 ・神経発達症の診断・評価・治療法の改善に向けた臨床研究
小児科学	研究指導補助教員	学内講師	麓 聖子	新生児学	・人工呼吸器が新生児肺に与える影響に関する研究
小児科学	研究指導補助教員	学内講師	木内 善太郎	小児科学、小児腎臓病学、小児膠原病学	・小児ネフローゼ症候群におけるグルココルチコイド誘導分子:Glcc1を介した糖質ステロイド感受性・抵抗性機序の解明 ・ステロイド誘発性骨障害に果たすグルココルチコイド誘導分子:Glcc1の関与についての研究 ・偽性副甲状腺機能低下症における腎近位尿管でのPTH抵抗性の病態解明
小児科学	研究指導補助教員	助教	瀧浦 俊彦	小児科学、内分泌学	・膵β細胞における、グルココルチコイド誘導分子Glcc1の機能解析
消化器・一般外科学	研究指導教員	教授	阪本 良弘	肝胆膵外科、特に悪性腫瘍の外科治療	安全で正確な肝胆膵外科手術方法の確立 肝胆膵外科領域における低侵襲手術の推進 肝胆膵領域悪性腫瘍の予後因子の解析や周術期化学療法の効果 肝胆膵外科手術解剖
消化器・一般外科学	研究指導教員	教授	阿部 展次	消化器・一般外科学	・内視鏡治療と腹腔鏡下手術の融合に関する臨床研究 ・腹腔鏡下胃切除術・膵切除術に関する臨床研究 ・胃癌に対するロボット支援下手術に関する臨床研究 ・十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡下手術の開発 ・内視鏡的胃全層切除術に関する臨床研究
消化器・一般外科学	研究指導教員	教授	須並 英二	消化器・一般外科学 下部消化管	大腸がん低侵襲治療に関する臨床研究 直腸癌集学的治療に関する臨床研究 癌転移に関する基礎的研究 腫瘍マーカーに関する基礎的研究
消化器・一般外科学	研究指導教員	臨床教授	鈴木 裕	消化器・一般外科、肝胆膵外科	肝胆膵疾患に対する画像診断・外科治療 ・膵切除術の合併症対策における臨床研究 ・膵管内粘液乳頭腫瘍の悪性度評価・手術適応に関する臨床研究 ・肝内結石症の胆管癌発症に関する臨床研究 ・急性膵炎重症化に関する臨床研究 胆膵疾患に対する内視鏡治療 ・内視鏡的乳頭切開術の偶発症と長期成績に関する研究
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	講師	竹内 弘久	上部消化管内視鏡・腹腔鏡治療	・内視鏡治療器具の開発 ・早期胃癌における未分化型混在比率の病理学的定量測定法の確立

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	講師	吉敷 智和	消化器・一般外科、下部消化管外科、外科教育学	大腸癌の進展や分子標的治療の效果に影響する分子異常解析研究 Stage4大腸癌予後予測因子研究 大腸癌血管新生関連因子解析研究 シミュレーションモデルを利用した外科教育学研究
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	講師	大木 亜津子	消化器外科疾患	・胃癌手術時の自動縫合器に付着する細胞に関する臨床研究 ・胃癌の内視鏡治療に関する臨床研究 ・胃内遊離癌細胞に関する臨床研究 ・胃癌リンパ節転移危険因子に関する臨床研究 ・下縦隔周囲のリンパ管解剖に関する研究
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	講師	小暮 正晴	消化器・一般外科 肝胆膵	安全な肝胆膵外科手術の確立
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	助教	片岡 功	消化器・一般外科	消化器・一般外科
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	任期制助教	小島 洋平	上部消化管外科	十二指腸腫瘍の網羅的遺伝子解析 Minimal invasive surgery General skills training
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	任期制助教	本多 五奉	消化器・一般外科	Solid-pseudopapillary neoplasmの分子異常解析研究
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	任期制助教	蓮井 宣宏	消化器・一般外科学 肝胆膵外科分野	細胞シートを用いた in vitro NASH モデル
消化器・一般外科学	研究指導補助教員	任期制助教	麻生 喜祥	消化器・一般外科	十二指腸腫瘍の臨床および分子病理学的検討
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導教員	教授	近藤 晴彦	外科腫瘍学、呼吸器外科学、胸部画像診断学	外科腫瘍学、呼吸器外科学、肺癌の集学的治療、転移性肺腫瘍の外科治療、外科教育学
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導教員	臨床教授	橋本 浩平	胸部腫瘍外科、低侵襲手術、肺移植	外科教育法開発（気管支モデル）、肺癌診断とAI
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導教員	准教授	田中 良太	外科、呼吸器外科、呼吸器病理、臨床細胞学、気管支学	肺癌の外科治療、肺癌の画像診断、呼吸器細胞診、外科シミュレーション教育
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導教員	准教授	橘 啓盛	呼吸器外科、呼吸器細胞診、胸腔鏡手術、ロボット手術	肺癌の画像診断と病理、胸腔鏡手術、ロボット支援手術
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導補助教員	講師	中里 陽子	甲状腺外科	甲状腺外科、機能温存手術、化学療法
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導補助教員	学内講師	須田 一晴	呼吸器外科	胸腔鏡手術、胸部画像診断
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導補助教員	助教	新井 信晃	呼吸器・甲状腺外科	悪性胸膜中皮腫の細胞診
呼吸器・甲状腺外科学	研究指導補助教員	任期制助教	渋谷 幸見	呼吸器外科	
乳癌外科学	研究指導教員	教授	井本 滋	腫瘍外科学 腫瘍免疫学	センチネルリンパ節生検の臨床試験 宿主免疫動態の解明 バイオマーカーによる乳癌治療の個別化 ラジオ波焼灼治療による非切除治療の開発 希少転移乳癌の局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究
乳癌外科学	研究指導補助教員	講師	関 大仁	腫瘍外科学	・臨床的腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後腋窩リンパ節郭清省略の予測因子・術式選択における乳癌患者の意思決定支援ツールの開発 ・乳房再建術後乳癌患者の生活の質および満足度調査・ホルモン受容体陽性HER2陰性進行再発乳癌におけるCDK4/6阻害剤耐性後の治療戦略
小児外科学	研究指導教員	教授	浮山 越史	新生児外科、小児一般外科、小児救急	Hirschsprung病、新手術手技、悪性腫瘍、小児救急、性分化
救急医学	研究指導教員	教授	山口 芳裕	救急・集中治療、外傷外科、特殊災害（CBRNE）、安全保障	外科侵襲学、集団災害、特殊災害（NBCRE）、安全保障、重症外傷、中毒学、IVR
救急医学	研究指導教員	教授	松田 剛明	重症感染症、敗血症性ショックの病態生理・免疫反応、北米型ERの管理・運営	多剤耐性菌感染症に対するファージ療法の開発、敗血症の免疫学、救急初期診療
救急医学	研究指導教員	准教授	海田 賢彦	救急・集中治療、熱傷、再生医療	熱傷 再生医療
救急医学	研究指導補助教員	講師	加藤 聡一郎	救急・集中治療、災害医療、航空医療、病院前医療・救護、熱傷、外傷、軟部組織感染症、社会学、医用工学	外傷、熱傷、集中治療、医工連携による診療の高度化、公衆衛生・社会学研究に基づく医療システムの検討
救急医学	研究指導補助教員	学内講師	持田 勇希	救急・集中治療、大動脈外科	腎臓の障害と遺伝子発現
救急医学	研究指導補助教員	助教	稲田 成作	整形外科外傷	外傷、再生医療
脳神経外科学	研究指導教員	教授	田中 洋次	脳血管障害、良性脳腫瘍	脳血管障害および良性脳腫瘍の臨床研究
脳神経外科学	研究指導教員	准教授	野口 明男	脳血管障害、良性脳腫瘍、認知症	脳血管障害および良性脳腫瘍の臨床研究
脳神経外科学	研究指導教員	准教授	丸山 啓介	脳血管障害、良性脳腫瘍、臨床統計学	脳血管障害および良性脳腫瘍の臨床研究
脳神経外科学	研究指導補助教員	講師	小林 啓一	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍の基礎及び臨床研究（臨床試験）、悪性脳腫瘍の治療（手術、化学療法、放射線療法を含めた集学的治療）
脳神経外科学	研究指導補助教員	講師	永山 和樹	定位放射線治療	定位放射線治療の臨床研究
脳神経外科学	研究指導補助教員	学内講師	吉田 裕毅	脳血管障害、良性脳腫瘍	脳血管障害および良性脳腫瘍の臨床研究
脳神経外科学	研究指導補助教員	助教	佐々木 重嘉	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍の基礎及び臨床研究（臨床試験）、悪性脳腫瘍の治療（手術、化学療法、放射線療法を含めた集学的治療）
心臓血管外科学	研究指導教員	教授	窪田 博	成人心臓・大血管外科学	成人心臓の外科治療（虚血性心疾患、弁膜疾患など）、大血管疾患の外科治療（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、大動脈解離など）、不整脈、特に心房細動の外科治療、肺塞栓症の外科治療
心臓血管外科学	研究指導教員	臨床教授	細井 温	末梢血管外科学	静脈疾患
心臓血管外科学	研究指導教員	准教授	遠藤 英仁	成人心臓・大血管外科学	大動脈手術時の逆行性脳灌流法の臨床応用と評価
心臓血管外科学	研究指導教員	准教授	峯岸 祥人	成人心臓・大血管外科学	成人心臓血管疾患の外科治療
心臓血管外科学	研究指導教員	准教授	伊佐治 寿彦	末梢血管外科学	動脈環境下における静脈の内膜肥厚制御
心臓血管外科学	研究指導補助教員	学内講師	木村 賢	末梢血管外科学	動脈疾患
心臓血管外科学	研究指導補助教員	学内講師	池添 亨	末梢血管外科学	大動脈瘤モデルに脂質代謝異常症が与える影響
整形外科	研究指導教員	教授	細金 直文	脊椎・脊髄	脊椎疾患の臨床的・基礎的研究、脊椎変形疾患に関する研究
整形外科	研究指導教員	教授	森井 健司	骨・軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の臨床的および基礎的研究
整形外科	研究指導教員	臨床教授	佐々木 茂	肩・膝関節	肩関節の臨床的研究、膝関節の動態解析
整形外科	研究指導教員	准教授	高橋 雅人	脊椎・脊髄	脊髄神経生理学、脊髄モニタリング、脊椎脊髄腫瘍、靭帯骨化症、脊柱変形

目次に戻る

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
整形外科	研究指導補助教員	講師	佐藤 行紀	膝関節、スポーツ	膝関節の形態計測、日本人に適した人工膝関節の開発及び臨床評価
整形外科	研究指導補助教員	講師	田島 崇	骨・軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の臨床的および基礎的研究
整形外科	研究指導補助教員	講師	長谷川 淳	脊椎・脊髄	脊椎低侵襲手術
整形外科	研究指導補助教員	助教	竹内 拓海	脊椎・脊髄	脊髄電気生理学、低侵襲脊椎手術、びまん性特異性骨増殖症に対する固定術の生体力学的評価
整形外科	研究指導補助教員	助教	弘貫 透	骨・軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の臨床的および基礎的研究
皮膚科学	研究指導教員	教授	大山 学	毛髪疾患、自己免疫性疾患、再生医学、幹細胞生物学	1) 脱毛症の診断・治療技術の向上 主として重症円形脱毛症に対する診断・治療技術のさらなる向上のための臨床研究。 2) ヒト皮膚・付属器の再生の試み 組織幹細胞・iPS細胞を用いた皮膚・付属器の再生。 3) 薬疹の病態解明 厚生労働省研究班員として重症薬疹のデータの集積や臨床研究を遂行。 4) 発汗異常疾患の病態解明 発汗障害を来す疾患の病態解明とそれに基づく治療法の開発
皮膚科学	研究指導教員	臨床教授	早川 順	皮膚感染症、皮膚免疫アレルギー、発汗障害	皮膚感染症、アレルギー性疾患、薬疹、発汗障害
皮膚科学	研究指導教員	准教授	倉田 麻衣子	皮膚免疫アレルギー	アレルギー性疾患、アトピー性皮膚炎、ウイルス感染症、薬疹、皮膚科一般
皮膚科学	研究指導補助教員	講師	木下 美咲	毛髪疾患、トリコスコピー、疫学	毛髪疾患における非侵襲的画像診断技術の開発、毛髪疾患における疫学、EBM (evidence based medicine) の構築
皮膚科学	研究指導補助教員	学内講師	下田 由莉江	発汗障害、皮膚付属器疾患、皮膚感染症	アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患における発汗障害について、汗腺を標的とした自己免疫性疾患における汗腺・汗管の免疫学的特権の破綻の関与について。
皮膚科学	研究指導補助教員	助教	福山 雅大	皮膚科学	脱毛症の病態解明、皮膚付属器の再生
皮膚科学	研究指導補助教員	助教	早川 怜那	毛髪疾患、再生医学	脱毛症の治療法の開発、皮膚付属器の再生
形成外科学	研究指導教員	教授	多久嶋 亮彦	顔面神経麻痺、マイクロサージャリー、美容外科	顔面神経麻痺、マイクロサージャリー、頭頸部再建外科
形成外科学	研究指導教員	臨床教授	大浦 紀彦	難治性潰瘍、褥瘡、熱傷、創傷治癒、微小循環	難治性潰瘍、褥瘡、熱傷、創傷治癒、微小循環
形成外科学	研究指導教員	臨床教授	尾崎 峰	頭蓋顔面外科、血管腫・血管奇形	難治性血管奇形に対する治療法の開発。顔面骨骨折後遺症や頭蓋顔面変形に対する治療法の開発。
形成外科学	研究指導教員	准教授	白石 知大	乳房再建	乳房再建の材料の開発。
泌尿器科学	研究指導教員	教授	福原 浩	泌尿器腫瘍学、腹腔鏡・ロボット手術、ウイルス療法	がん治療用ウイルスを用いたウイルス療法 泌尿器癌におけるがんゲノム医療 泌尿器癌におけるメタボローム解析
泌尿器科学	研究指導教員	臨床教授	多武保 光宏	泌尿器腫瘍学、尿路結石症、男性更年期障害	上部尿路結石内視鏡手術の標準化 尿路敗血症のバイオマーカー
泌尿器科学	研究指導教員	准教授	加藤 司顯	泌尿器腫瘍学、尿路結石症	泌尿器癌における樹状細胞ワクチン療法
泌尿器科学	研究指導補助教員	講師	金城 真実	泌尿器科学 女性泌尿器科	女性泌尿器科（疫学、予防、診断、治療）
泌尿器科学	研究指導補助教員	講師	中村 雄	泌尿器腫瘍学、前立腺肥大症（内視鏡手術）	膀胱癌における遺伝子変異に関する研究 前立腺肥大症内視鏡手術に関する研究
眼科学	研究指導教員	教授	井上 真	網膜硝子体、小切開硝子体手術	小切開硝子体手術、画像診断
眼科学	研究指導教員	教授	平形 明人	眼科学、網膜硝子体疾患、眼病理	網膜硝子体疾患、眼科手術、眼病理
眼科学	研究指導教員	教授	岡田 アナベル あや	眼炎症（ぶどう膜炎）、黄斑疾患（加齢黄斑変性など）	眼炎症や黄斑疾患の薬物療法
眼科学	研究指導教員	教授	山田 昌和	角膜炎疾患 臨床疫学	ドライアイなどの角膜炎疾患を対象にして涙液や角膜試料の生化学的分析を行い、疾患や病態のバイオマーカーの探索を行っている。また、臨床研究として複数の多施設共同研究を主導するとともに、成人を対象とした眼科検診の医学的効果や費用対効果を検討するための医療経済学的分析を行っている。
眼科学	研究指導教員	臨床教授	慶野 博	眼炎症性疾患	ぶどう膜炎の病因解明と新規治療法の開発
眼科学	研究指導教員	臨床教授	北 善幸	眼科学	緑内障の画像診断
眼科学	研究指導教員	准教授	厚東 隆志	網膜硝子体疾患、硝子体手術	網膜硝子体疾患の手術治療、小切開硝子体手術、眼内広角観察システム
眼科学	研究指導教員	准教授	鈴木 由美	斜視弱視・小児眼科	弱視斜視治療・小児眼瞼疾患
眼科学	研究指導教員	准教授	片岡 恵子	網膜硝子体、黄斑疾患	加齢黄斑変性、近視性黄斑症等黄斑疾患を対象とした画像解析による病態解明および新規治療法の開発
眼科学	研究指導教員	准教授	石田 友香	網膜硝子体	網膜疾患の画像診断 網膜硝子体手術
眼科学	研究指導教員	准教授	渡邊 交世	眼炎症、水晶体	眼炎症や黄斑疾患の薬物療法、白内障手術
眼科学	研究指導補助教員	講師	松木 奈央子	一般眼科、水晶体	水晶体疾患、白内障手術
眼科学	研究指導補助教員	講師	福井 正樹	角膜炎疾患	角膜移植手術
耳鼻咽喉科学	研究指導教員	教授	齋藤 康一郎	喉頭・音声	・音声とQOL ・加齢と音声 ・音声治療効果の最適化 ・喉頭乳頭腫に対する診療体制の確立 ・外来での低侵襲な音声外科手術の効果の検証と診療体制の確立 ・Cadaverを用いた喉頭機能の解明と音声外科のシミュレーション ・超高精細CTを用いた喉頭気管の機能・形態ならびに病態の解明 ・ハイスピードカメラを用いた声帯振動の臨床研究 ・気管切開と摂食・嚥下機能の関連 など

目次に戻る

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
耳鼻咽喉科学	研究指導教員	臨床教授	増田 正次	神経耳科学	蝸牛外側壁（らせん靭帯、血管条）障害による難聴発症機序の解明、遺伝性難聴、難聴と認知症の関係、耳管機能障害
耳鼻咽喉科学	研究指導教員	臨床教授	横井 秀格	耳鼻咽喉科学、鼻科学、免疫アレルギー	内視鏡下鼻副鼻腔手術、内視鏡下頭蓋底手術、アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎の病態と治療に関する基礎的検討（マスト細胞、好酸球、神経増殖・反発因子、神経ペプチド）他
耳鼻咽喉科学	研究指導教員	准教授	池田 哲也	有病者歯科医療、薬剤性顎骨壊死、周術期口腔管理	薬剤性顎骨壊死の加療方法について、口腔外科疾患における骨代謝抑制剤を投与されている患者への対応について、顎関節症の病態解明、口腔扁平苔癬の成因解明、EBウイルスの感染維持、有病者の抜歯処置、最も効果のある周術期口腔管理の確立
耳鼻咽喉科学	研究指導補助教員	講師	菊地 瞬	鼻科学	内視鏡下鼻副鼻腔手術、粘膜再生医療に関する基礎研究
耳鼻咽喉科学	研究指導補助教員	任期制助教	手塚 里奈	口腔外科学	薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）に関する基礎的ならびに臨床的研究
耳鼻咽喉科学	研究指導補助教員	任期制助教	三木 貴仁	口腔外科学	チタンインプラントの表面修飾に関する基礎研究
産科婦人科学	研究指導教員	教授	小林 陽一	婦人科がん、子宮内膜症、メラトニン、腫瘍循環器学	子宮内膜症性嚢胞の癌化に関する新規バイオマーカーの探索、メラトニンと婦人科がん、婦人科がんにおける腫瘍循環器学
産科婦人科学	研究指導教員	教授	谷垣 伸治	合併症妊娠、産科救急、シミュレーション教育	1. 絨毛膜羊膜炎に対する新規治療法開発にむけた基礎的検討 2. 妊娠経過中の腔内細菌叢の推移と胎児・新生児免疫能への影響 3. 妊娠高血圧症候群における発症予知マーカーの検討 4. VRを用いた医療者教育ツールの開発
産科婦人科学	研究指導教員	臨床教授	森定 徹	婦人科腫瘍学、がん検診	がん予防としての子宮頸がん検診、婦人科癌リンパ行性転移の分子機構、卵巣明細胞癌の新規治療薬の検討
産科婦人科学	研究指導教員	臨床教授	鈴木 淳	婦人科腫瘍学	婦人科癌転移の糖鎖機能解析と認識糖鎖抗原に対する新規治療薬の開発
産科婦人科学	研究指導教員	准教授	田嶋 敦	周産期学、臨床遺伝学、	妊娠初期における産科合併症の予知マーカーの研究、胎児発育の新規評価方法の検索
産科婦人科学	研究指導補助教員	講師	松本 浩範	婦人科腫瘍学	ロボット手術の安全性や技術の向上
産科婦人科学	研究指導補助教員	講師	百村 麻衣	婦人科腫瘍学	プラチナ製剤感受性再発卵巣癌におけるPARP阻害剤維持療法に影響を与える因子について
産科婦人科学	研究指導補助教員	学内講師	澁谷 裕美	婦人科腫瘍学 内視鏡手術	婦人科疾患における内視鏡下手術、子宮体癌病巣における術前PET/CT SUVmax値と再発リスク・予後予測因子の検討
産科婦人科学	研究指導補助教員	学内講師	松島 実穂	周産期 出生前診断 臨床遺伝	模擬遺伝カウンセリングの学生教育への有用性について、卵巣走行血管の出生前診断の精度向上の試み
産科婦人科学	研究指導補助教員	助教	渡邊 百恵	内視鏡手術、婦人科腫瘍学	卵巣内膜症性嚢胞の薬剤抵抗性に関わるバイオマーカーの探索
放射線医学	研究指導教員	教授	横山 健一	画像診断学	呼吸器・循環器の画像診断 特に心臓MRIの臨床応用について
放射線医学	研究指導教員	臨床教授	須山 淳平	核医学	核医学 特に心筋血流、脳血流、ドパミントランスポーターについて
放射線医学	研究指導教員	准教授	片瀬 七朗	画像診断学	人工知能を用いた診断支援技術の開発
放射線医学	研究指導教員	准教授	小野澤 志郎	画像下治療(IVR)	抗がん剤灌流療法 IVRにおける遠隔医療 塞栓物質
放射線医学	研究指導補助教員	講師	五明 美穂	画像診断学	脳神経領域の画像診断 特にMRIを用いた脳腫瘍鑑別、血管イメージングについて
放射線医学	研究指導補助教員	任期制助教	志賀 久恵	画像診断学	整形外科領域の画像診断 特に骨軟部腫瘍や関節疾患に対するMRIの臨床応用について
放射線医学	研究指導補助教員	任期制助教	貞岡 亜加里	画像診断学	産婦人科領域の画像診断 特に婦人科疾患に対するMRIの臨床応用について
放射線腫瘍学	研究指導教員	教授	江原 威	肺癌の放射線治療、放射線全般	放射線治療における腫瘍制御と正常臓器障害
麻酔科学	研究指導教員	教授	森山 潔	麻酔科学、集中治療医学	急性肺傷害
麻酔科学	研究指導教員	教授	徳嶺 譲芳	麻酔科学、シミュレーション、CVC安全管理	安全な中心静脈穿刺手技と教育体制の構築
麻酔科学	研究指導教員	臨床教授	中澤 春政	心臓血管麻酔、敗血症・熱傷における骨格筋代謝異常	重症病態における骨格筋の代謝異常（インスリン抵抗性、高乳酸血症など）、ミトコンドリア機能障害
麻酔科学	研究指導教員	臨床教授	関 博志	麻酔科学、周術期医学	周術期医学、術後悪心嘔吐の予防、術前評価と術後アウトカム、電子問診システムの開発と臨床応用、術後疼痛管理
麻酔科学	研究指導補助教員	講師	小谷 真理子	集中治療医学 麻酔科学	重症集中治療管理、中心静脈カテーテル関連血流感染症
麻酔科学	研究指導補助教員	講師	鶴澤 康二	麻酔科学	グリコリクセス
麻酔科学	研究指導補助教員	学内講師	渡辺 邦太郎	麻酔科学、ベインクリニック	疼痛管理
麻酔科学	研究指導補助教員	助教	安藤 直朗	麻酔全般、集中治療医学、医療経済学	グリコリクセス
臨床検査医学	研究指導教員	教授	大西 宏明	臨床検査医学、小児科学、血液腫瘍学、造血細胞治療学	悪性腫瘍における遺伝子異常 非結核性抗酸菌の遺伝子解析 安全な採血法の確立
臨床検査医学	研究指導教員	准教授	安戸 裕貴	臨床検査医学、小児科学、アレルギー学、免疫学	食物アレルギーの高精度診断学の確立 稀少先天性小児免疫異常症の原因遺伝子の探索・解析
臨床検査医学	研究指導補助教員	講師	大塚 弘毅	がん分子診断	がん分子診断、がんの先制医療、発がんメカニズム解明、がん予防および早期発見、進行がん診療のバイオマーカー探索
総合医療学	研究指導教員	教授	長谷川 浩	高齢者救急、老年医学、認知症、老年循環器学	高齢者救急、高齢者循環器学、認知症の臨床的研究、嚥下障害の臨床的研究
総合医療学	研究指導教員	研究教授	花輪 智子	感染症学、感染免疫	多剤耐性菌感染症に対するファージ療法の開発
総合医療学	研究指導教員	臨床教授	武井 秀史	外科腫瘍学	肺癌の集学的治療 気管支鏡治療・診断
総合医療学	研究指導教員	准教授	一二三 亨	蘇生と神経集中治療、熱中症	ECPRと体温管理、熱中症患者の包括医療
総合医療学	研究指導補助教員	任期制助教	須田 智也	救急医学・感染症	救急医療における診断、バクテリオファージを用いた多剤耐性菌感染症の治療
総合医療学	研究指導補助教員	任期制助教	井坂 葵	心血管疾患の画像診断	心不全患者における予後

[目次に戻る](#)

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
総合医療学	研究指導補助教員	任期制助教	平吹 一訓	救急医学	失神、運動・循環生理学（心機能、脳循環）
総合医療学	研究指導補助教員	任期制助教	ナガノ デボラ サ	細菌とファージのバイオインフォマティクス	ファージの感染戦略と細菌のファージ防御機構、薬剤耐性遺伝子のゲノム科学
予防医学	研究指導教員	臨床教授	徳永 健吾	上部消化管、生活習慣病、消化器内視鏡	ヘリコバクター属菌の診断・治療法の開発 胃MALTリンパ腫の病態解明
臨床感染症学	研究指導教員	臨床教授	倉井 大輔	呼吸器感染症	呼吸器感染症の診断と予防
リハビリテーション医学	研究指導教員	教授	山田 深	障害評価、脳卒中リハビリ、宇宙医学生物学、ICF	日常生活動作評価尺度 軌道上での効率的・効果的運動 微小重力環境下での歩行動作解析 国際生活機能分類
リハビリテーション医学	研究指導教員	准教授	逄川 将弘	脳卒中リハ、内部障害リハ、住宅改造	脳卒中患者の心機能異常 COPD患者のフィットネス 損害保険での住宅改造判定
リハビリテーション医学	研究指導補助教員	講師	田代 祥一	ニューロリハ、再生リハ、神経生理学、非侵襲的脳刺激	経頭蓋交流電気刺激の脳卒中リハへの応用 慢性期脳卒中に対するニューロリハ 慢性期脊髄損傷に対する再生リハ 最重度末梢神経障害に対する装具療法 災害と嚥下機能
脳卒中医学	研究指導教員	教授	平野 照之	脳卒中医学	脳梗塞の急性期画像診断に基づく治療法の開発；虚血性脳卒中に対する抗血栓療法との最適化；遺伝性脳卒中中の病態解明；ほか
脳卒中医学	研究指導教員	准教授	海野 佳子	脳卒中医学、臨床神経学、頭痛	頭痛を呈する脳卒中中の病態解析 臨床指標に基づく脳卒中診療の最適化に関する研究
脳卒中医学	研究指導教員	准教授	河野 浩之	脳卒中医学、神経内科学	脳卒中中の治療と画像診断
脳卒中医学	研究指導補助教員	学内講師	本田 有子	脳卒中医学 脳神経外科学	脳小血管病の病態解明；骨と脳卒中中の関連についての解明
肉眼解剖学	研究指導教員	教授	長瀬 美樹	解剖学、細胞生物学、分子生物学、腎・高血圧学	1) 高血圧、腎臓病とメカノバイオロジー 2) 肉眼解剖学研究（自律神経など） 3) 形態解析イメージング 4) 生活習慣病とRhoファミリー、核内受容体 5) 遺伝子改変動物を用いた機能解析
肉眼解剖学	研究指導補助教員	講師	上野 仁之	解剖学、細胞生物学	腎糸球体ポドサイトの形態学的研究
肉眼解剖学	研究指導補助教員	講師	大石 篤郎	解剖学・薬理学・糖尿病学・内分泌学	G蛋白質共役型受容体、Orphan受容体、バイオセンサー開発、がん、糖代謝・脂質代謝異常
顕微解剖学	研究指導教員	研究教授	宮東 昭彦	組織細胞化学、生殖内分泌系	・精巣の精細管精上皮周期の加齢による変化 ・下垂体前葉におけるホルモン分泌細胞の動態 ・組織細胞化学分野におけるデジタル画像解析手法の適用
顕微解剖学	研究指導補助教員	助教	菅原 大介	組織細胞化学、消化器系、糖鎖生物学	・複合糖質の発現を利用した細胞多様性の理解 ・消化管ムチン層の形成・制御機構に関する研究 ・腸管上皮細胞の分化制御機構に関する研究
統合生理学	研究指導教員	教授	大木 紫	神経生理学、運動制御	ヒトの脊髄内回路の可塑性変化誘導、身体保持感に関わる脳活動
統合生理学	研究指導教員	准教授	八木 淳一	神経生理学（疼痛学）	痛覚情報の受容と符号化のメカニズム
統合生理学	研究指導教員	准教授	渋谷 賢	認知神経科学、実験心理学、スポーツ科学	1. 身体性自己意識に関する研究 [国内共同] 2. 頸髄症患者の到達把持運動に関する研究 [学内共同] 3. 多種感覚統合による脳内身体表現に関する研究
統合生理学	研究指導補助教員	講師	鈴木 伸弥	理学療法学、神経生理学	ヒトの神経系の可塑性変化誘導、運動制御
病態生理学	研究指導教員	教授	寺尾 安生	神経生理学、運動生理、眼球運動、磁気刺激法	磁気刺激法を用いた大脳皮質機能の解明 磁気刺激法を用いた神経疾患の病態解明および治療法開発 神経疾患における眼球運動障害の解析と病態の解明 ヒトにおける時間的情報処理機構の解明と神経疾患患者における病態の研究 深部電極治療が大脳基底核に及ぼす影響に関する生理学的研究
病態生理学	研究指導教員	准教授	三嶋 竜弥	神経生理学	シナプス伝達におけるSyntaxin 1A/HPC-1、syntaxin 1Bの生理機能の解析 シタキシン1Bの機能欠損によるてんかん発症メカニズムの解析
病態生理学	研究指導補助教員	助教	中山 高宏	分子神経生物学、細胞内小胞輸送	Syntaxin 1遺伝子発現制御機構の解明と疾患治療へ向けた研究 小胞輸送・微管ダイナミクスに関わるSyntaxin 1機能解析
病態生理学	研究指導補助教員	助教	寺田 さとみ	神経生理学、神経内科学	眼球運動や手足の動きなどの計測による、主に神経変性疾患における病態生理の解明
病態生理学	研究指導補助教員	助教	渥美 剛史	認知神経科学、自閉症、比較認知科学、実験心理学	脳内イメージングによる自閉スペクトラム症の特殊な感覚処理の解析や、障害のモデル動物を用いて、社会性や感覚処理障害に関わる神経生理基盤の理解を目指しています。
代謝生化学	研究指導教員	研究教授	菅田 慎一	生化学、生理学、分子細胞生物学、環境衛生学	・小型魚類を用いたヒト疾患関連遺伝子の解析 ・マイクロプラスチックの生体影響の解析 ・糖尿病網膜症・白内障モデル生物の解析
代謝生化学	研究指導補助教員	講師	田原 義和	構造生物学・生体膜・輸送体	イオンポンプによるATP加水分解と共役したイオンの膜輸送を、分子構造やエネルギーの観点から理解すること。
代謝生化学	研究指導補助教員	講師	山本 隆史	代謝生化学・糖尿病学	高血圧自然発症ラット(SHR(spontaneously hypertensive rat))より見いだされたメタボリックシンドローム関連遺伝子の生理的機能の解明
細胞生化学	研究指導教員	研究教授	今泉 美佳	細胞生物学・細胞内物質輸送	1. 細胞生物学 2. 開口放出機構の分子機構
細胞生化学	研究指導教員	准教授	青柳 共太	分子生物学・分子細胞生物学	1. インスリン分泌の分子機構 2. 極性分泌の分子機構
薬理学	研究指導教員	教授	櫻井 裕之	腎臓発生、上皮輸送、上皮の細胞生物学、癌	腎臓発生のメカニズム、腎尿管上皮の細胞生物学、再生医学、癌の浸潤、尿酸トランスポーター

目次に戻る

大学院担当教員専門分野および研究テーマ（2025年度）

所属	担当種別	職位	氏名	専門分野	研究テーマ
薬理学	研究指導補助教員	助教	福富 俊之	分子細胞生物学、プロテオミクス	「腎尿酸輸送分子複合体形成とその動的制御機構の解明」 「トランスポーターに関わるタンパク質間相互作用解析」
薬理学	研究指導補助教員	助教	堅田 智久	発生生物学	アフリカツメガエルおよびマウスを用いて、輸送体(トランスポーター)の発生期における発現と機能の解析を行っている。
薬理学	研究指導補助教員	助教	田中 弦	分子細胞生物学 ヘプチド・タンパク質化学	腎における尿酸輸送機構の解明 尿酸トランスポーターの発現調節機構の解析
薬理学	研究指導補助教員	助教	末弘 淳一	分子細胞生物学、血管生物学	生活習慣病(がん、脳血管疾患、心疾患)に対する創薬を目的とした、 1. 血管内皮細胞における遺伝子発現、転写調節機構の解析 2. アミノ酸トランスポーターを介した血管機能解析 3. 癌細胞、血管内皮細胞を用いたエピゲノム解析
病理学	研究指導教員	教授	柴原 純二	人体病理学	脳腫瘍の病理 消化器疾患の病理
病理学	研究指導教員	臨床教授	藤原 正親	肺癌の病理	肺疾患の病理
病理学	研究指導教員	准教授	長濱 清隆	人体病理学、実験病理学	非腫瘍性腎疾患の病理
病理学	研究指導教員	准教授	林 玲匡	病理診断学、分子病理学(特に肝胆膵領域腫瘍)	肝胆膵領域腫瘍(特に膵癌)の組織形態学および分子遺伝学的検索
病理学	研究指導教員	准教授	里見 介史	人体病理学	脳腫瘍の組織形態学および分子生物学的解析、およびDNAメチル化プロファイルの病理診断への応用
病理学	研究指導補助教員	任期制助教	日比谷 孝志	人体病理学	血液疾患の病理
病理学	研究指導補助教員	任期制助教	村田 翔平	人体病理学	泌尿器腫瘍の病理
病理学	研究指導補助教員	任期制助教	北濱 圭一郎	人体病理学	泌尿器疾患の病理
感染症学	研究指導教員	教授	三戸部 治郎	細菌学、分子生物学	「赤痢菌の病原遺伝子発現機構の解析」 「赤痢ワクチン候補株の開発」 「桿菌の桿状形態を形成する内膜蛋白RodZの機能解析」
感染症学	研究指導教員	准教授	森田 鉄兵	細菌学、分子生物学	「細菌のsmall RNAによる遺伝子発現制御の解析」
感染症学	研究指導補助教員	講師	須藤 直樹	細菌学、分子生物学	「腸管出血性大腸菌の病原遺伝子発現機構の解析」
衛生学公衆衛生学	研究指導教員	研究教授	刈田 香苗	健康科学、環境衛生学、疫学、産業保健学	大気汚染物質の健康影響評価、環境有害因子のリスクアセスメント、重金属類のヒューマン・バイオモニタリング、就労女性のヘルスプロモーション
衛生学公衆衛生学	研究指導教員	准教授	吉田 正雄	生命倫理、高齢者の保健・医療・福祉・介護、臨床疫学	高齢者の保健・医療・福祉・介護の制度と連携、死と終末期ケア、生活習慣病のリスクファクターに関する臨床疫学研究
衛生学公衆衛生学	研究指導補助教員	講師	白土 健	衛生学、免疫学、環境・栄養生理学	マクロファージを標的とした、 1) 習慣的運動の炎症抑制効果とそのメカニズムの解析 2) 機能性食品の炎症抑制効果とそのメカニズムの解析 3) ナノプラスチックによる代謝・炎症調節異常の解析
法医学	研究指導教員	教授	北村 修	法医病理学、精神神経薬理学	薬物依存、法医病理診断学
法医学	研究指導補助教員	講師	高篠 智	肉眼解剖学、組織化学、EMバッキング	肉眼解剖における変異の研究、脳ヘルニアにおける脳幹部の免疫組織化学的研究、心臓の刺激伝導系における免疫組織化学的研究、Embalming(エンバッキング)
法医学	研究指導補助教員	学内講師	吉田 昌記	歯科的個人識別、臨床歯科法医学	歯科的個人識別、臨床歯科法医学、遺体修復に用いる材料の開発
法医学	研究指導補助教員	助教	武市 敏明	法医病理学	法医病理学的自殺の指標の確立 病理組織学的手法を用いた刺激薬物乱用のスクリーニング検査の開発
法医学	研究指導補助教員	助教	山田 真嗣	法医学、皮膚科学一般	法医病理診断学、組織線維化、バラコート中毒、ブランクトン検査
放射性同位元素(RI)部門	研究指導補助教員	学内講師	小藤 剛史	分子神経生理学、細胞生物学、放射性物質の安全管理	・グリア細胞におけるsyntaxin1の機能解析 ・ヒト精神神経疾患とsyntaxin1遺伝子異常の関連 ・放射性物質の管理測定
70-74トトリ(FCM)部門	研究指導補助教員	講師	高橋 良	皮膚免疫学	・重症円形脱毛症/重症薬疹の病態解明
実験動物施設部門	研究指導補助教員	学内講師	北条 史	微生物学(細菌、原虫)	H. pyloriの胃内定着に關する因子の解析 実験動物の感染症
生物学	研究指導教員	教授	栗崎 健	神経生物学、発生遺伝学	1. ショウジョウバエ脳神経組織をモデル実験系に用いた、1) 神経幹細胞の発生・分化・進化機構の解明、2) 神経-グリア相互作用の基本原則の解明。 2. ショウジョウバエ近縁種を用いた環境適応の進化的機構の解明(NBRPプロジェクト「ショウジョウバエ種ストックセンター KYORIN-FLY」の運営と管理 http://shigen.nig.ac.jp/fly/kyorin/)
生物学	研究指導教員	准教授	平井 和之	遺伝学・細胞遺伝学・生化学	受精期における染色体DNA複製および染色体分配機構
生物学	研究指導教員	准教授	加藤 健太郎	神経科学、発生生物学	ショウジョウバエ中枢神経系をモデルとして、 (1) 損傷応答におけるグリア細胞の役割とその細胞・分子基盤 (2) グリア細胞の発生
物理学	研究指導教員	准教授	高原 哲士	原子核構造、生物物理学	原子核構造の理論的研究 生物物理学の理論的研究
物理学	研究指導教員	准教授	大谷 宗久	ハドロン物理理論: 核子・中間子の性質や構造の解析	核子および中間子の性質や構造に関する理論的研究 カイラル対称性と質量起源に関する理論的研究
化学	研究指導教員	教授	丑丸 真	物質輸送のエネルギー論・イオン輸送機構	・分泌経路型Ca ²⁺ -ATPase (SPCA) のCa ²⁺ 輸送機構 ・イオン輸送ATPaseのイオン選択性原理
化学	研究指導教員	准教授	須賀 圭	神経生化学、細胞生物学、細胞内小胞輸送	神経科学の分野におけるSyntaxinファミリー分子とCa ²⁺ -ATPaseの構造とそれらの生理的役割および神経変性疾患発症機構における役割の解明
化学	研究指導補助教員	講師	山本 幸子	酵素化学・応用微生物学	分泌経路型Ca ²⁺ /Mn ²⁺ 輸送ATPase (SPCA) の機能解析

医学研究科 授業科目一覧

別表 1 - 2

医学研究科における授業科目及び単位
(平成27年度入学者から適用)

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生	器官構築学	肉眼解剖学	4
		眼眼解剖学	8
		頭微解剖学	4
		頭微解剖学	4
理	病態生化学	ゲノム学	4
		ゲノム学	8
		ゲノム学	4
		ゲノム学	4
	生体機能制御学	細胞生理学	4
		細胞生理学	8
		細胞生理学	4
		細胞生理学	4
	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学	4
		分子細胞薬理学	8
		分子細胞薬理学	8
		分子細胞薬理学	4
病	病理学	病理学	4
		病理学	8
		病理学	8
		病理学	4
理	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学	4
		感染症・熱帯病学	8
		感染症・熱帯病学	8
		感染症・熱帯病学	4
系	臨床検査医学	臨床検査医学	4
		臨床検査医学	8
		臨床検査医学	8
		臨床検査医学	4

社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 社会医療情報学 社会医療情報学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4	
	法科	法科 法科 法科	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4	
内科	内科	呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科 呼吸器内科	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文 講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文 講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文 講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文 講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文 講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4	
		脳卒中医学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4	
		加齢医学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4	
		内科	総合医療学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4
			小児科	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4
			精神神経科学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4
			皮膚科学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4
			放射線医学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4
		系	放射線医学	講義・演習 実験・実習 課題研究論文 研究論文	4 8 8 4

外	科	学	消化器・一般外科学	講義・演習	4
			消化器・一般外科学	実験・実習	8
科	救	急	呼吸器・甲状腺外科	講義・演習	4
			呼吸器・甲状腺外科	実験・実習	8
系	整	形	乳腺外科	講義・演習	4
			乳腺外科	実験・実習	8
科	救	急	救急医学	講義・演習	4
			救急医学	実験・実習	8
系	整	形	リハビリテーション医学	講義・演習	4
			リハビリテーション医学	実験・実習	8
外	脳	神	経外科学	講義・演習	4
			経外科学	実験・実習	8
科	心	臓	血管外科学	講義・演習	4
			血管外科学	実験・実習	8
系	産	科	婦人科学	講義・演習	4
			婦人科学	実験・実習	8
科	眼	科	眼科学	講義・演習	4
			眼科学	実験・実習	8
系	耳	鼻	咽喉科学	講義・演習	4
			咽喉科学	実験・実習	8
科	泌	尿	器科学	講義・演習	4
			器科学	実験・実習	8
系	麻	酔	科科学	講義・演習	4
			科科学	実験・実習	8
科	小	児	外科学	講義・演習	4
			外科学	実験・実習	8
系	形	成	形成外科	講義・演習	4
			形成外科	実験・実習	8
専	攻	共	通科目	講義 I	4
			通科目	講義 II	2

別表 1 - 3

医学研究科における授業科目及び単位

(平成31年度入学者から適用)

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生 理 系	器官構築学	肉 眼 解 剖 学 講義・演習	4
		肉 眼 解 剖 学 実験・実習	8
		頭 微 解 剖 学 講義・演習	4
		頭 微 解 剖 学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
	病態生化学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
生体機能制御学	病態生理学 講義・演習	4	
	病態生理学 実験・実習	8	
	統合生理学 講義・演習	4	
	統合生理学 実験・実習	8	
	生体物理工学 講義・演習	4	
	生体物理工学 実験・実習	8	
系	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究論文演習	4
病 理 系	病理学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究論文演習	4
	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究論文演習	4
系	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習	4
		臨床検査医学 実験・実習	8
		臨床検査医学 課題研究論文演習	4
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習	4
		社会医療情報学 実験・実習	8
		社会医療情報学 課題研究論文演習	4
	法科	法科 講義・演習	4
法科 実験・実習	8		
法科 課題研究論文演習	8		
法科 研究論文演習	4		

内科	内 科 学	呼吸器内科学	呼吸器内科学	講義・演習	4
		呼吸器内科学	呼吸器内科学	実験・実習	8
		神経内科学	神経内科学	講義・演習	4
		神経内科学	神経内科学	実験・実習	8
		腎臓・リウマチ膠原病内科学	腎臓・リウマチ膠原病内科学	講義・演習	4
		腎臓・リウマチ膠原病内科学	腎臓・リウマチ膠原病内科学	実験・実習	8
		循環器内科学	循環器内科学	講義・演習	4
		循環器内科学	循環器内科学	実験・実習	8
		血液内科学	血液内科学	講義・演習	4
		血液内科学	血液内科学	実験・実習	8
内科	内 科 学	消化器内科学	消化器内科学	講義・演習	4
		消化器内科学	消化器内科学	実験・実習	8
		糖尿病・内分泌・代謝内科学	糖尿病・内分泌・代謝内科学	講義・演習	4
		糖尿病・内分泌・代謝内科学	糖尿病・内分泌・代謝内科学	実験・実習	8
		腫瘍内科学	腫瘍内科学	講義・演習	4
		腫瘍内科学	腫瘍内科学	実験・実習	8
		内科学	内科学	課題研究	8
		内科学	内科学	論文演習	8
		内科学	内科学	論文演習	4
		内科学	内科学	論文演習	4
系	脳 卒 中 医 学	脳卒中医学	脳卒中医学	講義・演習	4
		脳卒中医学	脳卒中医学	実験・実習	8
		脳卒中医学	脳卒中医学	課題研究	8
系	加 齢 医 学	加齢医学	加齢医学	講義・演習	4
		加齢医学	加齢医学	実験・実習	8
		加齢医学	加齢医学	課題研究	8
内科	内 科 学	総合医療学	総合医療学	講義・演習	4
		総合医療学	総合医療学	実験・実習	8
		総合医療学	総合医療学	課題研究	8
		総合医療学	総合医療学	論文演習	4
		小児科学	小児科学	講義・演習	4
		小児科学	小児科学	実験・実習	8
		小児科学	小児科学	課題研究	8
		小児科学	小児科学	論文演習	4
		精神神経科学	精神神経科学	講義・演習	4
		精神神経科学	精神神経科学	実験・実習	8
内科	内 科 学	皮膚科学	皮膚科学	講義・演習	4
		皮膚科学	皮膚科学	実験・実習	8
		皮膚科学	皮膚科学	課題研究	8
		皮膚科学	皮膚科学	論文演習	4
		放射線医学	放射線医学	講義・演習	4
		放射線医学	放射線医学	実験・実習	8
		放射線医学	放射線医学	課題研究	8
		放射線医学	放射線医学	論文演習	4
		放射線医学	放射線医学	論文演習	4
		放射線医学	放射線医学	論文演習	4
外科	外 科 学	消化器・一般外科学	消化器・一般外科学	講義・演習	4
		消化器・一般外科学	消化器・一般外科学	実験・実習	8
		呼吸器・甲状腺外科学	呼吸器・甲状腺外科学	講義・演習	4
		呼吸器・甲状腺外科学	呼吸器・甲状腺外科学	実験・実習	8
		乳腺外科学	乳腺外科学	講義・演習	4
		乳腺外科学	乳腺外科学	実験・実習	8
		乳腺外科学	乳腺外科学	課題研究	8
		乳腺外科学	乳腺外科学	論文演習	8
		乳腺外科学	乳腺外科学	論文演習	4
		乳腺外科学	乳腺外科学	論文演習	4
系	救 急 医 学	救急医学	救急医学	講義・演習	4
		救急医学	救急医学	実験・実習	8
		救急医学	救急医学	課題研究	8
系	救 急 医 学	救急医学	救急医学	論文演習	4
		救急医学	救急医学	論文演習	4
		救急医学	救急医学	論文演習	4

別表 1 - 4

医学研究科における授業科目及び単位

(令和4年度入学者からの適用)

科目区分	授業科目							単位数	
								必修	選択
科目共通	特別研究							8	
	医学	研究	研究	研究	講義	義義	I II	4 2	
専門科目	脳神経学	講義・演習	4						
	脳神経学	講義・演習	4						
	呼吸器学	講義・演習	8						
	呼吸器学	講義・演習	4						
	腎臓学	講義・演習	4						
	腎臓学	講義・演習	4						
	腎臓学	講義・演習	4						
	循環器学	講義・演習	8						
	循環器学	講義・演習	4						
	血液学	講義・演習	4						
	血液学	講義・演習	8						
	糖尿病	講義・演習	4						
	糖尿病	講義・演習	4						
	糖尿病	講義・演習	8						
	消化器学	講義・演習	4						
	消化器学	講義・演習	4						
	消化器学	講義・演習	8						
	腫瘍学	講義・演習	4						
	腫瘍学	講義・演習	8						
	高齢学	講義・演習	4						
	高齢学	講義・演習	8						
	精神神経学	講義・演習	4						
	精神神経学	講義・演習	4						
	小児学	講義・演習	8						
	小児学	講義・演習	4						
	消化器学	講義・演習	4						
	消化器学	講義・演習	8						
	呼吸器学	講義・演習	4						
呼吸器学	呼吸器学	呼吸器学	呼吸器学	呼吸器学	呼吸器学	呼吸器学	講義・演習	4	
乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	講義・演習	8	
乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	乳がん学	講義・演習	4	
小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	講義・演習	8	
小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	小児学	講義・演習	4	
救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	講義・演習	4	
救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	救急学	講義・演習	8	

医学研究科カリキュラムマップ

医学研究科 医学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連				
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 専門知識と技術	(3) 情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力
共通科目	主科目 特別研究	1~4通	8		○	○	○	○	○
	副科目 医学研究講義Ⅰ	1通	4		○		○	○	○
	医学研究講義Ⅱ	1通	2		○		○		○
専門科目 (主科目・副科目)	脳神経内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	脳神経内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	脳神経内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	呼吸器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	呼吸器内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	呼吸器内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	循環器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	循環器内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	循環器内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	血液内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	血液内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	血液内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	消化器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	消化器内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	消化器内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	腫瘍内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	腫瘍内科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	腫瘍内科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	高齢医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	高齢医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	高齢医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	精神神経科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	精神神経科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	精神神経科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
小児科学 講義・演習	1前		4	○	○	○			
小児科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○		

医学研究科 医学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連				
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 専門知識と技術	(3) 情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力
専門科目（主科目・副科目）	小児科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	消化器・一般外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	消化器・一般外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	消化器・一般外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	呼吸器・甲状腺外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	乳腺外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	乳腺外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	乳腺外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	小児外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	小児外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	小児外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	救急医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	救急医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	救急医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	脳神経外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	脳神経外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	脳神経外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	心臓血管外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	心臓血管外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	心臓血管外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	整形外科 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	整形外科 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	整形外科 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	皮膚科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	皮膚科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	皮膚科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	形成外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	形成外科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	形成外科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	泌尿器科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	泌尿器科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
泌尿器科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○		
眼科学 講義・演習	1前		4	○	○	○			
眼科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○		

医学研究科 医学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連				
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 専門知識と技術	(3) 情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力
専門科目（主科目・副科目）	眼科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	耳鼻咽喉科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	耳鼻咽喉科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	耳鼻咽喉科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	産科婦人科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	産科婦人科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	産科婦人科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	放射線医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	放射線医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	放射線医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	放射線腫瘍学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	放射線腫瘍学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	放射線腫瘍学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	麻酔科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	麻酔科学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	麻酔科学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	臨床検査医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	臨床検査医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	臨床検査医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	総合医療学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	総合医療学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	総合医療学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	リハビリテーション医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	リハビリテーション医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	リハビリテーション医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	脳卒中医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	脳卒中医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	脳卒中医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	肉眼解剖学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	肉眼解剖学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	肉眼解剖学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	顕微解剖学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	顕微解剖学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
顕微解剖学 課題研究	3通		8	○	○	○	○		
統合生理学 講義・演習	1前		4	○	○	○			
統合生理学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○		

医学研究科 医学専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連				
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 専門知識と技術	(3) 情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力
専門科目(主科目・副科目)	統合生理学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	病態生理学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	病態生理学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	病態生理学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	代謝生化学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	代謝生化学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	代謝生化学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	細胞生化学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	細胞生化学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	細胞生化学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	薬理学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	薬理学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	薬理学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	病理学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	病理学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	病理学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	感染症学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	感染症学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	感染症学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	衛生学・公衆衛生学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	衛生学・公衆衛生学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	衛生学・公衆衛生学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	法医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	法医学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	法医学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	発生・遺伝学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	発生・遺伝学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
	発生・遺伝学 課題研究	3通		8	○	○	○	○	
	生体物理工学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
	生体物理工学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○	
生体物理工学 課題研究	3通		8	○	○	○	○		
分子機能生化学 講義・演習	1前		4	○	○	○			
分子機能生化学 実験・実習	2通		4	○	○	○	○		
分子機能生化学 課題研究	3通		8	○	○	○	○		

医学研究科 生理系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連				
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力
専門科目	器官構築学分野	肉眼解剖学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		肉眼解剖学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		顕微解剖学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		顕微解剖学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		器官構築学 課題研究	3通	8	○	○	○	○	
		器官構築学 研究論文演習	4通	4	○	○	○	○	○
	病態生化学分野	分子細胞生物学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		分子細胞生物学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		代謝生化学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		代謝生化学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		分子機能生化学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		分子機能生化学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		病態生化学 課題研究	3通	8	○	○	○	○	
		病態生化学 研究論文演習	4通	4	○	○	○	○	○
	生体機能制御学分野	病態生理学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		病態生理学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		統合生理学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		統合生理学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		生体物理工学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		生体物理工学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		生体機能制御学 課題研究	3通	8	○	○	○	○	
		生体機能制御学 研究論文演習	4通	4	○	○	○	○	○
	分子細胞薬理学分野	分子細胞薬理学 講義・演習	1前	4	○	○	○		
		分子細胞薬理学 実験・実習	2通	8	○	○	○	○	
		分子細胞薬理学 課題研究	3通	8	○	○	○	○	
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4通	4	○	○	○	○	○
	専攻共通科目	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4	○		○		○
		基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2	○		○		○

医学研究科 病理系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	病理学分野	病理学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		病理学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		病理学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		病理学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	感染症・熱帯病学分野	感染症・熱帯病学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		感染症・熱帯病学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		感染症・熱帯病学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	臨床検査医学分野	臨床検査医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		臨床検査医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		臨床検査医学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		臨床検査医学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
専攻共通科目	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4		○		○		○	
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2		○		○		○	

医学研究科 社会医学系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	社会医療情報学分野	社会医療情報学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		社会医療情報学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		社会医療情報学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		社会医療情報学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	法科学分野	法科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		法科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		法科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		法科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
専攻共通科目	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4		○		○		○	
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2		○		○		○	

医学研究科 内科系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	内科学分野	呼吸器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		呼吸器内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		神経内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		神経内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		循環器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		循環器内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		血液内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		血液内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		消化器内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		消化器内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		腫瘍内科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		腫瘍内科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		内科学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		内科学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○
	脳卒中医学分野	脳卒中医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		脳卒中医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		脳卒中医学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		脳卒中医学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○
	加齢医学分野	加齢医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		加齢医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		加齢医学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		加齢医学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○
	総合医療学分野	総合医療学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		総合医療学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		総合医療学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		総合医療学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○
	小児科学分野	小児科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		小児科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		小児科学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		小児科学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○
	精神神経科学分野	精神神経科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		精神神経科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		精神神経科学 課題研究	3通	8			○	○	○	○
		精神神経科学 研究論文演習	4通	4			○	○	○	○

医学研究科 内科系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	皮膚科学分野	皮膚科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		皮膚科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		皮膚科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		皮膚科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	放射線医学分野	放射線医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		放射線医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		放射線医学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		放射線医学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
専攻共通科目	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4		○		○		○	
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2		○		○		○	

医学研究科 外科系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	外科学分野	消化器・一般外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		消化器・一般外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		乳腺外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		乳腺外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		外科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		外科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	救急医学分野	救急医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		救急医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		救急医学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		救急医学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	整形外科分野	整形外科 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		整形外科 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		リハビリテーション医学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		リハビリテーション医学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		整形外科 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		整形外科 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	脳神経外科学分野	脳神経外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		脳神経外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		脳神経外科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		脳神経外科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	心臓血管外科学分野	心臓血管外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		心臓血管外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		心臓血管外科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		心臓血管外科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	産科婦人科学分野	産科婦人科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		産科婦人科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		産科婦人科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		産科婦人科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	眼科学分野	眼科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		眼科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		眼科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		眼科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	耳鼻咽喉科学分野	耳鼻咽喉科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		耳鼻咽喉科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		耳鼻咽喉科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		耳鼻咽喉科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○

医学研究科 外科系専攻 カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		学位授与方針との関連					
			必修	選択	(1) 社会的責任	(2) 知識と専門技術	(3) 専門分野の情報収集と分析	(4) 問題解決能力	(5) 情報発信力	
専門科目	泌尿器科学分野	泌尿器科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		泌尿器科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		泌尿器科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		泌尿器科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	麻酔科学分野	麻酔科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		麻酔科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		麻酔科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		麻酔科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	小児外科学分野	小児外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		小児外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		小児外科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		小児外科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
	形成外科学分野	形成外科学 講義・演習	1前		4	○	○	○		
		形成外科学 実験・実習	2通		8	○	○	○	○	
		形成外科学 課題研究	3通	8		○	○	○	○	
		形成外科学 研究論文演習	4通	4		○	○	○	○	○
専攻共通科目	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4		○		○		○	
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2		○		○		○	

2025年度 大学院医学研究科 行事予定

2025年4月～9月	前期 授業期間
2025年4月4日(金) 17:00	学位申請締切
2025年4月6日(日) 10:30	春学期入学生 入学式(三鷹キャンパス)
2025年4月10日(木) 17:30	春学期入学生 オリエンテーション
2025年4月15日(火)	2025年度 春季研究報告会
2025年4月18日(金)	履修申告・研究進捗状況報告書提出締切
2025年5月下旬	春季 健康診断
2025年8月上旬～9月上旬	夏季休業期間
2025年9月12日(金)	前期 学位記授与式(三鷹キャンパス)
2025年9月16日(火)	秋学期入学生 入学式
2025年9月18日(木) 17:30	秋学期入学生 オリエンテーション(予定)
2025年9月～2025年3月	後期授業期間
2025年10月3日(金)	履修申告・研究進捗状況報告書提出締切
2025年10月21日(火)	2025年度 秋季研究報告会
2025年10月24日(金) 17:00	学位申請締切
2025年11月11日(火)	創立記念日
2025年11月下旬	秋季 健康診断
2025年12月下旬 ～ 2026年1月4日(日)	冬季休業期間
2026年3月15日(日)	後期 学位記授与式(三鷹キャンパス)

II. 学 修 要 綱

1. 理念・目的

医学研究科は、本学の建学の精神である「眞・善・美の探究」に基づいて、「科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成」を理念・目的とする。

2. 教育目標

医学研究科は「医学・医療の各領域で指導的な役割を果たすべく、当該領域に関する高度な専門知識・技能を含む豊かな学識を備えるとともに、自立した研究者として研究活動を行うための基本的な研究能力を、自らの研究の実施と論文執筆を通して証明できること」を教育目標として掲げる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

医学研究科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、専門科目、共通科目の2つの区分からなる授業科目を編成し、コースワークとリサーチワークを体系的・順次的に組み合わせた授業を実施する。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

(1) 教育内容

(1-1) 社会的責任を果たすことのできる人材の育成のために

- ・生命科学・医学研究分野における最新の知見を幅広く修得するための講義を配置する。
- ・高い倫理観を身に付けるため、医学研究遂行上必要となる倫理に関する初期教育を行うほか、e-learning教材（eAPRIN）を用いた教育を行う。

(1-2) 専門知識と技術の修得のために

- ・専門領域の知識と技術を修得するため、講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。
- ・専門領域の最新の知見を修得するため、学会・論文抄読会等への参加を推奨する。

(1-3) 専門分野の情報収集と分析技法の修得のために

- ・情報収集能力およびその分析技法を修得するため、医学文献収集管理の技術や実験データのデジタル画像処理・解析法の講義を配置するとともに、統計解析セミナーにおいて実践的な演習を行う。

(1-4) 問題解決能力の涵養のために

- ・計画に沿った適切な研究の実践、研究結果の分析を通じて問題解決能力を涵養する。

(1-5) 情報発信力の涵養のために

- ・論文作成の基本技術、研究成果発表の技術に関する講義・指導等を配置する。
- ・設定した研究課題の結果を論文にまとめるため、論文執筆指導を行う。

(2) 教育方法

(2-1) 専門知識・技術と幅広い学識の修得のために

上記教育内容の修得を確実なものとするために、通常の講義の他に、e-learning を積極的に活用するほか、専門科目においては指導教員による個別指導もしくは少人数指導による双方向講義やアクティブラーニングの積極的な実施など、多様な教育方法を効果的に組み合わせて実施する。

(2-2) ライフイベントによらない効率的な学習を可能にするために

- ・必修の共通科目のうち、講義はオンラインで開講する。

(3) 成果の測定

以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力等を測定し、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価する。

- (3-1) 各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) を用いて履修科目の達成度を評価する。
- (3-2) eAPRIN の試験を用いて、研究倫理の修得度を測定する。
- (3-3) 中間報告会と学位論文審査において、卒業認定・学位授与の方針で示した能力の修得度を測定する。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

医学研究科では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士（医学）の学位を授与する。

(1) 社会的責任

- ・豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、医学・医療の分野において指導的な役割を担うことができる。

(2) 専門知識と技術

- ・専門領域に関する知識と技術を身につけ、専門分野での実践に活かすことができる。

(3) 情報収集と分析

- ・医学・医療に関わる諸分野に関して、適切な情報の収集と分析ができる。

(4) 問題解決能力と科学的洞察力

- ・医学・医療分野に関わる課題を設定して、その課題追究のための研究計画を策定し、適切に研究を遂行できる。
- ・研究の成果とその意義について科学的洞察力を用いて適切に考察できる。

(5) 情報発信力

- ・研究によって得られた知見を客観的に評価し、論理的に構成して発信できる。
- ・研究成果を説得力を持って発表できるよう、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につける。

4. 課程の修了要件

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に授与する。（学位規程第5条）

【修了要件】

本研究科博士課程を修了するためには、同課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を挙げた者については、同課程に3年以上在学すれば足りるものとする（大学院学則第26条の2）。

5. 学位

博士課程の修了要件を満たした者には「博士（医学）」を授与する。

6. 指導教授

研究科における研究の指導および授業は、原則として本学の教授が担当する（大学院学則第5条）。学生は専攻課程に従って、それぞれの指導教授を定める。

指導教授は必要に応じて2名以上とすることができる（大学院学則第19条）。

7. 授業科目および履修申告、履修認定について

(1) 研究科の授業科目は、当該専門分野の授業科目および特別研究を主科目とし、他の専門分野の授業科目および医学研究講義Ⅰ・Ⅱを副科目とする。

(2) 修了に必要な単位数は、次の科目を含め30単位以上とする（大学院学則第26条の2第1号）。

(1) 主科目は専門科目16単位、特別研究8単位、計24単位以上を必修とする

(2) 副科目は医学研究講義Ⅰ・Ⅱ計6単位を必修とする

(3) 履修計画の立案・申告については指導教授の承認を受け、「研究計画・研究指導計画および履修計画書」（別紙様式1）により以下の指定された期日までに行う。

(1) 春学期入学者：2025年4月18日（金）17時まで

(2) 秋学期入学者：2025年10月3日（金）17時まで

※必修科目は教務係が学園システム上で履修登録等を行うため各自の対応は不要

(4) 当該専門分野以外の副科目については、全ての科目を履修することができる。自らが学びたい知識・技能等や関連分野の研究指導を受けたい場合には、指導教員に相談のうえ、副科目としての履修申請を行うこと。

(5) 科目の履修認定は、学期末または学年末に試験または研究報告によって行い、その方法は学科目担当教授が定める（大学院学則第23条）。認定は、春学期入学生の場合、翌年の3月末に、秋学期入学生の場合、翌年の9月14日までに行う。

(6) 他大学大学院又は研究所等と予め協議の上当該機関の授業科目を履修した場合、15単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなすことができる。但し、この場合は、履修証明書又は成績証明書等を医学部事務課教務係（大学院担当）へ提出すること。科目内容を確認したうえで単位認定を行う。なお、単位認定を受けた科目の評語はNとなる。（医学研究科履修規程第5条第3項）

(7) 医学研究講義（旧科目名称：基礎臨床共通講義）については下記のとおりとする。

【医学研究講義（旧科目名称：基礎臨床共通講義）】

〈目的〉

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野について研究者として自立した研究活動を行うに必要な研究能力、及び将来学術研究の指導者たる資質養成の一助とする。

〈講義の位置付け〉

(1) 取扱いは、副科目とし必修科目とする。

(2) 原則 WEB 講義で開講し、講義レポートの提出をもって出席とする。

なお、指導教授の許可を得て他の大学院及び学術団体等が主催する講演会、セミナー等に出席する場合、あらかじめ医学部教務係に届け出て本講義出席の振替ができるものとする。

(3) 1年毎に講義計画を立て、1年毎の単位の認定を行う。

(4) 事前準備について

各講義の講義内容を提示するので、各学生はこれに基づき関連分野について事前に下調べをしたうえで講義に臨むこと。

(5) 履修の認定について

① 医学研究講義 I（旧科目名称：基礎臨床共通講義 I（医科学研究基礎講座））

全講義の 20 回以上の出席を以って 4 単位とする。

② 医学研究講義 II（旧科目名称：基礎臨床共通講義 II（医科学研究特論））

全講義の 12 回以上の出席を以って 2 単位とする。

※フィードバックについて

アンケートに記載された質問に対しては担当教員がコメントを送る。

(6) 講義日程・時間

詳細な日程については、日程表を参照のこと。

(7) 医学研究講義への振替受講について

研究報告会、公開学位論文発表会、特別講演、医学研究科が開催するイブニングセミナーへの参加は、医学研究講義の出席へ振替が可能である。

① 公開学位論文発表会へ参加した場合、参加 1 回で医学研究講義 II を 1 回を受講したものとみなす。但し上限 2 回とする。

② 研究報告会、特別講演及び、医学研究科イブニングセミナーへ参加した場合、参加 1 回で医学研究講義 II を 1 回受講したものとみなす。

③ ①及び②の日程については、医学研究科HP又は掲示板等で確認すること。

8. 成績評価

各科目の評価は以下の様に行う。

①シラバスに記載されている各授業科目の到達目標の達成度を、〈成績評価方法〉により、5段階（1～5）で評価する。

5：特に優れている

4：優れている

3：普通

2：劣っている

1：特に劣っている

②各到達目標の達成度の平均値を求める。

③上記②の平均値／5の値に基づき5段階評価を行う。

成績評価

（設定した到達目標の達成度（100％）に対する総合判定を100点とした場合）

5段階評価（S、A、B、C、D） SABCを合格とする

S：90点以上

A：80点以上90点未満

B：70点以上80点未満

C：60点以上70点未満

D：60点未満（不合格）

9. 時間割

1時限（9：00～10：30）

2時限（10：45～12：15）

3時限（13：15～14：45）

4時限（15：00～16：30）

5時限（16：45～18：15）

6時限（18：30～20：00）

7時限（20：15～21：45）

※夜間開講の授業時間 5、6、7時限

10. 学位論文作成に至る研究指導の態勢について

(1) 学位論文のための研究、論文作成についての指導等（以下「研究指導」という）は、当該専門分野の指導教授のもとで行われる。指導教授は指導教員を1名以上指名し、共に研究指導にあたる。研究課題が複数の分野にまたがる場合には、他の専門分野から指導教員を選任することも可能である。

(2) 入学時には「研究計画・研究指導計画および履修計画書」（別紙様式1）により、研究課題、年度別研究計画の概要を記載し、大学院教務担当（大学院教務委員会）に提出する。

指導教授は年度別研究指導計画を、学生の同意のもとに立案する。

(3) 各学年年度末には「研究進捗状況報告・研究計画書および研究指導計画書」（別紙様式2）により、研究の進捗状況、次年度以降の研究計画の概要を大学院教務担当（大

学院教務委員会)に報告する。

指導教授は指導教員とともに学生に面接・試問を実施し、研究に関する理解度等の評価と進捗状況の確認を行い、その結果を報告する。また、進捗状況を踏まえた次年度以降の研究指導計画を、学生の同意のもとに立案する。

大学院教務担当(大学院教務委員会)は報告書を点検し、必要に応じて、学生本人、指導教授、指導教員間の調整を行う。

- (4) 学位論文提出予定の1年半前(通常三年次)には、研究科教員の参加する「研究報告会」において以下の点を含め学位論文論文作成の進捗状況の報告を行い、出席者からの助言、指導を受ける。

- ① 研究課題
- ② 背景 関連分野の現況。専攻研究に関する概説
- ③ 目的 何をどこまで明らかにする予定かを説明
- ④ 方法 この目的を達成するための実験計画について
- ⑤ 結果 その時点での研究の進行状況
- ⑥ 学位論文完成までの予定

11. 学位取得の手続き

学位申請に係る申請要領及び提出書類は以下のページよりダウンロードすること。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/students/degree/>

※申請要領・所定様式は「博士課程によるもの」をダウンロードすること。

12. 特例(早期修了)学位審査について(大学院学則第26条の2による)

申請資格

- (1) 所定の単位を既に修得していること。
- (2) 指導教授より推薦されること。
- (3) 学位論文の主要な内容が、査読制度のある極めて優れた学術雑誌に印刷公表され、または受理され掲載が決定し、【主論文】として提出できること。
- (4) 掲載雑誌の5-Year Impact Factor (IF)が5点以上であることに加え、各研究領域別IFランキングで上位に位置する雑誌であると教務委員会が認めたもの。

※IFランキングの判断については、申請資料に基づき教務委員会が個別に検討を行う。

※副論文が提出されている場合は、その内容も参考として検討する。

申請書類

特例学位審査申請時は以下の書類を提出すること。

- (1) 特例学位審査申請書(研究科長宛)
- (2) 指導教授による推薦書(研究科長宛)
- (3) 学位論文
- (4) 主論文(必須)

- (5) 副論文（任意）
- (6) 研究業績一覧表

※特例学位審査申請の承認後、「4.提出書類について」に記載された書類を提出すること。

特例学位審査資格の事前確認

大学院教務委員会において次のとおり事前確認を行う。

- ・申請書類をもって、申請者の申請資格確認および申請論文の可否審議。
- ・学位申請の特例可の場合、報告書を以って運営委員会に諮る。

修了時期 3年次の学期末

13. 国内留学について

教育研究上有益と認めるときは、他大学大学院及び研究機関等へ研究指導等の委託を依頼し、当該機関において研究学生として研究活動を行うことができる。

申請される場合には、「大学院学生の研究指導委託について（申請）」様式により、申請手続を行うこと。

提出先： 医学資料情報センター棟2階 医学部事務課教務係（大学院担当）

14. 海外留学について

海外研修又は留学する場合には、必要な手続等の説明を行うので、医学部事務課教務係（大学院担当）まで届け出ること。期間によっては休学手続が必要となる。

15. 社会人学生について

平成21年度より「働きつつ大学院に就学する人」に対して、教育上の特別な配慮を行う措置を開始した。

これは、大学院設置基準第14条に定められた教育方法の特例「教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」を適用するものである。

対象となる学生は、官公庁、民間企業、病院、教育・研究機関等に正規の身分で勤務しており、入学後も在職のままで就学を行う学生（以下、**社会人学生**）とする。

(1) 特別措置

- ・対象者には、授業及び研究指導が、夜間や土曜日、その他特定の時間又は時期において行われる。※研究指導体制については、志望する分野の指導教授と事前によく相談すること。
- ・修業年限（4年間）を超えて引き続き在籍する場合は、以後の学納金が半額となる場合がある。（適用条件は、大学院担当へ確認ください）
- ・特別措置に関する事項以外については、社会人学生の出願資格、入学試験、成績評価の基準、学位審査等の基準は、一般の学生と同等とする。

(2) 在籍中の変更

- ・在籍中の学生が新たに職に就く場合、中途より社会人学生の取り扱いを希望することができる。この場合は、(1) 勤務先の就学承諾書を提出するとともに、(2) 指導教授と教育研究指導体制の変更について十分な打合せをすること。
- ・社会人学生が勤務先を退職する場合、社会人学生の取り扱いを解くことができる。この場合も、指導教授と事前に教育研究指導体制の変更についてよく打合せをし、医学部事務課教務係（大学院担当）へ連絡すること。

16. コース変更について

在学中に所属するコースの変更を希望する場合は、変更前及び変更後のコースの指導教授に相談した上で医学部事務課教務係（大学院担当）に申し出ること。

17. 共同研究施設の利用について

医学研究科の大学院生は、医学研究科に設置されている 6 つの共同研究施設を利用することができる。ページの「共同研究施設部門」を参照のうえ、各部門の利用規定に従って利用申請等の手続きを行うこと。

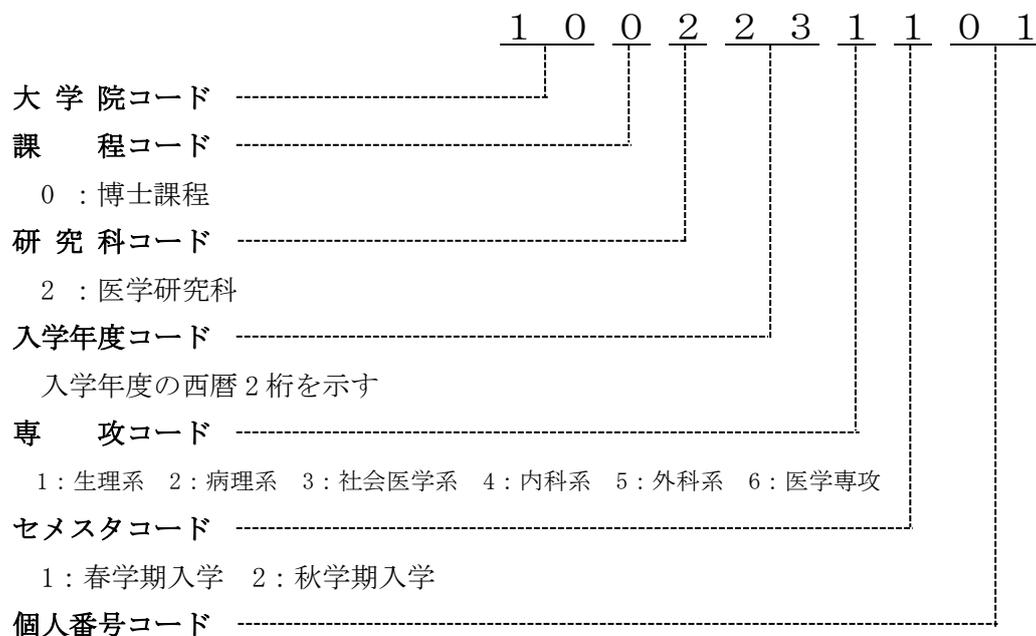
III. 学生生活

1. 身分関係（学籍番号・学生証・学生カード）

学籍番号

本研究科の学生には、学籍番号が与えられます。学籍番号は 10 桁で学生証に記載されており、専攻変更その他特別な事由がない限り変更されません。

学籍番号は、氏名と一体として、またその番号のみで、該当する学生を表し、学内の連絡、指示などに用いられますので、学籍番号の取扱いには十分留意してください。



学生証

学生証は、本学の学生であることを証明する身分証明書です。常に携帯し紛失したりすることのないよう、大切に扱って下さい。

また、身分証明書のほか、学割証発行控・通学定期乗車券発行控になっています。

1. 学生証の交付

新入生にはオリエンテーション時に交付します。

2. 学生証の呈示

次の場合は、学生証を呈示して下さい。

(1) 通学定期券や学生割引乗車券を購入するとき

通学に利用する交通機関で「通学証明書」を必要とする場合は、学生係で手続きをとって下さい。

帰省、研究旅行、体育・文化活動等のために片道 100 km 以上の交通機関を利用する場合は、自動発行機で「学校学生生徒旅客運賃割引証」の手続きをして下さい。1 人が 1 回に交付を受けることができる枚数は 2 枚で、原則として 1 年間 10 枚までとします。

(2) 各種証明書の交付を受けるとき

各種証明書の交付を受けるときは、事務室窓口で学生証を呈示して申請・交付を受けて下さい。

- (3) 本学施設や備品を使用するとき
 - (4) 本学の教職員又は鉄道係員等から請求のあったとき
3. 学生証をなくしたとき
- 学生証を紛失（盗難、遺失）すると他人に悪用されて思わぬ迷惑を受けることがあります。
- 紛失した時は直ちに最寄りの警察に届け出たのち、自動発行機より申請書を購入し、写真 1 枚を添えて教務係に提出して下さい（再発行 2,000 円）。再交付後に発見されたときは最初に発行した学生証を直ちに返還して下さい。
- なお、洗濯等により汚・破損した場合は、その学生証を添えて再交付手続をとって下さい。
4. その他の注意
- (1) 学生証は、他人に貸与したり、譲渡したり、汚損してはいけません。
 - (2) 学生証は、卒業又は退学等により本学学生の身分がなくなると同時に失効しますので直ちに教務係に返還して下さい。

学生カード

学生カードは、大学と学生の間を常に結ぶ絆として、緊急時等に必要な連絡先を把握するために設けられたものです。記載事項を漏れなく正確に（特に氏名は戸籍通りの書体で）記入して提出して下さい。記入事項に変更が生じたときには、その都度教務係に届け出て下さい。

学生カードは「個人情報保護法」に基づき厳重に管理します。「学生カード」は学生本人・保証人への連絡・通知など各種学内外への事務手続や教育活動をするための資料として必要な場合に利用しますが、その他の目的には利用されません。

2. 学生生活の留意事項（学納金・本人及び保証人変更・各種証明書等）

学納金

新入生の学納金及びその他の納付金は、入学手続と同時に納入していただきますが、次学期以降は次のとおりとなります。納入期間は前期 4 月 5 日～30 日、後期 9 月 5 日～30 日です。

1. 「学納金サイト」
(<https://kyorin-u-gakunoukin.fundexapp.jp/login>) にアクセス
2. 学籍番号（10 桁）、学生カナ氏名（全角・スペースなし）、学生生年月日（8 桁）を入力しマイページにログイン
3. 振込口座情報および納付金額を確認し、「ネットバンキング」「ATM」「銀行窓口」のいずれかより納入



- ①振込先口座番号は学納金振込時にご自身で入力する必要があります。
- ②「学納金サイト」にて過去の振込履歴の確認学納金等納入証明書の発行が可能です
- ③学納金が期日までに納入されないと、学生本人宛に督促を行います、さらに納入がないと学則 38 条により除籍になりますので注意して下さい。

学納金の延納

やむを得ない理由により学納金を延納したい場合は教務係にすみやかに「学納金延納願」を提出し所定の手続きを行って下さい。提出のない場合は学則 38 条により除籍されます。(延納期限は 3 ヶ月まで)。

学納金の減免について

休学の期間が 1 学期 (半年) 以上にわたる者で、学期の始めまでに休学願を提出し、学長が承認した場合、その学期の学納金の 20% が減免されます。

【休学願の提出期限】

前期：3 月 31 日まで 後期：9 月 14 日まで

※上記期限を過ぎて提出された場合、原則として学納金減免の対象となりません。

本人及び保証人の変更

在学中に本人又は誓約書に記入した保証人につき以下の変更があった場合、直ちに所定の変更届の用紙に必要事項を記入し教務係に提出して下さい。

- (1) 保証人が死亡その他の理由により変更になったとき。
- (2) 改姓・改名・本籍地の変更など戸籍記載事項に変更が生じたとき。(戸籍抄本等の提出が必要です。)
- (3) 住居表示などによる地番変更のとき。
- (4) 本人又は保証人の住所・電話番号が変更になったとき。

現住所が訂正されないまま放置されていたため大学からの事務連絡等が到着しなかった例がありますので十分注意して下さい。

通 知

大学院医学研究科から学生への通知・連絡は、原則として学園システム「UNIVERSAL PASSPORT (通称 ユニパ)」を通じて行います。連絡事項はユニパ上の掲示板でいつでも確認できるほか、登録したメールアドレスに連絡内容が通知されます。通知先 (メールアドレス) の変更はユニパ上でご自身で変更が可能です。

なお、通知した事項は、学生に周知されたものとして取り扱われます。学生は通知を見なかったことを理由に責任を免れることはできません。

ユニパログイン画面 (<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/>)

ログイン ID：学籍番号 (10 桁)

パスワード：A 生年月日 (8 桁) a ※初期状態から変更していない場合



各種証明書

次項各種証明書を受ける場合は、看護・医学教育研究棟 1 階に設置している【自動発行機】をご利用のうえ、「証明書発行願」を提出して下さい。証明書の種類によって即時交付できないものもあるので「証明書発行願」は早目に提出して下さい。

自動発行機にて申請する場合

設置場所：看護・医学教育研究棟 1 階

利用時間：平 日 9：00 ～ 17：00（但し木曜日のみ 9：00 ～ 16：30）

土曜日 9：00 ～ 12：30

使用方法：

- ① 発行機の所定の位置に学生証をタッチしてください
- ② メニューから必要な証明書、部数を選択して下さい。
- ③ 確認のうえ、手数料を入金して下さい。
- ④ 発行された“証明書発行願”を担当窓口へ提出して下さい。

備 考：春季・夏季・冬季休み期間中時間変更及び一時停止します。

直接窓口で申請する場合

場 所：医学情報資料センター棟 2 階 医学部事務課教務係

申請時間：平 日 9：30 ～ 17：00

土曜日 9：30 ～ 13：00

必要書類：身分証明書（学生証、運転免許証、パスポート等）

- ① 代理人の方が申請する場合、又は証明書を受け取る場合は、代理人の方の身分証明書が必要です。
- ② 証明書を郵送で受け取られる場合は、返送用の切手をご持参下さい。

発行日数：申請書類によって異なります。

和文証明書 申請後（又は、交付願が到着後）3 日程度

英文証明書 申請後（又は、交付願が到着後）1 週間程度（土日祝除く）※

但し、年度末・学期末前後・夏季冬季休暇期間等は、日数を多く要することがありますので、日程に余裕をもって申請して下さい。

問合せ先：平 日 9：30 ～ 17：00

医学部事務課教務係（医学資料情報センター棟 2 階）

0422-47-5511（内線 23211）

窓口発行（取扱証明書他）

※証紙の“証明書発行願”を提出のこと

種類	担当窓口	申請方法	手数料
学生旅客運賃割引証	学生係	自動発行機より証明書発行	不要
通学証明書	学生係	通学証明書用紙に必要事項記入	不要
在学証明書（和文）	教務係	自動発行機より証明書発行	1 通 300 円
在学証明書（英文）	教務係	証明書発行願を提出	1 通 500 円
在籍証明書（和文）	教務係	〃	1 通 300 円
在籍証明書（英文）	教務係	〃	1 通 500 円
成績証明書（和文）	教務係	〃	1 通 300 円
成績証明書（英文）	教務係	〃	1 通 500 円

単位取得証明書（和文）	教務係	〃	1通 300円
単位取得証明書（英文）	教務係	〃	1通 500円
修了証明書（和文）	教務係	〃	1通 300円
修了証明書（英文）	教務係	〃	1通 500円
修了見込証明書（和文）	教務係	〃	1通 300円
修了見込証明書（英文）	教務係	〃	1通 500円
学位授与証明書（和文）	教務係	〃	1通 300円
学位授与証明書（英文）	教務係	〃	1通 500円
その他証明書（和文）	教務係	〃	1通 300円
その他証明書（英文）	教務係	〃	1通 500円
健康診断証明書	人事課	証明願（あんず NET から DL 又は 人事課にあります）を提出 ※公印が必要な場合は、指導教授の 押印が必要となります。	不要

身分に関する願・届出

[願]

種類	受付窓口	提出期限及び時期	適用
休学願	教務係	事由の生じたとき	保証人の連署押印、 病気の場合は、医師 の診断書
退学願	教務係	〃	〃
復学願	教務係	事由が消滅したとき	保証人連署、病気 の場合は本学付属病院 の医師の診断書
再入学願	教務係	〃	保証人連署・押印
学納金延納願	教務係	学納金納入期日まで に提出すること	保証人連署・押印

※休学（学則第 30 条）・復学（学則第 32 条）・退学（学則第 36 条）・再入学（学則第 37 条）

[届]

種類	受付窓口	提出期限及び時期	適用
改姓・改名届	教務係	その都度	戸籍抄本
住所（本籍）変更届	教務係	〃	
保証人変更届	教務係	〃	新保証人の署名押印
保証人住所変更届	教務係	〃	保証人の署名押印

※各種願出・届出は大学院 HP よりダウンロードしてください。

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/students/certificates/>

3. 自転車・バイク及び自動車の乗り入れについて

通学で自転車・バイク（50 cc以下）を利用する場合は、許可を受けた上で構内の臨時駐輪場を利用することができます。学生係で駐輪許可証を発行してもらい指定された場所に駐輪して下さい。（50 ccを超えるバイクの乗り入れは禁止しています。）

また、本学では学生のキャンパス内自動車乗り入れは禁止になっています。学内駐車場も使用出来ません。

東門は土曜、日曜、休日及び学生の休日を除く平日で開閉されます。

〔開門時間〕 午前7時40分～午前9時10分まで

午後4時30分～午後5時30分まで

なお、開門にあたっては次のこと遵守して下さい。

- (1) 東門及び南門から構内に入構する者は、歩行者並びに承認登録された自転車のみとする。
- (2) 自転車利用者は、病院駐車場東側一方通行路から下車して歩行により進行する。
- (3) オートバイによる東門からの構内進入は禁止する。なお、50 cc以下のオートバイについては、南門からの入構を認める。
- (4) 通学路での歩行喫煙及び大声の会話、その他騒音は禁止する。
- (5) 駐車場東側一方通行路を含め道路等の駐輪、駐車を禁止する。
- (6) 道路等に空き缶、紙くず、吸殻等ゴミのポイ捨てを禁止する。
- (7) その他他人に対する迷惑行為を禁止する。

4. 経済生活

育英奨学制度について、次のようなものがあります。

- (1) 日本学生支援機構奨学金制度
- (2) その他

- (1) 日本学生支援機構奨学金制度

下記のとおり、第一種（無利息）、第二種（利息付）に分けて採用しています。日本学生支援機構から推薦依頼があった際に通知しますので、貸与希望者は早めに医学部教務係で所定の出願手続の説明指導を受けて下さい。

【第一種奨学金（無利息）】

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/taiyo/taiyo_1shu/index.html

申込資格	学力基準：大学並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究者として自立して研究活動をおこない、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力を備えて活動することができる者と認められる者 家計基準：本人及び配偶者の収入（目安） 340万円（注：442万円） （注）研究能力が特に優れている者、特別な事情があると認められる者などについての収入基準超過額の許容範囲。
------	--

貸与月額	80,000円又は122,000円
貸与期間	貸与開始の月から修了するまでの標準修業年限 (毎年「奨学金継続願」の提出と学業成績等の審査があります)

【第二種奨学金（利息付）】

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/taiyo/taiyo_2shu/index.html

申込資格	学力基準（次のいずれかに該当する者） ① 大学並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究者として自立して研究活動をおこない、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力を備えて活動することができると思われる者 ② 学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者 家計基準 本人及び配偶者の収入（目安） 718万円以下
貸与月額	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円から選択
貸与期間	貸与開始の月から修了するまでの標準修業年限 (毎年「奨学金継続願」の提出と学業成績等の審査があります)

※ 第一種と第二種の貸与を併せて受けることもできます。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/taiyo/heiyo/index.html>

【申込方法と手続】

在学採用	入学後の申込 毎年春に募集を行います。希望者は、教務係まで申し出て下さい。
緊急採用 応急採用	緊急の申込 家計の急変で奨学金を緊急に必要とする場合は、教務係まで申し出て下さい。第一種奨学金（無利子）は緊急採用、第二種奨学金（有利子）は応急採用と呼びます。

(2) その他の奨学金

- ・各地方公共団体の行う育英奨学金制度
貸与希望者は、出身都道府県に問い合わせてください。
なお、各都道府県から推薦依頼があれば直ちに通知します。
- ・民間育英事業団奨学制度
各団体により、詳細が異なるので募集があれば直ちに通知します。
- ・私費外国人留学生に対しては、学業成績、経済的事情を審査の上、日本学生支援機構が主催する学修奨励費に推薦する。

5. 健康管理

健康管理について

(1) 本学医学部付属病院の利用

学生が在学中、疾病その他身体に異常が生じたとき、本学医学部付属病院を利用するこ

とができます。付属病院で診察を受けるための手続は、原則として一般外来患者と同様です。また、診察を受ける際には必ず健康保険証と学生証を持参してください。

(2) 定期健康診断

在学中の健康管理の第一歩として、「学校保健法」の定めによる「定期健康診断」を実施します。

社会人学生は勤務先で健康診断を受診されても構いません。

ア. 実施時期

春季及び秋季健康診断は日程が決まり次第、掲示板並びに郵便、メール等にて実施案内を通知します。

イ. 受診内容

内科・胸部直接撮影・血液検査・視力・聴力等

ウ. 「健康診断証明書」の交付を必要とするときは、人事課窓口で証明書を申し込んで下さい。

エ. 放射線業務従事者（ガラスバッジ装着者）は電離健康診断（皮膚科・眼科）も併せて受診となります。

6. 学生相談

相談制度について

学生生活を送っていく中で様々な問題（人間関係、健康、学業に関すること等…）に直面した時、ひとりで悩まずに気軽に学生相談室（学生カウンセラー）を利用し、相談して下さい。

(1) 学生相談室

○開室日

- 火・木 10:00～17:00

○利用の仕方

- [学生相談予約申込フォーム](#)より予約

（相談予約変更・問合せ用メール gaku-sou@ksot.kyorin-u.ac.jp）

○場所

- 医学資料情報センター（本部棟）5階 杏会事務室内

（但し、図書館入口からは行くことが出来ませんので本部棟エレベーターをご利用下さい。）

※井の頭キャンパスの学生相談室も利用可能ですので、お問い合わせ下さい。

（10:00～17:00、月～金 井の頭キャンパスD棟 116）

(2) ハラスメントに関する相談について

ハラスメントの被害にあったときは、学生係まで申し出て下さい。

相談員との面談の受付を行っています。

(3) 外部相談窓口

学生とその保護者を対象として、外部相談窓口をティーペック株式会社に委託しており、経験豊かな看護師や保健師、心理カウンセラーなどの専門スタッフに相談することができます。

○提供サービス

①からだに関する相談

健康や医療のご相談について、医師や保健師・看護師等の有資格者が24時間365日対応します

②こころに関する相談

こころの悩みに専任カウンセラーが対応します。

全国の提携カウンセリングルームでの面談によるカウンセリングも可能です。

○問合せ・受付時間

URL：<https://consult.t-pec.co.jp/service/yp0ger>

電話相談：0120-002-120（通話料無料）

受付時間：① 24時間 年中無休

② 9:00～22:00 年中無休

7. 学生教育研究災害傷害保険制度

学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）について

教育研究活動中および通学中に生じた、急激かつ偶然な外来の事故によって身体に障害を被った場合に保険金が支払われます。ただし「病気」はこの保険の対象となりません。

この保険で対象となる事故が生じた場合は、ただちに、事故の日時、場所、状況、傷害の程度を東京海上日動の損害サービス課へ事故通知を行う必要があるため、学生係へ連絡して下さい。事故発生日から30日以内に保険会社に「事故通知」を提出しないと、保険金が支払われない場合がありますので注意してください。

教育研究活動中とは

- ・正課中の講義、実験、実習などを受けている間
- ・大学主催の各種学校行事に参加している間
- ・大学施設内にいる間（大学が禁じた時間もしくは場所にいる間は除く）

接触感染予防保険金について

臨床実習の目的で使用される施設内で、感染症の病原体に予期せず接触し、その原因となる事故の発生日からその日を含めて180日以内にその接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合、保険金が支払われます。

※詳細は、「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」を参照して下さい。

※「学研災 付帯学生生活総合保険」については、各自手続きを行って下さい。

8. 医師国民健康保険の加入について

本学医学部付属病院 病院庶務課 において三鷹市医師会加入手続きを行っています。また、医師国民健康保険への加入を希望される場合には、手続書類等もお渡ししますので、病院庶務課へ問合せください。

9. 図書館

大学は文字通りに大いに学ぶところです。学ぶということは、まず先人の遺産、業績をたどることから始められます。古今東西の先人の遺産すなわち人類の知恵は、主として図書、学術雑誌というかたちで伝えられ、現在もなお日々生み出され蓄積され続けています。

したがって、学ぶためには大いに図書館を利用することが不可欠です。図書館を効果的に利用するには、まず図書館の中を自分の足で歩き、自分の目で確かめ、多くの資料群と親しくなることから始めましょう。

医学図書館の規程の概略は以下のとおりです。

1. 開館日・開館時間

ア. 次の日を除き毎日開館

創立記念日（11月11日）、年末年始休館日（12月29日～1月3日）、
その他整備点検等のための臨時休館日（その都度HP等でお知らせします）。

イ. 平日 8:30～22:30

土・日・祝日 9:00～22:30

（ただし、必要に応じて臨時に変更することがあります。）

2. 図書館の利用方法・サービス

⇒利用案内 (https://library.kyorin-u.ac.jp/?page_id=16958) をご確認ください。

3. その他の注意事項

館内への密閉容器に入った飲み物以外の飲食物の持ち込み、喫煙や携帯電話の使用は禁止です。静謐な雰囲気づくりにご協力をお願いいたします。

館内のパソコンは、学習・研究目的の利用に限らせていただきます。また、私用のプリントアウトは禁止です。詳細は図書館にお問い合わせ下さい。

10. コンピューター室の利用について

PC室前の案内板に使用予定表が掲示されています。掲示が「開放」と書かれている日時が利用可能です。

ログイン（初期設定）※ユニパと同じ	
ID： 学籍番号	PW： A生年月日 a(10ケタ)
例) ID: 1002231101	PW: A19961111a

11. 杏林大学学内LAN

杏林大学内で、インターネットに接続する際は、以下14条からなる「杏林大学学内LAN利用心得」を順守する必要があります。利用者が以下の遵守事項や杏林大学において制定されている規程に違反していると認められた場合には、法律、学則、その他諸規程により処分することがあります。利用の際は十分に注意してください。

杏林大学学内LAN利用心得

- ① 不正に他人のメールアドレス、パスワードを使用しない。

- ② 自分のメールアドレス、パスワードを他人に使用させない。
- ③ 他人のプライバシーを侵害しない。
 例えば ・他人のメールを許可なく公開しない。
 ・他人のメールを許可なく見ない。
- ④ 著作権を侵害しない。
 ホームページの情報内容には著作権が存在するので、利用する場合には著作権保有者に承諾を得る必要があります。
 以下の行為は著作権の侵害にあたります。
 例えば ・他人のホームページや電子掲示板に載っている文章や画像、書籍・雑誌・新聞の記事や写真を無断で自分のホームページに転載すること。
 ・無許可の音楽ファイル（MIDI、MP3等）をダウンロードすること。
 ・音楽CD等から取り込んだデータを無断で掲載したり頒布すること。
- ⑤ 安易に個人情報（氏名・住所・生年月日・カードNo.等）を入力し発信しない。個人情報悪用されて、身に覚えのない請求が来たり犯罪に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑥ 他人の誹謗中傷、名誉毀損をしない。
- ⑦ 公序良俗に反する行為をしない。
 例えば、ハッキング、他人のプライバシー侵害やストーカー行為、デマ情報の発信、わいせつ画像の公開、いやがらせ・脅迫・迷惑メール等の発信をしない。
- ⑧ 大学の品位を損なうような情報にはアクセスしない。
- ⑨ 特定宗教の布教または宣伝に利用しない。
- ⑩ 政治活動または選挙活動またはこれに類する行為をしない。
- ⑪ 物品等の購入契約及び団体等の入会契約を行わない。
- ⑫ 営利を目的とした行為をしない。
- ⑬ 法律、及び杏林大学や総合情報センターが別に定める規程等に違反しない。
- ⑭ コンピュータウイルスを持ち込む等、コンピュータシステムの正常な運用を妨げるような行為をしない。

注意事項

- ・利用者は全ての利用行為に対して責任を持ってください。ネットワークを通して本学のドメイン名（kyorin-u.ac.jp）が外部に発信されていることを忘れないでください。
- ・学内LANまたは外部ネットワークにおいて、保守作業や停電、天災などの不可抗力、その他の異常が発生し正常な運用に支障を来す場合、またはその恐れがある場合は、予め通知できる場合を除き予告なしに緊急に運用を停止することがあります。重要なデータなどは各自でバックアップをとって下さい。

12. 学生用 Wi-Fi について

三鷹キャンパスでは学生用 Wi-Fi を利用できます。以下の方法で設定してください。

利用可能場所：	医学部講義棟A、医学部講義棟B、松田進勇記念アリーナ、医学図書館
ネットワーク名：	kyogak
I D：	学籍番号
パスワード：	A生年月日a（10ケタ） 例：1966年11月11日生⇒A19661111a

<Android11 以降および Chromebook 利用者の Wi-Fi 「kyogak」 への接続手順>

項目	設定方法
E A P 方式	: PEAP 方式
フ ェ ー ズ 2 認 証	: MSCHAPV2
C A 証 明 書	: システム証明書を使用
オンライン認証ステータス	: 検証しない
ド メ イ ン	: Kyorin-u. ac. jp
I D	: 学籍番号
パ ス ワ ー ド	: A生年月日 a(10ケタ) 例:1966年11月11日生⇒A19961111a

13. 学生用メールアドレスと Microsoft365 について

学生用のメールアドレス@std.kyorin-u を含むメールアドレスを在學生に配布します。このメールアドレスで Microsoft365 にログインすると、Excel や Word などアプリを使用することができます。

詳細は総合情報センターのホームページから確認してください。

<https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/unipa/unipa.html>



14. ソーシャルメディアの利用について

情報社会の急速な進展に伴って、ブログや Twitter、facebook、Instagram、Youtube、LINE など、様々なソーシャルメディアが登場し、情報を効果的に伝えられる便利なコミュニケーションツールとして社会に広く浸透しています。

一方で、これらのソーシャルメディアは、いったん発信すれば削除をしても履歴や第三者による保存などによって完全に消し去るのは困難になるというオンラインサービスの特性から、不用意な言葉や映像を投稿したために多数の閲覧者から非難が殺到していわゆる“炎上”するケースがたびたび起きていることは皆様ご承知のとおりです。

自由な言論活動・コミュニケーション活動は尊重されるべきですが、不適切な投稿によって個人の尊厳を侵すようなことがあってはならず、思慮を欠いた言動や映像の発信は刑事罰や民事上の係争にもつながりかねません。

学生をはじめ本学園の皆さんがソーシャルメディアを利用するにあたっては、下記の事項に十分留意した上で、責任あるコミュニケーション活動をされるようお願いいたします。

(学園の一員としての自覚)

ソーシャルメディアの利用にあたっては、杏林学園の一員であることを自覚し、また社会を構成する一員として、品位ある態度を保った、責任ある行動を心掛けること。

本学園構成員であることを明らかにした上でコミュニケーション活動を行う場合は、自身の意見・見解が学園の意見・見解を代弁するものではないことを明らかにすること。

(人権の尊重)

コミュニケーション活動の基本として、一人ひとりの個性や多様性を尊重し、異なる意見や

考え、生き方を互いに認め合うことを心掛けること。

(法令の遵守)

法令の遵守はもとより、利用サービスの規約等を十分に理解し、遵守した上で行うこと。

特に、基本的人権・著作権・肖像権・商標権を侵害しないよう、他者が著作権を有する著作物を利用する場合は、使用許諾を得るとともに、第三者による複製、引用等に関しての注釈を明記することや、人物の画像を使用する場合は、肖像権を侵害しないようにするなど、留意すること。

(情報発信にあたっての遵守事項)

次のような情報は発信してはならない。

- ・他者に対する誹謗中傷、名誉棄損、嫌がらせ等
- ・他人のプライバシーに関する事
- ・職務等で知りえた守秘義務のある情報
- ・公序良俗に反する内容
- ・差別的な内容

(自身のプライバシーの保護)

利用サービスの内容を吟味し、自他（自身及び家族、友人、関係者等）を問わず個人情報（氏名、住所、電話番号、メールアドレス等）を登録・公開する際に十分な注意を払うこと。

共同研究施設部門

電子顕微鏡部門

1. 施設の概要

電子顕微鏡は、組織や細胞の微細構築を研究するために必須の機器であり、超薄切片を用いて内部構造を観察する透過型電子顕微鏡と、組織等の表面構造を観察する走査型電子顕微鏡の2種類がある。

当部門では、透過型電子顕微鏡2台と走査型電子顕微鏡2台が常時稼働しており、また、電子顕微鏡本体以外に、超薄切片作製のためのウルトラマイクローム、臨界点乾燥装置、凍結乾燥装置、オスミウムコーター、マイクロスライサーなども設置されている。病理組織をはじめとする各種の臨床検体や、培養細胞などを観察することにより、疾患の原因究明も含めた各種生体機能の解明を目指した研究目的に活用されている。

2. 施設の設置場所

三鷹キャンパス 基礎医学研究棟 地下1階

3. 担当教員

部門長 宮東 昭彦（顕微解剖学教室 教授）

実験助手 早川 純理

4. 利用(使用)について

(1) 利用(使用)資格:

当部門の電子顕微鏡や付帯設備を利用(使用)できるのは、下記のいずれかに該当する者とする。

- ① 本学の教職員、医員等
- ② 本学の大学院生、学部学生、研究生
- ③ 学内あるいは学外の共同研究者

(2) 利用と使用の区別

利用者は、試料を提供し、電子顕微鏡写真の作製を依頼する。試料の準備や観察項目について、当部門の担当者とあらかじめよく打ち合わせを行う。

使用者は、自らが直接、当部門の電子顕微鏡や付帯設備を操作する者を指し、通常の利用者と区別する。電子顕微鏡の講習受講の有無、作業経験、習熟度により、当部門からの指導に従って作業を行う。

(3) 利用(使用)料金:

原則として、利用(使用)者および教室の登録料、利用料等は不要である。

利用(使用)者は試料処理等に係る消耗品を負担する。

5. 利用(使用)申込

新たに電子顕微鏡を用いる研究を計画の方は、使用規程※および使用内規※を一読の上、利用申請書※に必要事項を記入して、メールまたは直接電子顕微鏡部門に提出すること。申請は随時受付ける。

※電子顕微鏡部門の学内ホームページ <http://www3.kyorin-u.ac.jp/emlab/> を参照。

提出先・問合せ先

電子顕微鏡部門 内線 23407、E-mail: junri@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林大学医学部電子顕微鏡施設使用規程

制定 1990年（平成2年）6月1日

改正 2025年（令和7年）4月1日

1. 利用者ならびに利用者の資格：

電子顕微鏡機器ならびにそれに付帯する設備を使用あるいは利用できるのは、下記のいずれかに該当する者とする。

- ① 本学の教職員、医員等
- ② 本学の大学院生、学部学生、研究生
- ③ 学内あるいは学外の共同研究者
- ④ その他、電子顕微鏡部門運営委員会（電顕運営委員会）が適当と認めた者

2. 使用または利用上の手続：

当施設の使用または利用を希望する者は、所定の手続用紙を用い、電顕運営委員会に申請して、承認を受ける。

3. 使用または利用に関する条件：

当施設の使用または利用にあたっては、電顕運営委員会が別に定める「電子顕微鏡施設使用内規」の定めに従い、かつ機器および設備の保守・管理にも細心の注意を払うものとする。電子顕微鏡機器ならびに付帯設備の使用または利用については、当該申請者の電子顕微鏡操作の熟練度ないし施設の利用目的に応じて、一定の条件を設ける。

杏林大学医学部電子顕微鏡施設使用内規

1990年（平成2年）6月1日

1. 目的：

電子顕微鏡施設使用規定に基づき、共同利用研究施設として、電子顕微鏡施設の機能を維持し、かつ円滑で効率良い運営を図るために本内規を定める。

2. 使用及び利用：

「使用者」とは、電子顕微鏡機器あるいは付帯設備を実際に操作する者を指し、単に使用試料を提供し、電子顕微鏡写真の作製を依頼する「利用者」と区別する。

使用者は、機器および設備の適切な操作技術の習熟に努め、使用中に異常の発生または疑問の生じた場合、電子顕微鏡部門運営委員会部門長（電顕部門長）または電子顕微鏡室（電顕室）技術員に速やかに連絡する。

使用者および利用者は、当施設の保守、管理にも十分な配慮をする。

3. 使用者の資格区分：

使用者は、電子顕微鏡操作技術の熟練度によって、資格を次のように区分する。

- ① 初級者：これから電子顕微鏡操作を学ぼうとする者、あるいはそれに準ずる者
- ② 中級者：学内あるいは学外で所定の講習を修了し、かつ電子顕微鏡に関して一通りの技術を習得している者
- ③ 上級者：電子顕微鏡操作について、豊富な経験を有し、予測される状況に適切に対処できる者で、電子顕微鏡部門運営委員会（電顕運営委員会）が選定した者

4. 資格区分による使用上の制約：

- ① 初級者は、電顕室技術員あるいは上級者の直接の指導のもとに施設の使用が認められる。
- ② 中級者および上級者は、単独で施設を使用することができる。但し、中級者が使用する際には、必要に応じて電顕室技術員あるいは上級者の指導、監督を受けることができる。

5. 「利用」について：

使用者として直接操作に従事することが困難な場合には、試料を提供し、電子顕微鏡写真の作製を依頼することができる。但し、利用方法については、電顕部門長の指示に従う。

6. 所用経費の負担：

- ① 消耗品は、原則として使用者または利用者負担とする。
- ② 施設の保守、管理に要する費用は、当面、原則として使用者および利用者の所属教室または研究室が分担して負担する。負担額は、状況に応じて電顕運営委員会が決定する。

放射性同位元素部門

1. 施設の概要

共同研究施設・放射性同位元素部門は、医学部における放射性同位元素(RI)を用いた研究のために共同利用される場である。

医学並びに生命科学分野の研究では放射線及びRIの利用が非常に有用である。しかし、過剰に放射線を被曝することは人体への障害を誘発する可能性があるとして、放射線やRIの利用は一定の防護を施した施設で限定的に行われることになっている。当部門には、原子力規制委員会の許可を受けた管理区域があり、医学部でのRIの使用はこの管理区域内でのみ認められている。

当部門は、管理区域等の施設や設備の維持管理、放射線業務従事者の被曝・健康管理を行い、法令の規則に則ったRIの安全利用ができる環境を利用者に提供することで、医学・生命科学研究の発展に貢献している。

2. 施設の設置場所

臨床医学研究棟1階

3. 担当教員

部門長： 丑丸 真(化学教室・教授)
RI管理室： 小藤 剛史(学内講師)
 佐藤 康彦(実験助手)
放射線取扱主任者：小藤 剛史(学内講師)
 末弘 淳一(薬理学教室・助教)

4. 設置機器

放射線測定機器(液体シンチレーションカウンタ、 γ カウンタ、
MicroBeta TriLux、各種サーベイメータ等)
画像解析装置(Typhoon FLA9500、BAS1800 II)
細胞培養設備(クリーンベンチ、CO₂ インキュベータ等)
遠心機、振盪機、恒温槽、ハイブリオーブン、HPLC、
セルハーベスタ、製氷機等

5. 利用について

(1) 申請方法

“放射線業務従事者登録願”、“作業計画書”、“誓約書”をRI管理室へ提出する。(様式の間い合わせはRI管理室へ。内線 23511、23512 または rilab@ks.kyorin-u.ac.jp)他機関で放射線業務従事者登録の経験がある場合、それまでの被曝歴等を示す書類も提出する。

健康診断を受診し、結果を提出する。(必要な項目は要問合せ)

書類を提出し、新規登録者に対する教育訓練の受講後に、放射線業務従事者として登録される。

(2) 利用可能な時間帯

時間内: 平日 9:00～17:00、土 9:00～13:00

時間外: 平日・土の上記以外の時間帯、日祝等

放射線業務従事者は、事前にRI管理室へ連絡の上で時間帯に関わらず施設の利用が可能である。

ただし、施設点検、床清掃、全棟停電等で施設を利用できない日がある。

(3) 利用料金等

現在、登録・利用料金は無い。

(4) その他

大学で行われる春季・秋季の健康診断を受診すること

(他病院での受診も可)。

教育訓練(新規または継続)を受講すること。

管理区域への出入りは指紋照合システムで管理している。利用者は指紋登録をすること。

RIの注文はネット上のJ-RAMシステムで行う。使用にはID登録が必要である。

画像解析装置 Typhoon FLA9500 の蛍光、化学発光での利用者は一時立入者としての登録が可能である。

環境中の放射線量・空間線量率の測定のために、測定器の貸出が可能である。

6. 諸規程等

当施設は、杏林大学放射線防護委員会規程、杏林大学大学院医学研究科共同研究施設運営規程、杏林大学医学部放射線障害予防規程、放射性同位元素等規制法等の法令の規則の下に管理運営されている。

フローサイトメトリー部門

1. 施設の概要

杏林大学大学院医学研究科共同研究施設フローサイトメトリー部門は、蛍光標識した細胞を超高速に解析・分取する「フローサイトメトリー (Flowcytometry/ FCM)」を扱う共同利用施設で、1990 年に設立されました。当部門で扱うフローサイトメトリーは、最大で1秒間あたり10,000 個の細胞を蛍光標識抗体等で10 項目測定する事が可能です。さらに生きたまの細胞を1個単位で試験管に分取し、培養実験や遺伝子解析に使用する事ができるセルソーターも運用しています。また、ELISA 法 (Enzyme-Linked ImmunoSorbent Assay)の代替ツールとしてCBA 法 (Cytometric Beads Array)によるサイトカイン等の測定が可能になり、低コストかつ簡便に測定することが出来ます。このように、フローサイトメトリーは免疫学や分子生物学、細胞生物学、再生医療学等で重要なツールとして学内の多くの研究者に利用されています。

2. 施設の設置場所

臨床医学研究棟 5階 507号室/508号室(分室)

3. 担当教員

部門長 大山 学 教授
副部門長 高橋 良 講師

4. 設置機器

フローサイトメトリー : 日本 BD FACSCanto II
フローサイトメトリー : 日本 BD FACSLyric
セルソーター : 日本 BD FACSMelody
セルソーター : 日本 BD FACSAria IIu
磁気ソーター : ミルテニーバイオテック QuadroMACS Separator、BioLegend MojoSort
フローサイトメトリー解析ソフトウェア : FlowJo、Kaluza、FCAP Array Software

5. 利用について

(1) 申請方法

担当教員へお問い合わせ下さい(直接訪問・電話・WEBより)。

(2) 利用可能な時間帯

初心者は月曜～金曜の平日朝9時から夕方5時まで。
使用経験の豊富な方は時間を問わず使用可能です。

(3) 利用料金等

年間登録料が必要です。詳細は Web ページを御覧ください。

<http://fcm.umin.jp/>

(4) その他

大学院生の使用は、登録教室の責任者の許可を必要とします。

6. 諸規程等

フローサイトメトリーは学内の共同利用の大変精密で高価な機器であるため、以下の事について留意してご使用ください。使用規定が守られない場合は、利用を中止していただきます。また、これらの点は利用状況に応じて変わって行く事がありますのでご了承ください。

・利用目的の制限

当部門での測定・実験は「研究」を対象とし、臨床・診断を目的とした用途には使用できない。

・使用者

使用者は、登録を行った杏林学園の教職員、研究員、大学院生・学部学生とし、他の機関からの利用は学内のいずれかの部署との共同研究という形で受け入れる。なお、この場合の「共同研究」とは杏林学園が定める「杏林大学共同研究取扱いに関する規定」に基づくものである。共同研究者・大学院生・学部学生の場合は代表責任者の許可を必要とする。新規使用者は、原則当該機器メーカー主催のトレーニングを必要とする。

・事前登録制

FCM の使用は原則的に FCM 登録料を支払った教室・講座・研究グループ等に限る。登録料は年度開始時に講座研究費から移換で行うが、他の研究費などからの支払いの場合は事前に相談すること。各教室の代表責任者は、所定の用紙(登録申請書)に使用者を登録すること。登録者以外は使用できない。登録単位は教室・講座等とし、これに該当しない場合は要相談とする。

・使用時間

原則として月曜～金曜の AM9:00～PM6:00 の間とする。ただし、使用方法に習熟し、管理者が認めた場合には時間外の使用も認められる場合があるが、時間外の講習会・委託測定は受け付けない。

・予約制

機器の使用は予約制のため、使用の際は前日までに WEB 予約システムで予約する事。予約状況は当教室の WebSite で確認できる。ただし、講習会・委託測定の予約は Web 上では受け付けていない。予定時刻に遅れる場合やキャンセルする場合は、速やかに予約システムを変更するか、FCM 部門へ連絡しなければならない。

・使用できるフローサイトメトリーとセルソーター、ソフトウェア

- 1) 日本 BD 社製 FACSCanto II: デジタルアナライザー。488nm + 633nm + 405 nm(8 カラー)
- 2) 日本 BD 社製 FACSLyric: デジタルアナライザー。488nm + 633nm + 405 nm(12 カラー)
- 3) 日本 BD 社製 FACSMelody セルソーター。488nm + 640nm + 405 nm(9 カラー)
- 4) 日本 BD 社製 FACSAria IIu: セルソーター。488nm + 633nm + 405 nm(9 カラー)
- 5) ミルテニーバイオテック社製 QuadroMACS Separator: 磁気細胞分離ソーター4 カラム対応

- 6)FlowJo: フローサイトメトリー解析ソフトウェア(USBドングルレンタル:3ユーザー分)
- 7)Kaluzza: フローサイトメトリー解析ソフトウェア(USBドングルレンタル:3ユーザー分)
- 7)FCAP Array Software: CBA 解析ソフトウェア

・登録料

年度単位(4月1日から翌年3月末まで):10万円 / 教室・講座等

※登録教室の減少によっては登録料を見直す。

料金に含まれる物:BD FACSTFlow、BD FACSRinse、BD FACSClean、BD CST Beads、BD AccuDrop Beads、BD FC Beads 7-Color Kit

料金に含まれない物:上記以外(抗体や測定チューブ、FACSAria IIu 用 Integrated Nozzle)

・技術講習会

無料技術講習会は、すでに当該機器の使用経験があり、当該機器メーカー主催のトレーニングを受講している方への講習会です。機器の経験が全く無い場合は、原則当該機器のメーカー主催の講習会の受講を必須とします(有償)。専用の申し込み用紙(技術講習申込書)を提出後、講習内容を FCM の教員と相談し、実地日を決定する。FCM 部門所有機器の利用を目的としない講習会(他部署で使用する目的等)は、原則的に行っていない。

・委託測定

原則的に使用者自身で機器の操作を行っていただく方針をとっているため、測定依頼は1、2回の使用や少数のサンプルの測定時のみ適応される。希望者は、専用の申し込み用紙(委託測定申込書)を提出後、実験計画を FCM の教員と相談し、測定日を決定する。使用可能な機器は、登録した機種である。なお、委託測定によって得られたデータを発表するときは、測定・解析者を共著とすることが望ましい。

・委託料金

A)委託測定(測定～結果出力)

10,000 円/時間の技術料を徴収する。

料金に含まれる物:BD FACSTFlow、BD FACSRinse、BD FACSClean、BD CST Beads、技術料

料金に含まれない物:上記以外(抗体や測定チューブ、メディアム、サンプル調整)

B)委託ソーティング

1回あたりの最初の1時間 minimum charge 30,000 円とする。最初の1時間を越え、以後1時間につき10,000 円とする。ソーティング委託を行う場合は、少なくとも1週間以上前に教員と実験のコンサルタント及び予約を行う事。未予約のソーティングは行わない。委託者はアジャスタブルノズル、ノズル用 O-ring を購入し、委託者専用品として使用し、使用後は委託者が保管する。

料金に含まれる物:BD FACSTFlow、BD FACSRinse、BD FACSClean、BD CST Beads、技術料

料金に含まれない物:上記以外(Integrated Nozzle、抗体やサンプル収集チューブ、メディアム、サンプル調整)

・磁気細胞分離ソーター

FACSria のソーティングの前処理や、FACS ソーターを利用しないセルソーティング用に、磁気細胞分離ソーターをレンタルする。

- 1)レンタルは、分離ソーター本体のみで、必要な試薬・カラムなどは利用者が用意する。
- 2)レンタル機器の使用は、原則1日単位とし、予約システムで管理する。
- 3)レンタル機器の使用は、各自の教室にて行う。
- 4)使用後はソーター本体を70%アルコール等で消毒してから返却すること。
- 5)大変強力な磁石を内蔵しているため、機器の取り扱いには十分注意すること。

・測定試料の制限

- 1)病原体感染試料の測定は原則として受け付けない。ただし固定処理(グルタルアルデヒド等)などの感染防御処置を施した場合はこの限りではないが、実験開始前に具体的な防御処置について記載した所定の書類を提出すること。
- 2)使用後の処置は使用者の責任で行うこと。
- 3)遊離蛍光物質が高濃度に存在する試料は、機器に支障を与えるため使用してはならない。誤って使用した場合は所定の方法で十分洗浄すること。

・重要事項

1. 測定用 Falcon® ラウンド チューブ 5 mL ポリスチレン等の消耗品、抗体等の試薬は各利用者が準備する。
2. FACSria用 Integrated Nozzle(70 μ m:BD Cat#643940、85 μ m:BD Cat#643941、100 μ m:BD Cat#643942)は、各自用意する。FACSriaのシャットダウン時には、ロック用ノズルを装着する。
3. FCM 室の鍵は電子ロック式になっている。FCM 部門が許可を与えている者に限り、職員証の認証にて解錠することができる。許可を得ていない者が解錠した事が判明した場合(例:教室に所属する他の教員・学生等に職員証を渡して解錠等)、ペナルティとして、当該教室のFCM 機器の1ヶ月間使用禁止処分とする。
4. 実験で生じた廃棄物は全て持ち帰ること。放置の場合は断りなしに処分する。
5. FACS の廃液は次亜塩素酸 Na(FACSClean)で消毒後、廃棄する。
6. 機器にトラブルが発生した場合は、管理者へ連絡する事。
7. 機器の使用時間は、開始はレーザーの立ち上げから、終了はシャットダウンまでとする。
8. 利用規定を守らない者は、利用の停止を命ずる場合がある。
9. 故意に機器を壊した場合や USB ドングルの紛失時は、修理費・弁済費用を請求する場合がある。
10. 電源の切り忘れ等、重大インシデントが発生した場合は、当該教室の1ヶ月間の使用禁止処分とする。
11. 高額なソフトウェア USB ドングルには、位置情報管理システム(Apple AirTag)が装着されている。位置情報の特定は、USB ドングルの紛失時や行方不明時等の緊急事態時及び必用に応じて実施する。

・研究内容の報告等

- 1)当部門を用いた研究の発表時に、利用の明記をお願いする。
- 2)年度末に FCM 委員会への業績記録提出すること。形式は学内の業績の記録と同じとし、論文の場合は別刷(コピー可)を添付する。MS-Word 形式のファイルを電子メールの添付ファイルとして提出するの

が望ましい。

・FCM Server の利用

LAN 利用者は所定の手続き(FCM Server 登録申請書)を行えば、専用ディレクトリにアクセスする権利が与えられる(24 時間運用中。不定期に停止する)。なお、FACSAria II と FACSCanto II、FACSLyric、FACSMelody からデーターを出力する場合は、USBメモリーの使用を禁じ、FCM Serverを経由してデーターの交換を行わなければならない。FCM サーバーが利用できない場合は、各利用者の Office 365 OneDrive を使用する。

FCM Server の利用規定は別に決める。現在稼働中のサービスは次の通り。

1)Windows ファイル共有(SMB)

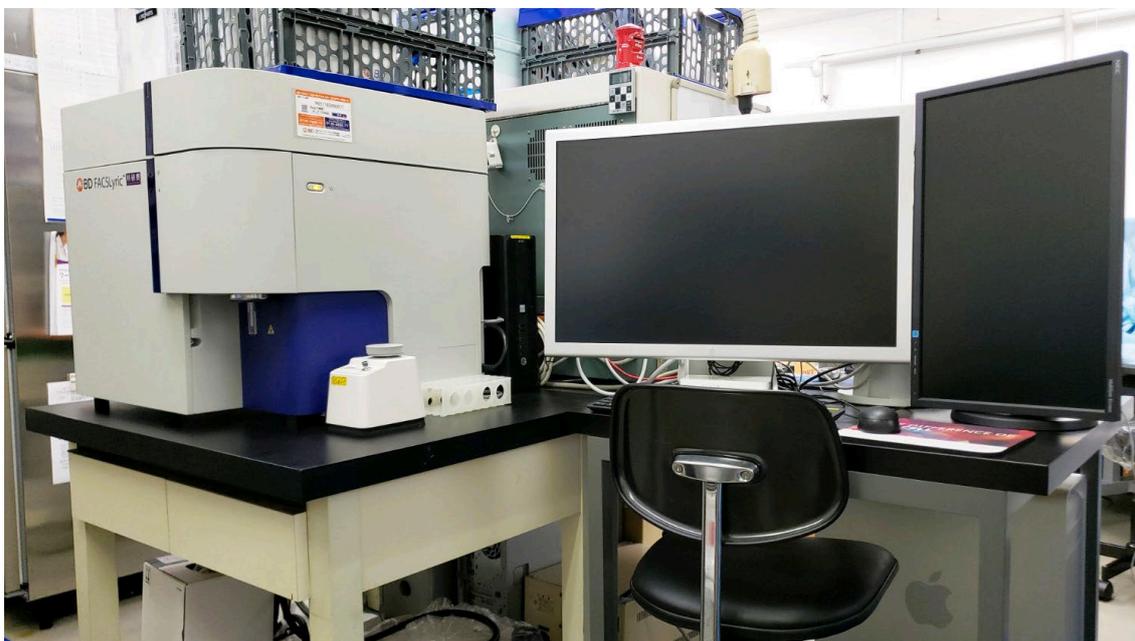
・FCM ONLINE

共研FCMでは不定期にFCM部門のNEWSをE-mail、Blogで配信している。機器の障害情報などはWebSite上で行う。FCM 運営委員会への連絡等・資料等は WebSite、E-mail および PDF ファイルなどペーパーレス化に努める。

アクセス:<http://fcm.umin.jp> または <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/fcm/>

・連絡先

臨床医学研究棟 5F507 号室 共研FCM部門 内線 24555



フローサイトメトリー :FACSLyric (analyzer)



フローサイトメトリー: FACSCanto II (analyzer)



セルソーター: FACSAria IIu



セルソーター: FACSMelody

蛋白質・核酸解析部門

1. 施設の概要

杏林大学医学部共同研究施設タンパク質核酸解析部門(以後、当施設)は、1992年4月に発足し、プロテインシークエンサー、ペプチド合成機、DNA シークエンサー、DNA 合成装置などタンパク質と核酸の解析の施設として運用されてきた。規制や実験手法の進歩に合わせ、近年、ホルムアルデヒド使用のためのラミナーフローテーブル、発光イメージング機器 LAS4000、最新鋭の質量分析計などが導入された。

2. 施設の設置場所

当施設は医学部臨床研究棟3階 316 号室および 5 階 506 号室に設置されている。なお質量分析計のみ医学部基礎研究棟5階501号室に設置されている。

3. 担当教員

部門長 大西 宏明 教授

現在、当施設を管理する常任の担当教員は置かず、運営のための諸事は部門長が担当している。

4. 設置機器

当施設固有の機器に加え、本学部各教室に所属する機器が共同利用を目的として設置されている。(別表1)

5. 利用について

(1) 申請方法

現在設置している機器の使用に関しては、その機器が所属する講座の担当者に直接申請する方法をとっている。当施設に所属する機器に関しては、特段の申請方法は設けておらず、初回使用時には事前に野崎実験助手に連絡することとしている。以後の使用については Outlook のカレンダー機能を用いて予約を行い使用することとしている。ただし 5 階 506 号室の機器は利用に際し登録手続きが必要である。

質量分析計に関しては、教室単位で年間利用登録をしてもらう。

(2) 利用可能な時間帯

当施設は、利用者の便宜を図る目的で 24 時間開放している。なお、当施設の施錠は利用者の責任であり、臨床研究棟3階 316 号室の鍵は本学施設課で申請して借り出すことができる。臨床研究棟 5 階 506 号室の鍵はテンキー方式で利用登録者にのみキー番号を教えている。

(3) 利用料金等

消耗品に関わる経費は利用者が負担することとし、機器の整備が必要となった時は、当施設の運営費の一部を充てることにしている。質量分析計の運営費用の一部は登録教室からの利用料でまかなう。

(4) その他

当施設では毒物劇物及び危険物の保管は想定しておらず、施錠が可能な安全

キャビネットなどは設置していない。利用者は、当該試薬類の使用に際しては、各試薬の種類や危険等級等に対応したドラフト内での取り扱いが求められる。共同利用施設に共通して一般的な注意事項として、飲食・喫煙は禁止している。また、バーナーなど火炎の取扱いは、細心の注意を払うこと。

6. 諸規程等

各機器の使用記録をとっているため、使用時にはログに記入していただきたい。次世代シーケンサー、マイクロアレイは原則として野崎実験助手が扱う。質量分析計については、薬理学福富助教に相談すること。

別表—1.

当部門: 低温室(3.5 - 4.5 °C 制御)

ラミナーテーブル、HD-01 (ホルムアルデヒド対策)

超純水精製装置 Direct-Q

液体窒素タンク 2 台

Tomy Autoclave SS-325

Dalton ドラフト

Dalton グリーンベンチ

次世代シーケンサー Ion GeneStudio S5 一式

画像解析装置 ImageQuant LAS-4000

ゲル撮影装置 WSE-5400

デジタル PCR システム QuantStudio 3D

QuantStudio Absolute Q デジタル PCR システム

リアルタイム PCR システム Quant Studio 5

ProFlex PCR System

ChemiDoc Touch イメージングシステム

Varioskan LUX マルチモードマイクロプレートリーダー

Multiskan FC 吸光マイクロプレートリーダー

Agilent 2200 TapeStation

高速液体クロマトグラフ Chromaster (HPLC)

低圧液体クロマトグラフ AKTA (FPLC)

微量分光光度計 Nano Drop One

微量分光光度計 Nano Drop One C

オールインワン顕微鏡 BZX-700, BZX-800

蛍光顕微鏡 DeltaVision Elite

フロア型超遠心分離機 CP80NX

バイオメディカルフリーザー

超低温フリーザー 2 台

クライオスタット CM1950

Q Exative Plus (基礎棟 501 号室)

QTRAP 6500 (基礎棟 501 号室)

臨床検査医学教室

Gene Chip Fluidics station 450

Gene Chip Hybridization Oven 640

GeneChipsScanner 3000 7G

縦型ディープフリーザー、三洋

NextSeq2000 (臨床研究棟 506 号室設置)

腫瘍内科学教室

Biomedical freezer、三洋

Eppendorff 遠心機

CO₂インキュベーター

CO₂/O₂インキュベーター

自動セルカウンター

感染症学教室

分子間相互作用解析装置 Biacore X-100

病理学教室

iScan システム

肉眼解剖学教室

共焦点レーザー顕微鏡 LSM980 with AiryScan

生体機能実験部門

当部門は、動物実験の総合的な手術室で X 線撮影室を備え、大型から小型動物の幅広い手術が可能です。

大型から小型動物まで手術に対応できる麻酔器(気化器はフォーレン)、人工呼吸器、体温維持装置を内蔵した昇降式手術台が備えあります。また、止血、出血時に対応できる、電気メス、バイポーラ、吸引装置も備えてあります。術中のモニタリングは、呼吸器モニター、パルスオキシメーターにより行うことができます。ディスカッション装置を備えた実体顕微鏡があり、マイクロ手術も可能です。

X 線撮影装置設置がされており、X 線撮影、透視が可能です。撮影画像は併設してあるデジタル画像診断装置によりデジタル画像処理が行えます。

検体処理に必要な汎用機器も各種設置されています。設置機器は下記の一覧表をご覧ください。

生体機能備品一覧

名称	品名・規格	メーカー
自動現像機	CEpROS SV	フジフィルム
X 線 TV システム	Plessat Zero	東芝
オートフィーダー		フジフィルム
大型高性能吸引機	SP-72	川西医療電気製作所
体温制御装置	ATB-100	日本光電
手術用照明灯スペリオベーシック	7703	大協機器
処置用照明灯	No270	大協機器
手術照明塔スペリオベーシック	MODEL7705	大協機器
メラソリッドステート電気メス	MS-1500	泉工医科工業
動物用麻酔器 Soft Lander	SLA210	新鋭
動物用人工呼吸器	G4001PIT	新鋭
超音波双方向血流計	SD-30EX/N	Hadeco
パルスオキシメーター	OLV3100	日本光電
シリンジポンプ	TE-351 HDN-1000	テルモ
電気メス バイポーラー	MCO-30	瑞穂
ウォーターバット特定加温システム		IMI
分離型ライトガイドセット	SZX-DISet	オリンパス
昇降式動物手術台		夏目製作所
液体窒素容器	XC47/11-6	MVE
高級システム顕微鏡	BX50-33-SP	オリンパス
ディスカッション実体顕微鏡	SZX9-1212	オリンパス
実体顕微鏡	SZ61-TRC-C-SET	オリンパス

パラフィン溶解器	PS-M	サクラ
浸透圧測定装置	"OSMOMAT3000basic"	独国ゴノテック
安全キャビネット	BHC-1303・A/B3	エアーテック
CO2 インキュベーター	i160	サーモフィッシャー
安全キャビネット	AC2-4N7	ワケンビーテック
乾熱滅菌器	MOV-112S	サンヨー
卓上型プッシュプル換気装置	ラミネータブル HD-01	興研
超純粋製造装置	Direct-Q UV3	メルクミリポア
分析用電子天秤	HR330i	A & D
製氷機フレークアイスメーカー	FM120K	ホシザキ東京
オートクレーブ	LSX-300	トミー精工
超音波ホモジナイザー	ソニファイア-SFX250	ブロンソン
超音波ホモジナイザー	カップホーン	ブロンソン
攪拌機(ホモジナイザー)	MS-2800D	
2ドア氷冷冷蔵庫	SR-43NA	サンヨー
安全キャビネット	BHC-1303・A/B3	エアーテック
CO2 インキュベーター	i160	サーモフィッシャー
薬用保冷库	MDF-C8V1	パナソニック
薬用保冷库	MPR-N450FH-PJ	PHC
小型超低温槽(マイバイオ)	VT78	日本フリーザー
超低温フリーザー	MDF-DU502VHS1-PJ	PHC

生体機能実験部門 施設利用にあたって

申請方法

手術室使用・機器利用申請書を、生体機能実験部門実験室まで提出して下さい。

新規申請

手術室使用・機器利用申請書を、プリントアウトして必要事項をご記入の上、生体機能実験部門まで直接御提出下さい。

継続申請

毎年4月中に手術室使用・機器利用申請書を御提出下さい。

電子メールの添付ファイルの形で、下記アドレスに送付していただいても結構です。

提出先・問い合わせ先

生体機能実験部門 内線 23544・23547 (臨床研究棟4F 第一手術室408号室)

E-mail: shimase@ks.kyorin-u.ac.jp

年 月 日

生体機能実験部門運営委員会 殿

手術室使用・機器利用申請書

下記の通り生体機能実験部門の手術室・X線装置・機器等を利用したいので許可を願います

申請者(実験責任者) _____

所属 _____ 職名 _____

連絡先(内線) _____

※(@ks.kyorin-u.ac.jp は省略可) (E-mail)※ _____

研究課題	
研究期間	年 月 日 ~ 年 月 日迄
実験者	(氏名) (職名) (内線) (E-mail)※
	(氏名) (職名) (内線) (E-mail)※
	(氏名) (職名) (内線) (E-mail)※
施設の 利用目的 (○をつけて下さい)	1. 実験室の利用(408号室・410号室) 2. X線装置の利用 3. 機器等の利用 4. 液体窒素容器の利用
使用動物種	

受付 年 月 日

受理番号 _____

(附)

生体機能実験部門使用規定

1. 生体機能実験部門の使用を希望する研究者は、あらかじめ研究計画書を提出し、生体機能実験委員会の承認を必要とする。
2. 生体機能実験委員会の承認を得た研究者は生体機能実験室の使用日程、共同利用実験機器の使用等に関して生体機能実験委員会の指示に従うものとする。
3. 共同利用実験機器の管理は別に定める内規に従うものとする。
4. 生体機能実験室内の放射線施設を使用する研究者は杏林大学医学部放射線障害予防規定(障害等予防規定)の適用を受けるものとする。

生体機能実験部門運営委員会細則

- 第1条 杏林大学医学部共同研究施設(共研)運営規定第4条に定められた生体機能実験部門運営委員会(生体機能実験委員会)の運営はこの細則による。
- 第2条 生体機能実験委員会は委員若干名よりなり、部門運営委員長(部門長)候補者1名を選び、共研運営委員会委員長に推薦する。
- 第3条 生体機能実験委員会は、施設、機器及びそれに付帯する設備の管理、運営使用等に関する事項を審議する。
- 第4条 部門長は、毎年2回の定例共研運営委員会に先立って生体機能実験委員会を開催する。
- 2 部門長は、必要に応じて臨時に生体機能実験委員会を開催することができる。
 - 3 部門長は、生体機能実験委員会の開催にあたり、あらかじめ議題を提示するものとする。但し緊急の場合はこの限りではない。
- 第5条 部門長の任期は2か年とし、重任を妨げない。但し任期途中で交替した場合は、その任期は前任者の残任期間とする。
- 第6条 生体機能実験委員会は、委員過半数の出席をもって成立する。
- 2 委員会の議決には、出席委員過半数の賛成を要する。
 - 3 委員会は必要に応じ関係者の出席を求めることができる。
- 第7条 生体機能実験委員会は施設並びに機器の使用規定を別に定める。

付則

1. この細則の改訂は出席委員の3分の2以上の賛成に基づき共研運営委員会の議を経るものとする。
2. この細則に定められていない事項の取扱い、並びに疑義解釈に関しては部門運営委員会の議を経て部門長が決定する。
3. この細則は平成5年4月1日から施行する。

実験動物施設部門

1. 施設の概要

医学、生命科学の教育、研究並びに試験に際して動物実験は必要不可欠であり、医学、生命科学を推進するには、その必要性を最もよく理解している研究者が責任をもって動物実験等を自主的に規制することが望ましいと考える。杏林大学実験動物施設 (Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University) では、動物実験等の自主管理を行うべく、杏林大学における動物実験等の実施に関する規程及び指針を作成した。

どのような方法で動物実験の成果を得るかは、基本的に動物実験を実施する研究者が科学的合理性に基づくとともに、動物の愛護に配慮して立案しなければならない。立案した動物実験計画の妥当性については、杏林大学内に設置された動物実験委員会 (The Experimental Animal Ethics Committee in Kyorin University) の審査を受ける必要がある。動物実験等を行う際には、動物の愛護及び管理に関する法律、実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準、産業動物の飼養及び保管に関する基準、動物の処分方法に関する指針、実験動物の安楽死に関する指針を踏まえ、動物実験における動物福祉の理念として国際的に認められている Russell & Burch の「3 つの R (Refinement, Reduction, Replacement)」の原則に基づき実施しなければならない。

2. 担当教員

部門長 福原 浩 教授
学内講師 北条 史

3. 利用について

施設の利用にあたっては教育訓練を受講した後、「杏林大学における動物実験等の実施に関する規程」および「杏林大学における動物実験等の実施に関する運用指針」を遵守し、以下の細則に従って利用すること。

杏林大学大学院医学研究科共同研究施設部門実験動物施設利用細則

飼育室および実験室の利用について(制定 平成 21 年 3 月 4 日)

1. 基本的心得

利用に当たっては、施設等が共同利用施設であることを認識し、定められた規則を遵守し、他に迷惑を及ぼさないように努める。

2. 用語の定義

本細則において用いる用語の定義は杏林大学動物実験規程の定めるところによる。

3. 適用範囲

本細則は杏林大学大学院医学研究科共同研究施設部門実験動物施設で行われる全ての動物実験等の適正な遂行と実験動物の適正な飼養・保管に対して適用される。

4. 照明時間

施設において飼育室の照明時間は午前 7 時から午後 7 時迄とする。

5. 実験室等の利用

- 1) 実験室は実験責任者又は実験者が共同で利用するものとする。
- 2) 実験動物に対する実験操作 (麻酔・解剖・試薬・試料投与・採血・外科的処置等) は各区域の実験室で行うこと。

- 3) SPFおよびグリーン動物飼育区域で、実験動物に試薬・試料等を投与する場合、試薬・試料等は「杏林大学組換えDNA実験安全管理規程」に定められた微生物検査項目がすべて陰性であること。
- 4) 実験室での実験動物の飼育は認めない。
- 5) 実験室での毒劇物類(ホルマリン・メタノール・エーテル等)の保管は認めない。
- 6) 毒劇物類(ホルマリン・メタノール・エーテル等)は定められた場所で取り扱うこと。
- 7) 実験器材等は使用後、定められた場所へ格納する。
- 8) 実験操作後の実験室の清掃、実験動物の死体ならび組織等の処理は実験者が行うものとする。その他の廃棄物等は所定の場所に廃棄する。ただし、針・ガラス類等の危険物は実験責任者又は実験者が責任を持って持ち帰ること。
- 9) 実験動物の死体ならび組織等は、所定の冷凍庫に廃棄する。
- 10) 非常口の付近や廊下に物品等を配置または放置しない。
- 11) 実験動物を逃がさない。万一逃がした場合、逃亡防止措置を施した後、速やかに実験動物管理者に連絡する。また逃亡実験動物を発見した場合も速やかに実験動物管理者に連絡する。

6. 実験動物の分類

1) 実験動物の遺伝統御による分類は以下のように定める。

群	規定
近交系 Inbred strain	兄妹交配または親子交配を20世代以上継続している系統
ミュータント系 Mutant strain	遺伝子記号をもって示し得るような遺伝子型を特性としている系統、及び遺伝子記号を明示し得なくとも、淘汰選抜によって特定の形質を維持することのできる系統
クローズドコロニー Closed colony	5年以上外部から種動物を導入することなく、一定の集団のみで繁殖を続け、常時実験供試動物の生産を行っている群
交雑群 Hybrid	系統間の雑種
雑動物 Mongrel	遺伝的コントロールが行われていない動物

2) 実験動物の微生物統御による分類は以下のように定める

区分	無菌動物 Germfree animals (GF)	ノバイオ動物 Gnotobiot animals (GB)	SPF動物 Specific pathogen free animals (SPF) ^{*1}	コンベンショナル動物 Conventional animals (CV)
定義	封鎖方式・無菌処置を用いて得られた検出する全ての微生物・寄生虫を持たない動物	もっている微生物叢の全てが明確に知られ特に飼育された動物	特に指定された微生物・寄生虫のいない動物(指定以外は必ずしもフリーではない)	ふつうの動物
微生物状態	検出可能な微生物はいない	もっている微生物が明確である	もっていない微生物が明確である	微生物叢が不明瞭
作出方法	帝王切開又は子宮切断由来	無菌動物に既知の微生物を定着させる	無菌動物やノバイオ動物に微生物を自然定着させる	ふつうの環境で繁殖維持したもの
維持方式	アイソレーターシステム	アイソレーターシステム	バリアーシステム	オープンシステム

¹⁾施設においてSPF動物は「杏林大学組換えDNA実験安全管理規程」に定められた微生物検査項目が全て陰性である実験動物とする。

7. 動物飼育室利用方法

同日のうちに複数の飼育室へ入室するものは、微生物学的清浄度の高い部屋より入室し、微生物学的清浄度の低い部屋へと移動しなければならない。

1) 収容動物

各動物飼育室に収容する収容動物、微生物学的区分、再搬入場所は以下のように定める。

区分 (清浄度レベル)	収容動物	収容動物の 微生物学的区分	再搬入場所
1. SPF動物飼育室	マウス	SPF以上	一般動物飼育室
2. クリーン動物飼育室	マウスおよびラット	Clean以上	一般動物飼育室
3. 一般動物飼育室	「マウス、ラット、スナネズミ」、「ウサギ、モルモット」、	Clean以上	一般動物飼育室
	「ネコ、ニワトリ」「サル」、「カエル」	CV以上	一般動物飼育室
4. 感染動物飼育室	マウス、ラット、スナネズミ	Clean以上	再搬入できない

- ① 実験動物を搬入する場合は所定の実験動物搬入・購入申込書（書式3）に「杏林大学組換えDNA実験安全管理規程」に定められた微生物検査項目が全て陰性であることを示す微生物検査報告書を添付し、動物搬入予定の3日前までに運営委員会に提出すること。ただし、運営委員会が指定する実験動物取扱業者からの搬入の場合は微生物検査結果を添付しなくてもよい。
- ② 実験動物の搬入は原則として飼養者が行う。搬入は運営委員会の搬入許可を得た後に行うこと。
- ③ 実験動物の飼育は原則として飼養者が行う。ただし、繁殖等の特殊な飼育は実験責任者又は実験者が責任を持って管理すること。
- ④ 感染動物飼育室への実験動物の搬入及び飼育は実験責任者又は実験者が行うものとする。
- ⑤ 遺伝子改変動物を飼育する際、単一のケージに一種の遺伝子改変動物を飼育している場合は遺伝子改変動物の内容をケージに明記することによって飼育数を管理しなければならない。また、単一のケージに複数種の遺伝子組換え動物を飼育する場合は個体識別（耳パンチ等）を行い、遺伝子改変動物の内容をケージに明記することによって飼育数を管理しなければならない。
- ⑥ イヌ、ネコ、ブタ、特定動物、特定外来生物の授受およびげっ歯目やサル類に属する実験動物の輸入を必要とする場合は、搬入予定の2ヶ月前に管理者と協議し、許可を得なければならない。

2) 飼育室への入退出

- ① 各動物飼育室への入退出は動物実験計画書に記載された実験責任者又は実験者に限る。
- ② 各動物飼育室の入退出手順は以下のよう定める。

手順	SPF 動物飼育室	クリーン動物飼育室	一般動物飼育室	感染動物飼育室
1	外衣および履物を脱ぐ	外衣および履物を脱ぐ		外衣および履物を脱ぐ
2	手指の洗浄、消毒	手指の洗浄、消毒		手指の洗浄、消毒
3	指定の作業着 ^{*1} を着用 キャップを着用	指定の作業着 ^{*2} を着用 キャップを着用		指定の作業着 ^{*2} を着用
4	マスク、手袋を着用			
5	指定の長靴を履用	指定の履物を履用		指定の履物を履用
6	動物飼育室入室	動物飼育室入室	動物飼育室入室	動物飼育室入室
7	作業・実験操作	作業・実験操作	作業・実験操作	作業・実験操作
8	清掃	清掃	清掃	清掃
9	動物飼育室退室	動物飼育室退室	動物飼育室退室	動物飼育室退室
10	指定の長靴を脱ぐ	履物を脱ぐ		履物を脱ぐ
11	指定の作業着を脱ぐ	指定の作業着を脱ぐ		指定の作業着を脱ぐ
12	手指の洗浄、消毒	手指の洗浄、消毒		手指の洗浄、消毒

*1: 無塵衣 (東洋リントフリー, FH199C)、*2: 無塵衣 (東洋リントフリー, FH240C)、

キャップ (PURETEX, DC-1R)、マスク (PURETEX, DM-2R)、ラテックスグローブ (PURETEX, DG-1R)

- ③ SPF 動物飼育室の指定の着衣は、実験者が利用するごとに洗濯・消毒滅菌を行い、常に清潔な状態に保つ。
- ④ クリーン動物飼育室の指定の着衣は、1 日ごとに洗濯・消毒滅菌を行い、清潔な状態に保つ。

3) 実験の制限

- ① RI 投与実験は禁止する。
- ② クラス 3 の感染実験、その他、人および他の動物に影響を与えるような実験は禁止する。感染動物飼育室で取り扱える病原体は以下に示す基準のクラス 2 以下で、管理者の許可を受けたものに限る。クラス 1 および 2 の感染実験を行う場合は、管理者の許可を受け、感染動物飼育室で行う。

基準

クラス 1: 人に対して病原性をほとんど示さず、人の実験室感染および実験動物間での同居感染の可能性がほとんどないもの

クラス 2: 通常の病原微生物学的設備および操作手順で実験室感染を防ぐことが可能であり、感染発病した場合でも重症になる可能性のないもの

クラス 3: 実験室感染の可能性が高く、感染した場合重症になる可能性のあるもの

4) 実験動物ならびに物品の搬入

- ① 飼育室に持ち込む物品は、必要最小限にとどめるとともに、可能な限り消毒滅菌の措置（梱包外装を清布および消毒液噴霧等）をした後、専用の搬入口から搬入する。
- ② 常時使用する物品は、所属・氏名を明示のうえ、保管する。
- ③ SPF およびグリーン動物飼育室への動物、飼料、床敷き等の搬入は原則として飼養者が行う。
- ④ SPF およびグリーン動物飼育室に搬入するケージ等の飼育用器材などは、消毒液噴霧による消毒または高圧蒸気滅菌等による滅菌の後、搬入する。
- ⑤ 感染動物飼育室に搬入する動物、飼料、床敷き等は、梱包外装を清布および消毒液噴霧の後、搬入する。
- ⑥ 感染動物飼育室に搬入するケージ等の飼育用器材などは、外装を清布および消毒液噴霧の後、搬入する。

5) 実験動物ならびに物品の搬出

- ① 汚染床敷きや動物由来排泄物、動物屍体などの廃棄物の搬出は、ビニール袋等で密封、外装表面を消毒の後、実験責任者又は実験者が責任を持って処分する。または、必要に応じて高圧蒸気滅菌の後、搬出し処分する。
- ② 感染動物飼育室に搬入した動物は、感染動物飼育室外に持ち出すことを認めない。
- ③ 感染動物飼育室の使用済みケージ等汚染飼育用器材などは、高圧蒸気滅菌の後、搬出・洗浄する。

8. 罰則

実験責任者又は実験者がこの細則に違反し、動物飼育室および実験室等の運営に重大な支障を生じせしめた時は、実験動物施設運営委員会は利用の停止を行うことができる。

9. その他

本細則に定められていない事項の取り扱い、ならびに疑義解釈に関しては実験動物施設運営委員会の議を経て実験動物施設運営委員長が決定する。

10. 附則

本細則は平成 21 年 4 月 1 日より施行する。

剽 窃 防 止 マ ニ ュ ア ル

論文や研究レポート作成時における資料・データの利用について

1. 「論文」「研究レポート」を書くということ

高等教育・研究機関である大学院では、研究の成果を「論文」「研究レポート」の形で発表することが求められます。いうまでもなく「論文」「研究レポート」とは、「学問的な問題意識について、資料分析の結果得られた見解を述べるもの」です。図書館での文献調査、様々なフィールドにおけるインタビューや観察、実験室における実験など、地道な努力によって収集された客観的な資料・データから多くの事実を読み取り、批判的な検討を加えて、新たな理論や見解を構築しようとする真摯な営みの記録こそが「論文」「研究レポート」であり、いかに権威ある研究者による文章であっても、何らかの資料によらず自らの思考のみに基づいて見解を述べたにすぎないのならば、それは「試論」や「思いつき」にすぎません。

「論文」「研究レポート」の価値は、執筆者の研究活動に対する態度の真摯さによって裏づけられ、それは、資料の豊富さ、分析の緻密さの形で著作の中に如実に反映されることを、よく認識してください。

2. 資料・データの重要性、取扱い上の基本的心構え

このような「論文」「研究レポート」の意義に照らせば、その作成にあたっての、資料・データの重要性は自ずと明らかです。説得力のある見解や新たな発見は、数多くの資料・データによって初めて可能になるのです。

ところで、資料・データは、決して一人の研究者によってのみ得られるものではありません。我々はほとんどの場合、先達達の調査や思索、実験等の記録である各種の文献等を通じて、検討に必要な資料・データに接することができます。偉大な見解や発見も、こうした先達達の努力がなければ生まれません。

ですから、研究に携わる者は等しく、資料・データの取扱いに関しては、慎重かつ謙虚な姿勢で臨むとともに、先達達が世に出した資料・データに接する場合には、彼らの努力に対して敬意を払わなければなりません。

このような意味で、以下の2点には特に注意を払ってください。

<資料・データ取扱上の厳守事項>

① 資料・データの隠蔽、改ざん、捏造の禁止

第一に、資料・データは、私達が真に説得力のある学問的見解や発見を生み出すために、私心を加えずこれに接し、分析されるべきものです。ですから、自らの見解を正当化するため、不都合なデータを故意に隠蔽したり、まして改ざん、捏造するようなことがあってはなりません。

これらの行為は、先人達の努力を冒瀆し、学問を中傷する行為です。自らの作成した「論文」「研究レポート」の価値はもちろん、ひいては研究者として地位を失わせる可能性のある愚かな行為ですから、厳に慎むべきです。

② 剽窃の禁止

第二に、他人の「論文」や「研究レポート」の内容を、あたかも自らの研究の成果であるかのように「論文」「研究レポート」として発表するなどの行為（いわゆる「剽窃行為」）をしてはなりません。

このような行為は、「論文」「研究レポート」の価値を無にし、研究者としての地位を失わせるばかりか、場合にはよっては著作権法違反の犯罪として刑罰（5年以下の懲役または500万円以下の罰金）、損害賠償ないし謝罪広告の請求などの対象にすらなり得ます。

3. 資料・データの正しい利用方法

では、「論文」「研究レポート」を作成するにあたって、資料・データを適切に用いるためには、どのような点に気をつけるべきでしょうか。

なによりも必要なのは、「引用」に関する基本的なルール、マナーをしっかりと身に付け、遵守することです。

引用とは、「論文」「研究レポート」の作成に際して、自らの視点や見解を確立するため、既存の資料・データを参照することです。

<「引用」を行う場合の基本的留意事項>

① 本文と、引用部分とを区別する。

本文中で、既存の資料・データを用いる場合には、必ず、それが現在執筆している研究論文・レポートの一部ではなく、他人の手による（あるいは自らが別の機会に発表した）ものであることがわかるよう明確に区別しなければなりません。

※ 例えば、本文中で文献資料を引用する場合、引用する文章全体を「 」でくくる（引用部分が短い場合）方法や、改行して行頭2文字程度を空け、字体、ポイントを変えるなどして、本文と明確に区別できるような体裁にする（引用部分が長い場合）、などの方法があります。

ただし、引用する範囲は本論の記述を行うために必要最低限の範囲にとどめるべきで、不必要に長い引用は剽窃となることがありますから注意が必要です。

また、資料をそのまま引用するのではなく、自分の言葉で要約した上で引用する場合には、資料の著作者の意図を曲解し、無意識に捻じ曲げて伝えることのないよう注意すべきです。

② 出典を明示する。

また、引用した資料・データについてはその出典（著作、論文タイトル、掲載誌名、巻号、頁、公刊年、webサイト資料にあつてはURLやアクセスし情報を取得した年月日等）を明らかにしなければなりません。資料が、文献であれ、図表やグラフ、写真等であれ、あるいはインターネット上のコンテンツであれ、出典を示すことは絶対に必要です。

※ 具体的な引用文献表記の方法は、研究分野や掲載する媒体によって異なります。したがって、まずは指導教員の指導を受け、正しい表記の方法を身に付けることが必要です。

また、論文を大学紀要や学会誌に掲載するときは、多くの場合、それぞれの投稿規程が文献表記の方法を定めています。さらに、下記のような市販されている論文執筆の方法に関する概説書などからも引用文献表記の方法を学ぶことができます。

新堀聡『評価される博士・修士卒業論文の書き方・考え方』

（同文館出版、2002年）

斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法〔第2版〕』

（日本エディタースクール出版部、1998年）

宇多文雄・宇多賢治郎『論文執筆のためのパソコンの使い方』

（清水弘文堂書房、2004年）

③ いわゆる「孫引き」(再引用)をしない。

既に、他人が引用している資料・データについて、その原点の内容を確認することなく、あたかも自分がその資料・データに接したかのように、引用を行ってはなりません。

<適切な引用を行うメリット>

以上のようなルール・マナーを守った引用を行うことには、いくつかの意味があります。

第一に、適切な引用を行うことは、自らの研究に関連する、先人達の努力に対して敬意を表することを意味します。

第二に、適切な引用は、その研究論文・レポートの信頼性を保証することでもあります。引用資料についての出典の明示があれば、研究論文・研究レポートの評価に際して、評者は用いられた元の資料を参照し、その論文・レポートにおける、資料の正当性や、資料に対する分析の正当性を検証することができるからです。

第三に、適切な引用と出典の明示は、読者に対するその分野に関する、より詳細な情報提供を行い、その分野の研究を深化させることにつながります。

<適切な引用のためにーチェックシートの活用ー>

上記は、研究論文・レポートの作成における資料・データの取扱いについて、特に注意すべき事例ですが、この他にも、適切に資料・データを利用するためには、多くの具体的留意点があります。

その内容の別紙をチェックシートにまとめましたので、論文の作成時、提出時に逐一確認するよう心がけましょう。

「論文」「研究レポート」の提出時におけるチェック事項

－ 資料・データの適切な利用のために －

1. 他人の文章利用についてのチェック

- 他人の文章をそのまま用いる場合、「」をつけて、自分の文章と区別しているか。
- 他人の文章を複数行にわたってそのまま用いる場合、段落変え、冒頭2文字空け等の方法によって、自分の文章と区別しているか。
- 他人の文章を要約して用いる場合、「〇〇は・・・であると主張する、〇〇の主張を要約すると・・・」などの方法によって、要約した他人の文章と、自分の文章とが区別されているか。
- 論文作成に必要な範囲の利用にとどめているか。
- 他人の文章をそのまま用いる場合、自分に都合のよい部分だけを利用するようなことをしていないか。
- 他人の文章を要約して用いる場合、文章を歪曲していないか。
- 文献から得た文章については、著者、論文タイトル、書名、出版社、刊行年、該当頁等、web サイトに掲載されている文章については、サイト名、サイト管理者、URL、掲載年等、出典箇所を正しく標記しているか。
- 出典標記の方法が、その研究分野の標準的なスタイルに則っているか。
- いわゆる孫引き（再利用）をしていないか。

2. 図表・データ利用についてのチェック

- 自己の調査・実験によって得た図表・データを利用するにあたり、データの改ざん、捏造をしていないか。
- データの改ざん、捏造が行なわれていないことを証明するため、調査・実験等の日時・場所・手法等についての記録を残しているか。
- 他人の調査・実験による図表・データ等を利用している場合、その出所を明示しているか。
- 都合よく図表・データの一部を削除、隠蔽するなどしていないか。削除した場合はその理由・基準などを明示しているか。
- データ出所の標記方法が、その研究分野の標準的なスタイルに則っているか。

3. Webサイト資料の利用についてのチェック

- その資料を掲載している web サイトの運営主体は信頼に足るものであるか。
- その資料は、他の web サイトからの転載ではないか。

規 則 等

○杏林大学大学院学則

制定	昭和51年	4月	1日		
改正	昭和54年	4月	1日	昭和57年	4月 1日
	昭和59年	4月	1日	昭和61年	3月18日
	平成3年	1月30日		平成4年	10月26日
	平成6年	1月24日		平成7年	3月16日
	平成7年	3月27日		平成7年	9月28日
	平成8年	10月23日		平成10年	3月27日
	平成11年	2月15日		平成11年	6月21日
	平成11年	9月20日		平成12年	9月18日
	平成13年	3月29日		平成13年	6月28日
	平成14年	2月26日		平成14年	3月29日
	平成14年	4月25日		平成15年	2月17日
	平成15年	10月20日		平成16年	3月26日
	平成16年	12月8日		平成17年	10月26日
	平成18年	3月29日		平成18年	12月8日
	平成19年	3月29日		平成19年	9月10日
	平成20年	3月28日		平成21年	10月26日
	平成21年	12月3日		平成22年	12月3日
	平成23年	5月27日		平成23年	12月2日
	平成24年	3月30日		平成24年	12月7日
	平成25年	5月24日		平成25年	7月22日
	平成26年	2月17日		平成27年	3月27日
	平成28年	3月25日		平成29年	3月24日
	平成30年	12月7日		平成31年	3月29日
	令和2年	9月25日		令和3年	3月26日
	令和3年	5月28日		令和3年	12月3日
	令和4年	5月27日		令和4年	12月2日
	令和5年	12月1日			

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は、杏林大学学則（以下「本学学則」という。）第4条の規定に基づき、杏林大学大学院（以下「大学院」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 大学院は、大学建学の精神に則り、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、優れた研究者及び高度専門職業人を養成することにより、文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第2条の2 大学院は、その教育水準の向上を図り前条の目的及び使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については別に定める。

（研究科）

第3条 大学院に医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科を設け、医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科にそれぞれ博士課程を置く。

2 医学研究科博士課程の標準修業年限は4年とする。

3 保健学研究科及び国際協力研究科の標準修業年限は5年とし、これを博士前期課

第3類（杏林大学大学院学則）

程（2年）及び博士後期課程（3年）に区分し、前者を修士課程として取扱うものとする。（以下「前期課程」という。）

- 4 前項の規定にかかわらず、前期課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。
- 5 博士後期課程及び医学研究科博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又は、その他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 6 前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。
（専攻）

第4条 医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科にそれぞれ次の専攻を置く。

医学研究科

医学専攻

保健学研究科

保健学専攻

看護学専攻

臨床心理学専攻

国際協力研究科

国際開発専攻

国際医療協力専攻

グローバル・コミュニケーション専攻

開発問題専攻

（研究科又は専攻の目的）

第4条の2 研究科又は専攻ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 医学研究科

医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする。

3 保健学研究科

保健学研究科は、保健、医療、看護、福祉及び心理の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。

- (1) 保健学専攻前期課程は、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに高め、専門職としての卓越した判断力と実践力、および指導力とマネジメント能力を持った高度専門職業人の養成を目的とする。
- (2) 看護学専攻前期課程は、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに深め、卓越した看護実践力、および指導力とマネジメント能力を持った看護師・

第3類（杏林大学大学院学則）

保健師・助産師を養成する。また、「がん看護」「クリティカルケア看護」「精神看護」に関する専門看護師、感染管理や医療安全管理の指導者の養成を目的とする。

- (3) 臨床心理学専攻前期課程は、心理に関する支援を要する者とその関係者に対して、心理状態の観察、結果の分析、心理に関する相談及び助言、指導その他の支援といった、ニーズに応じた支援を提供できる人材を養成する。また、心理的支援を要する者やそれを取り巻く環境に対して、心の健康に関する知識を普及するための教育ができる人材の育成を目的とする。
- (4) 保健学専攻博士後期課程は、前期課程で培われた専門能力と識見、科学的な思考力をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者の養成を目的とする。
- (5) 看護学専攻博士後期課程は、現代社会における看護・保健領域の複雑かつ多様な看護ニーズに応えるために、前期課程で培われた看護学の専門能力と識見、看護感性をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者の養成を目的とする。

4 国際協力研究科

国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生、福祉など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。

- (1) 国際開発専攻は、世界諸地域の経済社会の発展に資するための開発及び国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的・実証的に究明するとともに、わが国の政治・経済・経営及び法律・税務の各専門領域について考究し、これらを通じて必要な専門知識の修得はもとより関連分野にも通曉し、実務にも対応できる人材の養成を目的とする。
- (2) 国際医療協力専攻は、世界諸地域に対する保健医療福祉分野の国際協力に必要な幅広い知識と高度な理論を身に付け、国際社会での実践活動に貢献すると共に、問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を活かすことのできる人材の養成を目的とする。
- (3) グローバル・コミュニケーション専攻は、わが国を取り巻く国際社会及び、国内で進む多文化共生社会にあって、互いの文化・言語・社会に対する理解の欠如等に起因する諸問題解決のため、異文化間コミュニケーションの専門分野に熟達し、理論と実践、複眼的視座からの深い知見と洞察力をもとに、国内外でこの分野の先導的な役割を担って活躍しうる優れた研究者、及び高度専門職業人に必要な諸技能を身につけた人材の養成を目的とする。
- (4) 開発問題専攻は、国際協力の実践場面で、あるいはその研究分野で、各専門領域の知識と技能を修めた高度な専門家として活躍できる、有用な人材の養成を目的とする。

(研究指導及び授業)

第5条 研究科における研究の指導及び授業は、原則として本学の教授が担当する。

ただし、必要があるときは教授以外の者に分担させることができる。

(研究科長)

第3類（杏林大学大学院学則）

第6条 各研究科に研究科長を置く。

- 2 研究科長は教授の兼務とし、学長の推薦に基づき、学園の理事会の議を経て、学園の理事長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 研究科長は、その研究科に関する事項を掌理する。
（教務担当）

第6条の2 研究科又は専攻ごとに教務担当を置く。

- 2 教務担当は教授の兼務とし、研究科長の推薦に基づき、学園の運営審議会の議を経て、学長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 教務担当は、所属する研究科又は専攻の教務に関する事項を掌る。

第2章 運営組織

（大学院委員会及び研究科委員会）

第7条 大学院及び研究科を管理運営するために、大学院委員会及び研究科委員会を置く。

（大学院委員会の組織）

第8条 大学院委員会は学長、副学長、各研究科委員長及び各研究科委員から選ばれた若干名の委員をもって組織する。

- 2 大学院委員会の委員長は学長とする。
（大学院委員会の職務）

第9条 大学院委員会は次の事項を審議する。

- （1）大学院の運営に関する事項
- （2）大学院の組織に関する事項
- （3）その他大学院に関する重要事項

（研究科委員会の組織）

第10条 各研究科に研究科委員会を置く。

- 2 各研究科委員会は大学院各研究科の教授をもって組織する。ただし、必要ある場合は関係の准教授・講師を加えることができる。
- 3 研究科委員会の委員長は研究科長とする。
（研究科委員会の職務）

第11条 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- （1）学生の入学、卒業及び課程の修了
 - （2）学位の授与
 - （3）第1号及び第2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。
 - （1）教育及び研究に関する事項
 - （2）教員人事に関する事項
 - （3）学生に関する事項
 - （4）学長等の諮問に関する事項

第3類（杏林大学大学院学則）

3 学園長、学長、副学長は各研究科委員会に出席し意見を述べることができる。

第12条 大学院委員会及び各研究科委員会に関する細則は別に定める。

第3章 在学年限及び学生定員

（在学年限）

第13条 同一研究科に在学し得る最長年限は、前期課程においては4年、博士後期課程においては6年、医学研究科においては8年とする。

（学生定員）

第14条 研究科専攻別学生定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻	博士課程		博士前期課程		博士後期課程		備考
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
医学研究科	医学	25	100					
	計	25	100					
保健学研究科	保健学			7	14	4	12	
	看護学			2	4	1	3	
	臨床心理学			25	50			
	計			34	68	5	15	
国際協力研究科	国際開発			6	12			
	国際医療協力			4	8			
	グローバル・コミュニケーション			10	20			
	開発問題					5	15	
	計			20	40	5	15	

第4章 学年、学期及び休業日

（学年）

第15条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、秋学期入学者は9月15日に始まり、翌年9月14日に終わる。

（学期）

第16条 学年を分けて前期又は春学期、後期又は秋学期の2学期とする。

2 前項の学期の呼称及び期間は、各研究科において定める。

（休業日）

第17条 休業日は次のとおりとする。ただし、第4号から第6号の休業期間の始期及び終期は、年度ごとに学長が定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定めた祝日
- (3) 杏林学園創立記念日 11月11日
- (4) 春季休業

第3類（杏林大学大学院学則）

（5）夏季休業

（6）冬季休業

2 学長は、必要により臨時に休業日を設け、又は休業日を授業日に変更することができる。

第5章 授業科目、単位及び履修方法

（授業科目）

第18条 研究科における授業科目及び単位については、別表1-1、1-2、1-3、1-4、2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、3-1、3-2、3-3及び3-4のとおりとする。

（指導教授）

第19条 入学を許可された者には、専攻課程に従って、それぞれ指導教授を定める。

2 指導教授は、必要に応じて2人以上とすることができる。

第20条 学生は指導教授の指示を受け、指定された期日までに履修計画を研究科長に提出しなければならない。

第21条 研究科の授業科目は、主科目、及び副科目とする。

（履修の方法）

第22条 教育課程及び履修方法の細部については、各研究科において定める。

2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、予め協議の上、本学の他研究科又は他大学の大学院等の授業科目（履修証明プログラムを含む）を履修させることができ、15単位を超えない範囲で本学各研究科において履修したものとみなすことができる。

3 学生が本学入学前に他の大学院において履修した授業科目の単位（科目等履修生及び履修証明プログラム履修生として修得した単位を含む）を、15単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなすことができる。

4 前2項の規定により認定できる単位数は合わせて20単位を超えないものとし、当該単位数と修得に要した期間等を勘案して、1年を超えない範囲で本学の在学期間として算入することができる。ただし、博士後期課程の在学期間には適用しないものとする。

（教育方法の特例）

第22条の2 各研究科において、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

2 文部科学大臣が別に定めるところ（平成13年文部科学省告示第51号）により、授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（科目履修の認定）

第23条 学科目の履修の認定は、学期末又は学年末に試験又は研究報告によって行い、その方法は学科目担当教授が定める。

2 試験又は研究報告の成績は、S（90点以上～100点）、A（80点以上～90点未満）、B（70点以上～80点未満）、C（60点以上～70点未満）、D（60点未満）の5種とし、SABCを合格、Dを不合格とする。

第3類（杏林大学大学院学則）

（単位の認定）

第24条 合格した学科目については、所定の単位を与える。

2 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、毎週1時間から2時間15週の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、毎週2時間から3時間15週の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して1単位とする。

（再試験・追試験）

第25条 不合格の学科目については、再試験を行うことがある。病気その他やむを得ない事由により、正規の試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことがある。

第6章 課程の修了要件

（前期課程の修了要件）

第26条 前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、次に該当するものは定めるとおり同課程に在学すれば足りるものとする。

特に優れた研究業績を挙げた者 1年以上

第22条により単位が認定された者 1年以上

（博士課程の修了要件）

第26条の2 博士課程の修了要件は、次の各号のとおりとする。

(1) 医学研究科博士課程の修了要件は、同課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、次に該当するものは定めるとおり同課程に在学すれば足りるものとする。

特に優れた研究業績を挙げた者 3年以上

第22条により単位が認定された者 3年以上

特に優れた研究業績を挙げ、かつ第22条により単位が認定された者 2年以上

(2) 保健学研究科及び国際協力研究科博士課程の修了要件は、同課程に5年（前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、前期課程の修得30単位を含め50単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を挙げた者については、同課程に3年（前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

第3類（杏林大学大学院学則）

のとする。

- 2 前条ただし書きの規定による在学期間をもって前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、前期課程における在学期間に3年を加えた期間当該課程に在学し、各研究科の所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた研究業績を挙げた者については、当該課程に3年（前期課程における在学期間を含む。）在学し、各研究科の所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則第70条の2の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が、認めた者が博士課程の後期課程に入学した場合の博士課程修了の要件は、同課程に3年以上在学し、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を挙げた者については、同課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（長期にわたる教育課程の履修）

第26条の3 学生が、当該課程の標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

（学位論文及び最終試験の可否）

第27条 学位論文及び最終試験の合格、不合格は、当該研究科委員会の審査報告に基づいて学長が決定する。

- 2 審査の方法は各研究科において決定する。

（学位）

第27条の2 前条第1項により合格した者に次に定める学位を授与する。

修士

保健学研究科

保健学専攻

修士（保健学）

看護学専攻

修士（看護学）

臨床心理学専攻

修士（臨床心理学）

国際協力研究科

国際開発専攻

修士（開発学）

国際医療協力専攻

修士（国際医療協力）

グローバル・コミュニケーション専攻

修士（学術）

博士

医学研究科

博士（医学）

保健学研究科

博士（保健学）

博士（看護学）

国際協力研究科

博士（学術）

（単位認定書の交付）

第28条 博士後期課程及び医学研究科博士課程において、在学期間中に所定の単位を修得したが、学位論文の提出に至らなかった者は、単位認定書の交付を受けるこ

第3類（杏林大学大学院学則）

とができる。

第7章 入学・休学・復学・退学及び転学

（入学の時期）

第29条 入学の時期は各学年の始めとする。

（入学の資格）

第30条 医学研究科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- （1）大学における医学、歯学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
- （2）大学における修業年限6年の薬学を履修する課程を卒業した者
- （3）文部科学大臣の指定した者
- （4）外国において、学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、獣医学又は薬学の課程であった者
- （5）医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程に4年以上在学し、又は外国において学校教育における医学、歯学、獣医学又は薬学を含む16年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと大学院が認めた者

2 保健学研究科及び国際協力研究科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- （1）大学を卒業した者
- （2）専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- （3）文部科学大臣の指定した者
- （4）外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- （5）大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得した者と大学院が認めた者
- （6）その他第1号に該当する者と同等以上の学力があると、大学院が認めた者で22歳に達したもの

3 保健学研究科及び国際協力研究科の博士後期課程に入学（本学前期課程からの進学及び他大学大学院からの入学）する資格のある者は、修士の学位を有する者、文部科学大臣の指定した者、又はそれと同等以上の学力があると、大学院が認めた者で24歳に達したものとする。

（入学出願）

第31条 入学を志願する者は、別に定める入学検定料を添えて、所定の入学願書を提出しなければならない。

（入学許可者の選考）

第32条 入学は、志願者の学力、人物、健康等について選考のうえこれを許可する。

（入学手続）

第33条 入学の許可を受けた者は、所定の期日までに所定の学納金を添えて誓約書を提出しなければならない。

（休学）

第34条 疾病その他やむを得ない事由のため、3月以上修学できないときは、学長に願い出て休学をすることができる。この場合、その事由が病気であるときは、医

第3類（杏林大学大学院学則）

師の診断書を添付しなければならない。

- 2 休学の期間は1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事情があると認められるときは、さらに1年を限り延長することができる。

第35条 疾病のために修学することが適当でない認められる者に対しては、学長は研究科委員会の議を経て、休学を命ずることができる。

（復学）

第36条 休学の期間中であっても、その事由が消滅したときは、学長に願い出て復学することができる。この場合、休学の事由が病気であるときは、本学付属病院の医師の診断書を添付しなければならない。

第37条 休学の期間は、第13条の修業年限に算入しない。

（退学）

第38条 疾病その他の事由により、退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署のうえ当該研究科長を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。この場合、退学の事由が疾病によるときは、医師の診断書を添付しなければならない。ただし、死亡の場合は、死亡診断書等の確認により、死亡した日をもって退学とする。

（再入学）

第39条 前条により退学した者で、退学の事由が消滅し、再び入学を願い出る者があるときは、当該研究科委員会の議を経て、これを許可することができる。

- 2 退学により再入学までの期間は本学学則第37条の規定に準ずる。

（転学）

第40条 他の大学院から本大学院に転入学を志願する者については、選考のうえこれを許可することができる。この場合、他の大学院において修得した単位及び在学年数は本大学院における単位及び在学年数として、これを換算することができる。

- 2 本大学院から他の大学院に転学を志願する者は、主科目担当教授を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。

（教職課程）

第40条の2 大学院に教職課程を置く。

（教育職員免許取得に必要な科目及び単位数）

第40条の3 教育職員免許を得ようとする者は、別に定める大学院教職課程履修規程及び教育職員免許法並びに同法施行規則の定めるところに従い、それぞれ所定の科目及び単位を修得しなければならない。

（免許状の種類及び履修研究科・専攻）

第40条の4 前条に規定する単位を修得することによって得られる免許状の種類並びに履修する研究科・専攻は次のとおりとする。

履修する研究科・専攻	免許状の種類	
保健学研究科 保健学専攻	養護教諭 専修免許状	養護
	中学校教諭 専修免許状	保健
	高等学校教諭 専修免許状	保健

第3類（杏林大学大学院学則）

第8章 除籍及び懲戒

（除籍）

第41条 次の各号の一に該当する者は、当該研究科委員会の議を経て学長がこれを除籍する。

- (1) 故なくして、3月以上授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第34条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 第13条に定める在学年限を超える者
- (4) 行方不明で失踪の届出のあった者

（懲戒）

第42条 本学の建学精神、教育方針に違背し、大学院学生としてふさわしくない行為をした者は、当該研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒は、その軽重に応じ、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みのないと認められる者
- (2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者
- (3) 正当の理由がなくて、出席常でない者
- (4) 本学の定める諸規程に反し、又は学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9章 学納金

（入学検定料、入学料等の額）

第43条 本学に入学を志願する者は、別に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 入学料、授業料その他の学納金の額については、別表4のとおりとする。

（授業料等の納入）

第44条 授業料、施設設備費は、それぞれの年額の半額を前期、後期の始業時まで

に納入するものとする。

2 休学又は停学中であっても、授業料等は徴収する。ただし、休学の期間が6か月以上にわたる者の授業料その他の学納金については別に定めるところにより、減免することがある。

3 海外留学する場合、本学に納入すべき費用については別に定める。

4 第2項の規定にかかわらず、国際協力研究科に在籍する者で企業等に在職中の者が企業等の都合により第16条に規定する1学期間にわたり休学する場合は、授業料等は徴収しない。

5 前項の規定により休学する者は、企業等の所属長による休学の事由書を添付の上、学長に休学を願い出るものとする。ただし、授業料等を徴収しない休学の期間は、1年を超えることはできない。

6 授業料等学納金を所定の期日までに納入しない者は、授業への出席、図書の閲覧その他施設の利用を認めない。

第45条 授業料その他既納の学納金は、いかなる理由があっても還付しない。

第46条 削除

第3類（杏林大学大学院学則）

第10章 外国人特別生、科目等履修生、聴講生、特別聴講生、委託生及び研究生

（外国人特別生）

第47条 大学院に入学を希望する外国人で、外務省在外公館又は自国公館の紹介ある者は、第32条の規定にかかわらず選考のうえ、外国人特別生として入学を許可することができる。

（科目等履修生）

第47条の2 本大学院の学生以外の者で本大学院の授業科目の一部を履修することを希望する者がいるときは、教育研究上支障がない限り、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生となることができる者は、次の各号の一に該当する者でその学力を考査し、履修する科目を理解するに足る学力があると当該研究科委員会が認めた者に限るものとする。

（1）修業年限4年以上の大学を卒業した者

（2）前号と同等以上の学力があると認められた者

3 科目等履修生には本学則を準用する。

4 科目等履修生には第23条及び第24条の定めにより所定の単位を与える。

5 科目等履修生を希望する者の手続並びに選考料、登録料及び履修料については別に定める。

（聴講生）

第48条 特定の学科目の聴講を志願するものがあるときは、当該研究科委員会において、その学力を考査し、欠員のある場合に限り聴講を許可することができる。

2 聴講生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）修業年限4年以上の大学を卒業した者

（2）前号と同等以上の学力があると認められた者

3 聴講生を志願する者の手続並びに選考料、登録料及び聴講料については別に定める。

4 大学院は、他大学大学院との協議に基づき、他大学大学院の学生で本大学院の授業科目を履修する者を特別聴講生として受け入れることができる。この特別聴講生については別に定める。

（委託生）

第49条 公共団体又は他の大学大学院生等でその公共団体又はその大学大学院の委託によって、大学院研究科における授業科目のなかで聴講を希望する者がいるときは、欠員のある場合に限り当該研究科委員会の議を経た上で修学を許可することができる。

2 委託生が、聴講科目の試験に合格したときはその授業科目の修了証を授与する。

3 委託生を希望する者の手続並びに選考料、登録料及び聴講料は別に定める。

（研究生）

第49条の2 大学院に研究生をおくことができる。

2 研究生に関し必要な事項は別に定める。

第11章 研究指導施設

第3類（杏林大学大学院学則）

（研究指導施設）

第50条 大学院に研究室、実験実習室を設ける。

2 学生は、必要に応じ図書館、各学部の施設、医学部附属病院及び医学部附属杉並病院の施設を使用するものとする。

第12章 雑則

（改正）

第51条 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の研究科に係る場合は当該研究科の研究科委員会に、2つ以上の研究科に関連する場合は関連する各研究科の研究科委員会に諮り、いずれも研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会及び理事会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則に定めるもののほか、大学院学生については本学学則を準用する。
- 2 本学則を改正しようとするときは、研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会の承認を得なければならない。
- 3 前項の学則の改正については、理事会の承認を要する。
- 4 本学則は、昭和51年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和54年 4月 1日から施行し、既に在学している学生にも適用する。

附 則

本学則は、昭和57年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和59年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和61年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成 5年 4月 1日から施行する。
- 2 本学則を改正しようとするときは、改正事項が単一の研究科に係る場合は当該研究科の研究科委員会に、二つ以上の研究科に関連する場合は関連する各研究科の研究科委員会に諮り、いずれも研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会の承認を得なければならない。

別表1

別表2

別表3

別表4

附 則

第3類（杏林大学大学院学則）

本学則は、平成 6年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 7年 4月 1日から施行する。ただし、第30条第2項第4号の改正規定は、平成 6年 8月10日から施行する。

附 則

本学則は、平成 8年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 9年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成10年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成11年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成11年 7月 1日から施行する。
- 2 第43条第1項は、平成12年度入学志願者から適用する。

附 則

本学則は、平成12年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。ただし、別表3（1）の専攻共通科目中の事例研究については平成12年10月 1日から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-2の授業科目は、平成13年度以降の入学生から適用するものとし、別表3-1の授業科目は、平成12年度以前の入学生に適用する。
- 3 博士前期課程において平成12年度以前の入学生は、国際協力研究科博士前期課程履修規程に定める授業科目対応表により別表3-2の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表3-1の授業科目で行う。

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年10月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-3の授業科目は、平成16年度以降の入学生から適用する。

附 則

第3類（杏林大学大学院学則）

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-3（2）の授業科目は、平成15年度以前の入学生にも適用する。

附 則

本学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第43条（別表4）及び第44条については、平成18年 4月 1日以降の入学生から適用し、平成17年10月 1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。ただし、第49条の2の規定は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 別表2-2及び2-3の授業科目は、平成20年度以降の入学生から適用するものとし、別表2-1の授業科目は、平成19年度以前の入学生に適用する。

附 則

本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第14条、第18条、第27条の2及び第43条（別表4）の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。
（経過措置）

第3類（杏林大学大学院学則）

- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表2-4及び2-5の授業科目は、平成24年度以降の入学生から適用するものとし、別表2-1、2-2、2-3の授業科目は、平成23年度以前の入学生に適用する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表2-6の授業科目は、平成25年度以降の入学生から適用するものとし、平成24年度以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、平成25年9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成27年4月1日以降の入学生に適用し、平成26年 9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表3-4の授業科目は、平成28年4月1日以降の入学生から適用するものとし、平成27年 9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

第3類（杏林大学大学院学則）

附 則

本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成31年 4月 1日より施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第4条、第4条の2、第14条、第27条の2および別表3-4の規定は、平成31年4月1日以降の入学生に適用し、平成30年9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 4年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 4年 4月 1日より施行する。
（経過措置）
- 2 別表3-3の授業科目は、令和4年4月1日以降の入学生から適用するものとし、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、令和 5年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 5年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表2-4、2-5及び3-4の授業科目は、令和5年4月1日以降の入学生から適用するものとし、令和4年9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、令和 6年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学大学院学則）

別表1-2

医学研究科における授業科目及び単位
（平成27年度入学者から適用）

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生	器官構築学	肉眼解剖学 講義・演習	4
		肉眼解剖学 実験・実習	8
		顕微解剖学 講義・演習	4
		顕微解剖学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
		器官構築学 課題研究	8
		器官構築学 研究論文演習	4
理	病態生化学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
		病態生化学 課題研究	8
		病態生化学 研究論文演習	4
系	生体機能制御学	細胞生理学 講義・演習	4
		細胞生理学 実験・実習	8
		統合生理学 講義・演習	4
		統合生理学 実験・実習	8
		生体物理工学 講義・演習	4
		生体物理工学 実験・実習	8
		生体機能制御学 課題研究	8
		生体機能制御学 研究論文演習	4
系	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究	8
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4
病	病理学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究	8
		病理学 研究論文演習	4
系	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究	8
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 臨床検査医学 研究論文演習	4 8 8 4	
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習 社会医療情報学 実験・実習 社会医療情報学 課題研究 社会医療情報学 研究論文演習	4 8 8 4	
	法科学	法科学 講義・演習 法科学 実験・実習 法科学 課題研究 法科学 研究論文演習	4 8 8 4	
内科	内科学	呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 神経内科学 講義・演習 神経内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 内科学 課題研究 内科学 研究論文演習	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 8 4	
		脳卒中医学	脳卒中医学 講義・演習 脳卒中医学 実験・実習 脳卒中医学 課題研究 脳卒中医学 研究論文演習	4 8 8 4
		加齢医学	加齢医学 講義・演習 加齢医学 実験・実習 加齢医学 課題研究 加齢医学 研究論文演習	4 8 8 4

第3類 (杏林大学大学院学則)

内	総合医療学	総合医療学 講義・演習	4	
		総合医療学 実験・実習	8	
		総合医療学 課題研究	8	
		総合医療学 研究論文演習	4	
小児科学	小児科学	小児科学 講義・演習	4	
		小児科学 実験・実習	8	
		小児科学 課題研究	8	
		小児科学 研究論文演習	4	
精神神経科学	精神神経科学	精神神経科学 講義・演習	4	
		精神神経科学 実験・実習	8	
		精神神経科学 課題研究	8	
		精神神経科学 研究論文演習	4	
皮膚科学	皮膚科学	皮膚科学 講義・演習	4	
		皮膚科学 実験・実習	8	
		皮膚科学 課題研究	8	
		皮膚科学 研究論文演習	4	
放射線医学	放射線医学	放射線医学 講義・演習	4	
		放射線医学 実験・実習	8	
		放射線医学 課題研究	8	
		放射線医学 研究論文演習	4	
外	外科学	消化器・一般外科学 講義・演習	4	
		消化器・一般外科学 実験・実習	8	
		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	4	
		呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	8	
		乳腺外科学 講義・演習	4	
		乳腺外科学 実験・実習	8	
		外科学 課題研究	8	
		外科学 研究論文演習	4	
	救急医学	救急医学	救急医学 講義・演習	4
			救急医学 実験・実習	8
			救急医学 課題研究	8
			救急医学 研究論文演習	4
整形外科学	整形外科学	整形外科学 講義・演習	4	
		整形外科学 実験・実習	8	
		リハビリテーション医学 講義・演習	4	
		リハビリテーション医学 実験・実習	8	
		整形外科学 課題研究	8	
		整形外科学 研究論文演習	4	

第3類 (杏林大学大学院学則)

外	脳神経外科学	脳神経外科学 講義・演習	4
		脳神経外科学 実験・実習	8
		脳神経外科学 課題研究	8
		脳神経外科学 研究論文演習	4
心臓血管外科学	心臓血管外科学	心臓血管外科学 講義・演習	4
		心臓血管外科学 実験・実習	8
		心臓血管外科学 課題研究	8
		心臓血管外科学 研究論文演習	4
産科婦人科学	産科婦人科学	産科婦人科学 講義・演習	4
		産科婦人科学 実験・実習	8
		産科婦人科学 課題研究	8
		産科婦人科学 研究論文演習	4
眼 科 学	眼 科 学	眼 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		眼 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		眼 科 学 課 題 研 究	8
		眼 科 学 研 究 論 文 演 習	4
科 耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		耳 鼻 咽 喉 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 課 題 研 究	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 研 究 論 文 演 習	4
泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		泌 尿 器 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		泌 尿 器 科 学 課 題 研 究	8
		泌 尿 器 科 学 研 究 論 文 演 習	4
麻 酔 科 学	麻 酔 科 学	麻 酔 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		麻 酔 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		麻 酔 科 学 課 題 研 究	8
		麻 酔 科 学 研 究 論 文 演 習	4
小 児 外 科 学	小 児 外 科 学	小 児 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		小 児 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		小 児 外 科 学 課 題 研 究	8
		小 児 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
系 形 成 外 科 学	形 成 外 科 学	形 成 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		形 成 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		形 成 外 科 学 課 題 研 究	8
		形 成 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
専 攻 共 通 科 目		基 礎 臨 床 共 通 講 義 I	4
		基 礎 臨 床 共 通 講 義 II	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表1-3

医学研究科における授業科目及び単位
（平成31年度入学者から適用）

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生	器官構築学	肉眼解剖学 講義・演習	4
		肉眼解剖学 実験・実習	8
		顕微解剖学 講義・演習	4
		顕微解剖学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
		器官構築学 課題研究	8
		器官構築学 研究論文演習	4
理	病態生化学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
		病態生化学 課題研究	8
		病態生化学 研究論文演習	4
系	生体機能制御学	病態生理学 講義・演習	4
		病態生理学 実験・実習	8
		統合生理学 講義・演習	4
		統合生理学 実験・実習	8
		生体物理工学 講義・演習	4
		生体物理工学 実験・実習	8
		生体機能制御学 課題研究	8
		生体機能制御学 研究論文演習	4
系	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究	8
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4
病	病理学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究	8
		病理学 研究論文演習	4
系	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究	8
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 臨床検査医学 研究論文演習	4 8 8 4	
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習 社会医療情報学 実験・実習 社会医療情報学 課題研究 社会医療情報学 研究論文演習	4 8 8 4	
	法科学	法科学 講義・演習 法科学 実験・実習 法科学 課題研究 法科学 研究論文演習	4 8 8 4	
内科	内科学	呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 神経内科学 講義・演習 神経内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 内科学 課題研究 内科学 研究論文演習	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 8 4	
		脳卒中医学	脳卒中医学 講義・演習 脳卒中医学 実験・実習 脳卒中医学 課題研究 脳卒中医学 研究論文演習	4 8 8 4
		加齢医学	加齢医学 講義・演習 加齢医学 実験・実習 加齢医学 課題研究 加齢医学 研究論文演習	4 8 8 4

第3類 (杏林大学大学院学則)

内	総合医療学	総合医療学 講義・演習	4	
		総合医療学 実験・実習	8	
		総合医療学 課題研究	8	
		総合医療学 研究論文演習	4	
小児科学	小児科学	小児科学 講義・演習	4	
		小児科学 実験・実習	8	
		小児科学 課題研究	8	
		小児科学 研究論文演習	4	
精神神経科学	精神神経科学	精神神経科学 講義・演習	4	
		精神神経科学 実験・実習	8	
		精神神経科学 課題研究	8	
		精神神経科学 研究論文演習	4	
皮膚科学	皮膚科学	皮膚科学 講義・演習	4	
		皮膚科学 実験・実習	8	
		皮膚科学 課題研究	8	
		皮膚科学 研究論文演習	4	
放射線医学	放射線医学	放射線医学 講義・演習	4	
		放射線医学 実験・実習	8	
		放射線医学 課題研究	8	
		放射線医学 研究論文演習	4	
外	外科学	消化器・一般外科学 講義・演習	4	
		消化器・一般外科学 実験・実習	8	
		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	4	
		呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	8	
		乳腺外科学 講義・演習	4	
		乳腺外科学 実験・実習	8	
		外科学 課題研究	8	
		外科学 研究論文演習	4	
	救急医学	救急医学	救急医学 講義・演習	4
			救急医学 実験・実習	8
			救急医学 課題研究	8
			救急医学 研究論文演習	4
整形外科学	整形外科学	整形外科学 講義・演習	4	
		整形外科学 実験・実習	8	
		リハビリテーション医学 講義・演習	4	
		リハビリテーション医学 実験・実習	8	
		整形外科学 課題研究	8	
		整形外科学 研究論文演習	4	
系				

第3類 (杏林大学大学院学則)

外	脳 神 経 外 科 学	脳 神 経 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		脳 神 経 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		脳 神 経 外 科 学 課 題 研 究	8
		脳 神 経 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
心 臓 血 管 外 科 学	心 臓 血 管 外 科 学	心 臓 血 管 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		心 臓 血 管 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		心 臓 血 管 外 科 学 課 題 研 究	8
		心 臓 血 管 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
産 科 婦 人 科 学	産 科 婦 人 科 学	産 科 婦 人 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		産 科 婦 人 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		産 科 婦 人 科 学 課 題 研 究	8
		産 科 婦 人 科 学 研 究 論 文 演 習	4
眼 科 学	眼 科 学	眼 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		眼 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		眼 科 学 課 題 研 究	8
		眼 科 学 研 究 論 文 演 習	4
耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		耳 鼻 咽 喉 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 課 題 研 究	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 研 究 論 文 演 習	4
泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		泌 尿 器 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		泌 尿 器 科 学 課 題 研 究	8
		泌 尿 器 科 学 研 究 論 文 演 習	4
麻 酔 科 学	麻 酔 科 学	麻 酔 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		麻 酔 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		麻 酔 科 学 課 題 研 究	8
		麻 酔 科 学 研 究 論 文 演 習	4
小 児 外 科 学	小 児 外 科 学	小 児 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		小 児 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		小 児 外 科 学 課 題 研 究	8
		小 児 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
系 形 成 外 科 学	形 成 外 科 学	形 成 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		形 成 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		形 成 外 科 学 課 題 研 究	8
		形 成 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
専 攻 共 通 科 目		基 礎 臨 床 共 通 講 義 I	4
		基 礎 臨 床 共 通 講 義 II	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表 1 - 4

医学研究科における授業科目及び単位
（令和4年度入学者からの適用）

科目区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
科目共通	特 別 研 究	8	
	医 学 研 究 講 義 I	4	
	医 学 研 究 講 義 II	2	
専門科目	脳 神 経 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	脳 神 経 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	脳 神 経 内 科 学 課 題 研 究		8
	呼 吸 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	呼 吸 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	呼 吸 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 課 題 研 究		8
	循 環 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	循 環 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	循 環 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	血 液 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	血 液 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	血 液 内 科 学 課 題 研 究		8
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 課 題 研 究		8
	消 化 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	消 化 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	消 化 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	腫 瘍 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	腫 瘍 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	腫 瘍 内 科 学 課 題 研 究		8
	高 齢 医 学 講 義 ・ 演 習		4
	高 齢 医 学 実 験 ・ 実 習		4
	高 齢 医 学 課 題 研 究		8
	精 神 神 経 科 学 講 義 ・ 演 習		4
精 神 神 経 科 学 実 験 ・ 実 習		4	
精 神 神 経 科 学 課 題 研 究		8	

第3類（杏林大学大学院学則）

小 児 科 学	講義・演習	4
小 児 科 学	実験・実習	4
小 児 科 学	課題研究	8
消化器・一般外科学	講義・演習	4
消化器・一般外科学	実験・実習	4
消化器・一般外科学	課題研究	8
呼吸器・甲状腺外科学	講義・演習	4
呼吸器・甲状腺外科学	実験・実習	4
呼吸器・甲状腺外科学	課題研究	8
乳 腺 外 科 学	講義・演習	4
乳 腺 外 科 学	実験・実習	4
乳 腺 外 科 学	課題研究	8
小 児 外 科 学	講義・演習	4
小 児 外 科 学	実験・実習	4
小 児 外 科 学	課題研究	8
救 急 医 学	講義・演習	4
救 急 医 学	実験・実習	4
救 急 医 学	課題研究	8
脳 神 経 外 科 学	講義・演習	4
脳 神 経 外 科 学	実験・実習	4
脳 神 経 外 科 学	課題研究	8
心 臓 血 管 外 科 学	講義・演習	4
心 臓 血 管 外 科 学	実験・実習	4
心 臓 血 管 外 科 学	課題研究	8
整 形 外 科 学	講義・演習	4
整 形 外 科 学	実験・実習	4
整 形 外 科 学	課題研究	8
皮 膚 科 学	講義・演習	4
皮 膚 科 学	実験・実習	4
皮 膚 科 学	課題研究	8
形 成 外 科 学	講義・演習	4
形 成 外 科 学	実験・実習	4
形 成 外 科 学	課題研究	8
泌 尿 器 科 学	講義・演習	4
泌 尿 器 科 学	実験・実習	4
泌 尿 器 科 学	課題研究	8
眼 科 学	講義・演習	4
眼 科 学	実験・実習	4

第3類（杏林大学大学院学則）

眼	科	学	課 題 研 究	8
耳	鼻 咽 喉 科	学	講 義 ・ 演 習	4
耳	鼻 咽 喉 科	学	実 験 ・ 実 習	4
耳	鼻 咽 喉 科	学	課 題 研 究	8
産 科	婦 人 科	学	講 義 ・ 演 習	4
産 科	婦 人 科	学	実 験 ・ 実 習	4
産 科	婦 人 科	学	課 題 研 究	8
放 射	線 医 学		講 義 ・ 演 習	4
放 射	線 医 学		実 験 ・ 実 習	4
放 射	線 医 学		課 題 研 究	8
放 射	線 腫 瘍 学		講 義 ・ 演 習	4
放 射	線 腫 瘍 学		実 験 ・ 実 習	4
放 射	線 腫 瘍 学		課 題 研 究	8
麻 醉	科	学	講 義 ・ 演 習	4
麻 醉	科	学	実 験 ・ 実 習	4
麻 醉	科	学	課 題 研 究	8
臨 床	検 査 医 学		講 義 ・ 演 習	4
臨 床	検 査 医 学		実 験 ・ 実 習	4
臨 床	検 査 医 学		課 題 研 究	8
総 合	医 療 学		講 義 ・ 演 習	4
総 合	医 療 学		実 験 ・ 実 習	4
総 合	医 療 学		課 題 研 究	8
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		講 義 ・ 演 習	4
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		実 験 ・ 実 習	4
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		課 題 研 究	8
脳 卒 中	医 学		講 義 ・ 演 習	4
脳 卒 中	医 学		実 験 ・ 実 習	4
脳 卒 中	医 学		課 題 研 究	8
肉 眼	解 剖 学		講 義 ・ 演 習	4
肉 眼	解 剖 学		実 験 ・ 実 習	4
肉 眼	解 剖 学		課 題 研 究	8
顕 微	解 剖 学		講 義 ・ 演 習	4
顕 微	解 剖 学		実 験 ・ 実 習	4
顕 微	解 剖 学		課 題 研 究	8
統 合	生 理 学		講 義 ・ 演 習	4
統 合	生 理 学		実 験 ・ 実 習	4
統 合	生 理 学		課 題 研 究	8
病 態	生 理 学		講 義 ・ 演 習	4

第3類（杏林大学大学院学則）

病態生理学	実験・実習	4
病態生理学	課題研究	8
代謝生化学	講義・演習	4
代謝生化学	実験・実習	4
代謝生化学	課題研究	8
細胞生化学	講義・演習	4
細胞生化学	実験・実習	4
細胞生化学	課題研究	8
薬理学	講義・演習	4
薬理学	実験・実習	4
薬理学	課題研究	8
病理学	講義・演習	4
病理学	実験・実習	4
病理学	課題研究	8
感染症学	講義・演習	4
感染症学	実験・実習	4
感染症学	課題研究	8
衛生学・公衆衛生学	講義・演習	4
衛生学・公衆衛生学	実験・実習	4
衛生学・公衆衛生学	課題研究	8
法医学	講義・演習	4
法医学	実験・実習	4
法医学	課題研究	8
発生・遺伝学	講義・演習	4
発生・遺伝学	実験・実習	4
発生・遺伝学	課題研究	8
生体物理工学	講義・演習	4
生体物理工学	実験・実習	4
生体物理工学	課題研究	8
分子機能生化学	講義・演習	4
分子機能生化学	実験・実習	4
分子機能生化学	課題研究	8

第3類（杏林大学大学院学則）

別表4

授業料その他の学納金

学生区分	学納金等区分	医学研究科	保健学研究科				国際協力研究科	
		博士課程	博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程	博士後期課程
			保健学 専攻・ 臨床心理学 専攻	看護学 専攻	保健学 専攻	看護学 専攻		
大学院生	※入 学 料	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
	授業料(年額)	600,000円	500,000円	800,000円	500,000円	600,000円	450,000円	450,000円
	施設設備費(初年度)	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円

※ 本学の学部卒業生及び大学院修了者が入学する場合には、入学料を免除する。

○杏林大学大学院医学研究科履修規程

制定	平成 7年 3月 27日	
改正	平成 11年 11月 17日	平成 13年 10月 22日
	平成 21年 2月 16日	平成 21年 11月 16日
	平成 25年 3月 25日	令和 4年 4月 20日

（目的）

第1条 医学研究科の履修は、杏林大学大学院学則（以下「学則」という。）によるもののほか、必要と認める事項について本規程で定めることを目的とする。

（コースおよび授業科目）

第2条 学則第4条に定める専攻にコースを置き、学生はコースのいずれかに所属し、定められた授業科目を履修する。

2 学則第21条に定める主科目は、所属するコースの授業科目及び特別研究とする。副科目は、所属するコース以外の授業科目及び医学研究講義Ⅰ並びに医学研究講義Ⅱとする。

3 第1項に定めるコース及び前項に定める授業科目並びにその英語表記は、別表1の通りとする。

（所要単位）

第3条 学則第26条の2第1号に規定する修了に必要な単位数は、次の各号に定める単位を含め30単位以上修得するものとする。

（1）主科目は24単位を必修とする。

（2）副科目のうち、医学研究講義Ⅰおよび医学研究講義Ⅱ 計6単位を必修とする。

（履修方法）

第4条 学則第20条に基づき、学生は指導教授の指示をうけ、指定された期日までに履修計画を研究科長に提出し、主科目及び副科目を履修し、必要な研究指導を受ける。

2 学則第22条第2項に基づき、指導教授が研究指導上有益と認めた場合には、医学研究科委員会の議を経て、他の研究科又は他大学院等の授業科目を履修させ、15単位を超えない範囲で認定することができる。

3 学則第22条第3項に基づく他の大学院での既修得単位については、医学研究科委員会で適当と判断された場合に限り、15単位を超えない範囲で認定することができる。

4 前2項の規定により認定できる単位数は合わせて20単位を超えないものとし、当該単位数と修得に要した期間等を勘案して、1年を超えない範囲で本学の在学期間として算入することができる。

5 第2項および第3項により修得した単位を本研究科の授業科目の単位として認定を受けようとするときは、単位認定申請書および必要書類を提出し、医学研究科委員会の議を経て、研究科長の承認を得なければならない。

6 指導教授が研究指導上有益と認めた場合には、医学研究科委員会の議を経て、国内外の大学又は研究施設等において必要な研究指導を受けさせることができる。

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

（成績評価）

第5条 履修科目の総合判定は、S、A、B、C、Dの5段階の評語で示す。

2 前項の各評語は、総合判定を100点とした場合、Sが90点以上、Aが80点以上90点未満、Bが70点以上80点未満、Cが60点以上70点未満、Dが60点未満を意味し、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

3 単位認定を受けた科目の評語はN（英文証明書の評語はP）とする。

（GPA）

第5条の2 前条の成績の評価（単位認定科目は除く）に対して次項によるグレード・ポイント（以下「GP」という。）を設定し、下記の計算式によりGPの平均（以下「GPA」という。）を算出する。

$$GPA = \{(\text{各学期の評価を受けた科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数})\} \text{の累計} / (\text{各学期配当の履修登録の単位数の合計}) \text{の累計}$$

2 成績の評価に対するGPは、Sが4点、Aが3点、Bが2点、Cが1点、Dが0点とする。

（単位計算方法）

第6条 医学専攻の授業科目の単位については、学則別表の定めるところによる。

2 単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習については毎週1時間から2時間、15週の授業をもって1単位とする。

（2）実験・実習及び実技については毎週2時間から3時間、15週の授業をもって1単位とする。

（コースの変更）

第7条 研究の進展等により在学中にコースの変更を希望する者は当該指導教授の許可を得た上で医学研究科委員会の議を経てこれを許可する。

2 この場合、変更後の修学年限については医学研究科委員会の議を経るものとする。
（特別研究生等）

第8条 他の研究科の学生で、医学研究科の授業科目の履修を希望する者は、学則第47条の2に定める科目等履修生の規程を準用する。

2 学則第47条に定める以外の特別研究生の受入れについては、杏林大学大学院医学研究科特別研究生規程に従う。

（その他）

第9条 医学研究科の履修について学則及びこの規程にない事項は、すべて医学研究科委員会の定めに従うものとする。

附 則

この規程は、平成 7年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

附 則

この規程は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成22年 4月 1日から施行する。
- 2 この規程による改正後の第2条第2項及び第6条は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生については、改正前の規程を適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成25年 4月 1日から施行する。
- 2 この規程は、平成25年度以降の入学生に適用し、平成24年度以前の入学生については、改正前の規程を適用する。

附 則

- 1 この規程は、令和 4年 4月 1日から施行する。
- 2 この規程による改正後の第2条は、令和4年4月1日以降の入学生に適用し、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の以下の規程を適用する。

（専攻及び専門分野）

第2条 本研究科に次の専攻をおく。

生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系

- 2 各専攻の中に次の専門分野をおく。

生理系：器官構築学、病態生化学、生体機能制御学、分子細胞薬理学

病理系：病理学、感染症・熱帯病学、臨床検査医学

社会医学系：社会医療情報学、法科学

内科系：内科学、加齢医学、総合医療学、小児科学、精神神経科学、皮膚科学、放射線医学、脳卒中医学

外科系：外科学、救急医学、整形外科学、脳神経外科学、心臓血管外科学、産科婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学、麻酔科学、小児外科学、形成外科学

（授業科目の区分）

第3条 医学研究科の授業科目は、主科目及び副科目とする。

（1）主科目は、当該専門分野の授業科目とする。

（2）副科目は、前号以外の授業科目及び専攻共通科目とする

- 3 この規程による改正後の第3条は、令和4年4月1日以降の入学生に適用し、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の以下の規程を適用する。

（所要単位）

第6条 学則第26条の2第1項第1号に規定する修了に必要な単位数は、次の各号に定める単位を含め30単位以上修得するものとする。

（1）主科目は12単位以上を必修とする。

（2）専攻共通科目は6単位を必修とする。

- 4 この規程による改正後の第4条第1項は、令和4年4月1日以降の入学生に適用し、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の以下の規程を適用する。

（履修方法）

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

第4条 学生は、指導教授の指示又は許可により主科目、副科目並びに専攻共通科目を履修し、必要な研究指導を受ける。

2 学生は、指導教授の許可を得て必要に応じ他専攻の授業科目を副科目として履修することができる。

5 この規程による改正後の第6条第1項は、令和4年4月1日以降の入学生に適用し、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の以下の規程を適用する。

（単位計算方法）

第7条 各専攻の授業科目の単位については、学則別表の定めるところによる。

6 この規程による改正後の第7条は、令和4年4月1日以降の入学生に適用し、令和3年9月15日以前の入学生については、改正前の以下の規程を適用する。

（専攻及び専門分野の変更）

第8条 研究の進展等により在学中に専攻及び専門分野の変更を希望する者は当該指導教授の許可を得た上で医学研究科委員会の議を経てこれを許可する。

2 この場合、変更後の修学年限については医学研究科委員会の議を経るものとする。

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

別表 1

コース名	授業科目
脳神経内科学 (Neurology)	脳神経内科学講義・演習 (Neurology Lecture/ Seminar) 脳神経内科学実験・実習 (Neurology Laboratory/Practicum) 脳神経内科学課題研究 (Neurology Research)
呼吸器内科学 (Respiratory Medicine)	呼吸器内科学講義・演習 (Respiratory Medicine Lecture/ Seminar) 呼吸器内科学実験・実習 (Respiratory Medicine Laboratory/Practicum) 呼吸器内科学課題研究 (Respiratory Medicine Research)
腎臓・リウマチ膠原病内科学 (Nephrology& Rheumatology)	腎臓・リウマチ膠原病内科学講義・演習 (Nephrology& Rheumatology Lecture/ Seminar) 腎臓・リウマチ膠原病内科学実験・実習 (Nephrology& Rheumatology Laboratory/Practicum) 腎臓・リウマチ膠原病内科学課題研究 (Nephrology& Rheumatology Research)
循環器内科学 (Cardiovascular Medicine)	循環器内科学講義・演習 (Cardiovascular Medicine Lecture/ Seminar) 循環器内科学実験・実習 (Cardiovascular Medicine Laboratory/Practicum) 循環器内科学課題研究 (Cardiovascular Medicine Research)
血液内科学 (Hematology)	血液内科学講義・演習 (Hematology Lecture/ Seminar) 血液内科学実験・実習 (Hematology Laboratory/Practicum) 血液内科学課題研究 (Hematology Research)
糖尿病・内分泌・代謝内科学 (Diabetes, Endocrinology & Metabolism)	糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 (Diabetes, Endocrinology & Metabolism Lecture/ Seminar) 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 (Diabetes, Endocrinology & Metabolism Laboratory/Practicum) 糖尿病・内分泌・代謝内科学 課題研究 (Diabetes, Endocrinology & Metabolism Research)
消化器内科学 (Gastroenterology and Hepatology)	消化器内科学 講義・演習 (Gastroenterology and Hepatology Lecture/ Seminar) 消化器内科学 実験・実習 (Gastroenterology and Hepatology Laboratory/Practicum) 消化器内科学 課題研究 (Gastroenterology and Hepatology Research)
腫瘍内科学 (Medical Oncology)	腫瘍内科学 講義・演習 (Medical Oncology Lecture/ Seminar) 腫瘍内科学 実験・実習 (Medical Oncology Laboratory/Practicum) 腫瘍内科学 課題研究 (Medical Oncology Research)

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

高齢医学 (Geriatric Medicine)	高齢医学 講義・演習 (Geriatric Medicine Lecture/ Seminar) 高齢医学 実験・実習 (Geriatric Medicine Laboratory/Practicum) 高齢医学 課題研究 (Geriatric Medicine Research)
精神神経科学 (Neuropsychiatry)	精神神経科学 講義・演習 (Neuropsychiatry Lecture/ Seminar) 精神神経科学 実験・実習 (Neuropsychiatry Laboratory/Practicum) 精神神経科学 課題研究 (Neuropsychiatry Research)
小児科学 (Pediatrics)	小児科学 講義・演習 (Pediatrics Lecture/ Seminar) 小児科学 実験・実習 (Pediatrics Laboratory/Practicum) 小児科学 課題研究 (Pediatrics Research)
消化器・一般外科学 (Gastrointestinal & General Surgery)	消化器・一般外科学 講義・演習 (Gastrointestinal & General Surgery Lecture/ Seminar) 消化器・一般外科学 実験・実習 (Gastrointestinal & General Surgery Laboratory/Practicum) 消化器・一般外科学 課題研究 (Gastrointestinal & General Surgery Research)
呼吸器・甲状腺外科学 (General Thoracic & Thyroid Surgery)	呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習 (General Thoracic & Thyroid Surgery Lecture/ Seminar) 呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習 (General Thoracic & Thyroid Surgery Laboratory/Practicum) 呼吸器・甲状腺外科学 課題研究 (General Thoracic & Thyroid Surgery Research)
乳腺外科学 (Breast Surgery)	乳腺外科学 講義・演習 (Breast Surgery Lecture/ Seminar) 乳腺外科学 実験・実習 (Breast Surgery Laboratory/Practicum) 乳腺外科学 課題研究 (Breast Surgery Research)
小児外科学 (Pediatric Surgery)	小児外科学 講義・演習 (Pediatric Surgery Lecture/ Seminar) 小児外科学 実験・実習 (Pediatric Surgery Laboratory/Practicum) 小児外科学 課題研究 (Pediatric Surgery Research)
救急医学 (Acute Medicine)	救急医学 講義・演習 (Acute Medicine Lecture/ Seminar) 救急医学 実験・実習 (Acute Medicine Laboratory/Practicum) 救急医学 課題研究 (Acute Medicine Research)

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

脳神経外科学 (Neurosurgery)	脳神経外科学 講義・演習 (Neurosurgery Lecture/ Seminar) 脳神経外科学 実験・実習 (Neurosurgery Laboratory/Practicum) 脳神経外科学 課題研究 (Neurosurgery Research)
心臓血管外科学 (Cardiovascular Surgery)	心臓血管外科学 講義・演習 (Cardiovascular Surgery Lecture/ Seminar) 心臓血管外科学 実験・実習 (Cardiovascular Surgery Laboratory/Practicum) 心臓血管外科学 課題研究 (Cardiovascular Surgery Research)
整形外科 (Orthopedics)	整形外科 講義・演習 (Orthopedics Lecture/ Seminar) 整形外科 実験・実習 (Orthopedics Laboratory/Practicum) 整形外科 課題研究 (Orthopedics Research)
皮膚科学 (Dermatology)	皮膚科学 講義・演習 (Dermatology Lecture/ Seminar) 皮膚科学 実験・実習 (Dermatology Laboratory/Practicum) 皮膚科学 課題研究 (Dermatology Research)
形成外科学 (Plastic Surgery)	形成外科学 講義・演習 (Plastic Surgery Lecture/ Seminar) 形成外科学 実験・実習 (Plastic Surgery Laboratory/Practicum) 形成外科学 課題研究 (Plastic Surgery Research)
泌尿器科学 (Urology)	泌尿器科学 講義・演習 (Urology Lecture/ Seminar) 泌尿器科学 実験・実習 (Urology Laboratory/Practicum) 泌尿器科学 課題研究 (Urology Research)
眼科学 (Ophthalmology)	眼科学 講義・演習 (Ophthalmology Lecture/ Seminar) 眼科学 実験・実習 (Ophthalmology Laboratory/Practicum) 眼科学 課題研究 (Ophthalmology Research)
耳鼻咽喉科学 (Otorhinolaryngology)	耳鼻咽喉科学 講義・演習 (Otorhinolaryngology Lecture/ Seminar) 耳鼻咽喉科学 実験・実習 (Otorhinolaryngology Laboratory/Practicum) 耳鼻咽喉科学 課題研究 (Otorhinolaryngology Research)

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

産科婦人科学 (Obstetrics & Gynecology)	産科婦人科学 講義・演習 (Obstetrics & Gynecology Lecture/ Seminar) 産科婦人科学 実験・実習 (Obstetrics & Gynecology Laboratory/Practicum) 産科婦人科学 課題研究 (Obstetrics & Gynecology Research)
放射線医学 (Radiology)	放射線医学 講義・演習 (Radiology Lecture/ Seminar) 放射線医学 実験・実習 (Radiology Laboratory/Practicum) 放射線医学 課題研究 (Radiology Research)
放射線腫瘍学 (Radiation Oncology)	放射線腫瘍学 講義・演習 (Radiation Oncology Lecture/ Seminar) 放射線腫瘍学 実験・実習 (Radiation Oncology Laboratory/Practicum) 放射線腫瘍学 課題研究 (Radiation Oncology Research)
麻酔科学 (Anesthesiology)	麻酔科学 講義・演習 (Anesthesiology Lecture/ Seminar) 麻酔科学 実験・実習 (Anesthesiology Laboratory/Practicum) 麻酔科学 課題研究 (Anesthesiology Research)
臨床検査医学 (Laboratory Medicine)	臨床検査医学 講義・演習 (Laboratory Medicine Lecture/ Seminar) 臨床検査医学 実験・実習 (Laboratory Medicine Laboratory/Practicum) 臨床検査医学 課題研究 (Laboratory Medicine Research)
総合医療学 (General Medicine)	総合医療学 講義・演習 (General Medicine Lecture/ Seminar) 総合医療学 実験・実習 (General Medicine Laboratory/Practicum) 総合医療学 課題研究 (General Medicine Research)
リハビリテーション医学 (Physical Medicine and Rehabilitation)	リハビリテーション医学 講義・演習 (Physical Medicine and Rehabilitation Lecture/ Seminar) リハビリテーション医学 実験・実習 (Physical Medicine and Rehabilitation Laboratory/Practicum) リハビリテーション医学 課題研究 (Physical Medicine and Rehabilitation Research)
脳卒中医学 (Stroke and Cerebrovascular Medicine)	脳卒中医学 講義・演習 (Stroke and Cerebrovascular Medicine Lecture/ Seminar) 脳卒中医学 実験・実習 (Stroke and Cerebrovascular Medicine Laboratory/Practicum) 脳卒中医学 課題研究 (Stroke and Cerebrovascular Medicine Research)

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

肉眼解剖学 (Anatomy)	肉眼解剖学 講義・演習 (Anatomy Lecture/ Seminar) 肉眼解剖学 実験・実習 (Anatomy Laboratory/Practicum) 肉眼解剖学 課題研究 (Anatomy Research)
顕微解剖学 (Microscopic Anatomy)	顕微解剖学 講義・演習 (Microscopic Anatomy Lecture/ Seminar) 顕微解剖学 実験・実習 (Microscopic Anatomy Laboratory/Practicum) 顕微解剖学 課題研究 (Microscopic Anatomy Research)
統合生理学 (Integrative Physiology)	統合生理学 講義・演習 (Integrative Physiology Lecture/ Seminar) 統合生理学 実験・実習 (Integrative Physiology Laboratory/Practicum) 統合生理学 課題研究 (Integrative Physiology Research)
病態生理学 (Medical Physiology)	病態生理学 講義・演習 (Medical Physiology Lecture/ Seminar) 病態生理学 実験・実習 (Medical Physiology Laboratory/Practicum) 病態生理学 課題研究 (Medical Physiology Research)
代謝生化学 (Metabolism)	代謝生化学 講義・演習 (Metabolism Lecture/ Seminar) 代謝生化学 実験・実習 (Metabolism Laboratory/Practicum) 代謝生化学 課題研究 (Metabolism Research)
細胞生化学 (Cellular Biochemistry)	細胞生化学 講義・演習 (Cellular Biochemistry Lecture/ Seminar) 細胞生化学 実験・実習 (Cellular Biochemistry Laboratory/Practicum) 細胞生化学 課題研究 (Cellular Biochemistry Research)
薬理学 (Pharmacology)	薬理学 講義・演習 (Pharmacology Lecture/ Seminar) 薬理学 実験・実習 (Pharmacology Laboratory/Practicum) 薬理学 課題研究 (Pharmacology Research)
病理学 (Pathology)	病理学 講義・演習 (Pathology Lecture/ Seminar) 病理学 実験・実習 (Pathology Laboratory/Practicum) 病理学 課題研究 (Pathology Research)

第3類（杏林大学大学院医学研究科履修規程）

感染症学 (Infectious Diseases)	感染症学 講義・演習 (Infectious Diseases Lecture/ Seminar) 感染症学 実験・実習 (Infectious Diseases Laboratory/Practicum) 感染症学 課題研究 (Infectious Diseases Research)
衛生学・公衆衛生学 (Hygiene and Public Health)	衛生学・公衆衛生学 講義・演習 (Hygiene and Public Health Lecture/ Seminar) 衛生学・公衆衛生学 実験・実習 (Hygiene and Public Health Laboratory/Practicum) 衛生学・公衆衛生学 課題研究 (Hygiene and Public Health Research)
法医学 (Legal Medicine)	法医学 講義・演習 (Legal Medicine Lecture/ Seminar) 法医学 実験・実習 (Legal Medicine Laboratory/Practicum) 法医学 課題研究 (Legal Medicine Research)
発生・遺伝学 (Development & Genetics)	発生・遺伝学 講義・演習 (Development & Genetics Lecture/ Seminar) 発生・遺伝学 実験・実習 (Development & Genetics Laboratory/Practicum) 発生・遺伝学 課題研究 (Development & Genetics Research)
生体物理工学 (Biophysical Engineering)	生体物理工学 講義・演習 (Biophysical Engineering Lecture/ Seminar) 生体物理工学 実験・実習 (Biophysical Engineering Laboratory/Practicum) 生体物理工学 課題研究 (Biophysical Engineering Research)
分子機能生化学コース (Functional Molecular Biochemistry)	分子機能生化学 講義・演習 (Functional Molecular Biochemistry Lecture/ Seminar) 分子機能生化学 実験・実習 (Functional Molecular Biochemistry Laboratory/Practicum) 分子機能生化学 課題研究 (Functional Molecular Biochemistry Research)
共通科目	特別研究 (Thesis Research) 医学研究講義 I (Medical Research Lecture I) 医学研究講義 II (Medical Research Lecture II)

第3類（杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規）

○杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規

制定	昭和58年12月23日				
改正	平成4年11月1日	平成6年4月1日			
	平成9年1月1日	平成10年6月1日			
	平成11年8月1日	平成18年12月8日			
	平成20年4月1日	平成21年4月1日			
	平成21年11月6日	平成27年5月20日			
	平成28年3月9日	平成30年4月18日			
	令和3年4月21日	令和5年1月18日			

（主旨）

第1条 杏林大学大学院医学研究科（以下「研究科」という。）における学位論文の申請資格及び審査等については杏林大学大学院学則及び杏林大学学位規程（以下「学位規程」という。）に定めるもののほかこの内規による。

（課程による学位の申請）

第2条 研究科の博士課程履修者が、学位規程第8条第3項の規定により学位論文の申請を行う場合は指導教授の指示により次の各号の書類を提出するものとする。

- | | |
|------------------------|-----|
| (1) 学位論文 | 10部 |
| (2) 論文目録（様式2） | 10部 |
| (3) 学位論文要旨（様式3） | 10部 |
| (4) 履歴書（様式4） | 10部 |
| (5) 論文審査手数料払込控（銀行発行） | 1通 |
| (6) 単位取得表 | 1通 |
| (7) その他研究科委員会が必要と認める書類 | |

2 前項の書類のほか、申請者は必要に応じて主論文・副論文を提出することができる。この場合の提出部数は10部とする。

3 論文審査手数料は50,000円とする。

4 第1項に該当する学位論文は、未印刷公表であっても差し支えないものとする。ただし、学位を授与された日から1年以内にその論文を印刷公表しなければならない。（学位規則「文部省令第9条」による。）なお、公表された学位論文の別刷若しくは、フルテキストのPDFをデータで速やかに医学部事務課に提出すること。

（論文提出による学位の申請）

第3条 研究科の博士課程を経ない者が学位規程第9条第1項の規定により学位論文の申請を行う場合は、学位申請書に次の各号の書類及び第5項に規定した学位論文審査手数料を添え提出するものとする。

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 学位論文 | 10部 |
| (2) 主論文 | 10部 |
| (3) 副論文（1編以上） | 10部 |

第3類（杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規）

- | | |
|-------------------------------------|-----|
| (4) 論文目録（様式2） | 10部 |
| (5) 学位論文要旨（様式3） | 10部 |
| (6) 履歴書（様式4） | 10部 |
| (7) 写真（名刺型、半身脱帽、3ヵ月以内のもの） | 2枚 |
| (8) 戸籍抄本、外国人にあつてはこれに準ずるもの(3ヵ月以内のもの) | 1通 |
| (9) 推薦書（学位論文申請） | 1通 |
| (10) 論文審査手数料払込控（銀行発行） | 1通 |
| (11) その他研究科委員会が必要と認める書類 | |

2 第1項第1号に該当する学位論文は、論文の主要部分が申請者を主著者とする主論文として、査読制度のある極めて優れた学術雑誌にすでに公表されたもの、または受理され掲載が確定したものでなければならない。

3 第1項第3号に該当する副論文は、申請者が主著者となっている原著論文であり、かつ査読制度のある学術雑誌に公表されたもの又はその掲載証明書又は、学術雑誌からの「受理」を伝えるメールの写しが添付されたものでなければならない。

※ 学内者の場合、平成32年度から第1項第2号の適用とする。

※ 学内者の場合、ケースレポート2編を副論文とすることができる。

4 本学教員の指導によらない申請者の論文（以下「持込論文」という。）の受理に当たっては第1項の書類のほかに次の書類を追加して提出しなければならない。

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 最終卒業学校卒業証明書 | 1通 |
| (2) 研究指導者又は所属上長の推薦書 | 1通 |

5 論文審査手数料は次のとおりとする。

申請者区分		審査手数料
学内者	専任教育職員（助教以上）・医員	50万円
	臨床専修医	75万円
	非常勤講師	100万円
	医学研究生（在籍3年以上6年未満）	100万円
	医学研究生（在籍6年以上）	50万円
	本学において過去に3年以上の在職歴を有する者 ※	150万円
学外者（持込論文）		200万円

※「本学において過去に3年以上の在職歴を有する者」とは、申請時点で本学（杏林大学または杏林大学医学部付属病院）に身分を有さない者で、過去、本学において常勤もしくは非常勤の身分で週4日以上勤務を3年以上継続した者を指す。

6 大学院医学研究科教務委員会において学位申請要件に関わる予備審査を行い、大学院医学研究科運営委員会で学位申請を受理する。

（提出書類の書式等）

第4条 提出書類の書式は次のとおりとする。

第3類（杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規）

- (1) 書類はすべて縦A4版、横書きとする。
- (2) 論文目録、学位論文の要旨及び履歴書は様式2、3、4による。
- 2 学位論文は原則単著とする。共著論文は審議のうえ、受理を認めることがある。この場合、申請者が筆頭著者であることを原則とする。
- 3 学位論文には次の項目を記載しなければならない。
 - (1) 研究題目
 - (2) 所属名（大学、教室、研究所、病院診療科等）
 - (3) 著者氏名（共著者がある場合は共著者氏名）
 - (4) 主論文の掲載誌、巻、号、及び発行年月日（予定を含む。）
(審査要領)

第5条 論文審査は次の要領により実施する。

- (1) 学位規程第11条の学位論文審査委員は5名を原則とし、研究科委員会において指名される。そのうち1名は主査として審査委員会の取りまとめを行う。ただし、指導教授及び紹介教授は審査委員となることはできない。
- (2) 当研究科委員会が審査のため必要があると認めたときは、学外審査委員を審査委員会の委員として加えることができる。
- (3) 学位規程第11条の3により、審査委員会は公開制とする。
- (4) 学位規程第10条により、学長から審査の付託をされ、かつ次に掲げる論文審査委員が決定したときは、研究科長は学位申請者、論文題目、論文審査委員名を公表する。
- (5) 学位論文審査委員会は論文審査（試問を含む）を終了した場合、審査結果要旨を様式5に基づき作成し、研究科委員会に報告するものとする。
- (6) 研究科長は、研究科委員会が前号の報告に基づき合否を決定した場合、その結果を別に定める様式により学長に報告するものとする。
- (7) 学位論文審査委員会は別に定める審査基準により審査する。
(外国語試問)

第6条 研究科の博士課程を経ない者が学位申請を行う場合の学位規程第12条第3項に定める外国語は、英語とする。なお、外国人等については日本語に替えて医学研究科運営委員会において審査することがある。

- 2 外国語の試問は、春秋2回実施する。
- 3 医学に準ずる他の自然科学の博士号取得者が学位申請する場合、語学試問を免除することができるものとする。
- 4 外国語試問に係る受験料は一回の受験につき、10,000円とする。
(研究歴)

第7条 研究科の博士課程を経ないで学位論文審査を申請できる者は、原則として次の各号の一に該当する研究歴6年以上を有するものとする。

- (1) 大学の専任教育職員として研究に従事した期間
- (2) 大学等の附属病院において医員、専攻医、研修医等として研究に従事した期間

第3類（杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規）

- (3) 大学院に在学した期間
 - (4) 研究生として在学した期間
 - (5) 権威ある研究施設において専任職員として研究に従事した期間
 - (6) 医学研究科運営委員会が前各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間
- (倫理規則)

第8条 学位審査に係る教職員は、利害関係者から疑惑や不信を招くような金品を受け取ってはならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、大学院教務委員会の議を経て、医学研究科委員会の承認を受ける。

附 則

この内規は、昭和58年12月23日から施行する。

附 則

この内規は、平成4年11月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成9年1月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成10年6月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成11年8月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年12月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

第3類（杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規）

附 則

この内規は、平成30年 4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、令和 3年 4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、令和 5年 4月 1日から施行する。

杏林大学 校歌 COLLEGE SONG
作詞 池田 文雄 作曲 古関 裕而

1. 日の光

杏林の 花は薄紅(うすべに)
若き血は 真実(まこと)ひとすじ
奥深き 学びの道を
ねがい求めん

3. 風香る

信愛の 眼(まなこ)すずしく
もろ人の 生命(いのち)尊し
董奉の 恵の林
みのり仰がん
うみやまを はるか往くとも
ともしびを 明く照らさん

2. 雲流る

清澄(せいちょう)の 白き学舎
友よ師よ 縁(えにし)うるわし
日に新た 科学の英智
きわめ尽くさん

2025 年度
大学院医学研究科 大学院要項

(2025 年 4 月 1 日 発行)

編集・発行 杏林大学医学部事務課
〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2
TEL0422-47-5511